

次期大田区子ども・若者計画策定に向けた
区民意向調査報告書

令和7年3月

大田区

目 次

1.	調査内容	5
(1)	調査目的	5
(2)	調査期間と方法	5
(3)	調査対象	5
(4)	標本誤差	5
(5)	調査結果の見方	6
2.	集計結果	7
3.	「フラットおおた」におけるアンケート結果	79
4.	区民意向調査結果	90
(1)	フラットおおたヒアリング	90
(2)	こども・若者意見交換会	92
5.	調査結果の概要	94
(1)	自身の状況（問1）	94
(2)	生活環境（問1、5、6、7）	94
(3)	他者との関係（問4）	94
(4)	充実感（問3-1、3-2）	94
(5)	自己肯定感（問2）	94
(6)	成長・社会的自立（問8）	94
(7)	地域への愛着、関係性（問12、13）	95
(8)	区の青少年事業の認知、参加意欲（問14）	95
(9)	権利侵害の状況（問9-1）	95
(10)	非行・犯罪（問11）	95
(11)	悩みや心配事（問9-1～問9-6）	95
(12)	求める支援、施策（問10）	96
(13)	相談支援組織・機関に関する認知（問16-1、問16-2、問16-3）	96
(14)	情報収集、情報把握（問15）	96
(15)	自由回答（問17）	96
6.	計画策定の方向性及び深掘する視点	98
(1)	次期計画策定の方向性	98
(2)	計画策定時、深掘する視点	98
巻末資料	調査票	99

1. 調査内容

(1) 調査目的

本調査は、「次期大田区子ども・若者計画」の策定にあたり、大田区のこども・若者の育成・支援施策に関する意識やニーズ等を把握することを目的として実施した。

(2) 調査期間と方法

調査期間：郵送 令和6年11月1日（金）～11月20日（水）投函締切

WEB 令和6年11月1日（金）～11月24日（日）

調査方法：郵送による配布、郵送およびWEBによる回収、お礼を兼ねた締め切りの再案内ハガキを送付

(3) 調査対象

令和6年10月の大田区の住民基本台帳に基づき、15歳～39歳のこども・若者を無作為に抽出した。

対象	配布数	回答数	回収率	
			郵送回答数	WEB 回答数
15歳～39歳	3,000	758	205	553

(4) 標本誤差

アンケートの標本誤差は、以下の式で求めることができ、比率算出の基数、回答の比率によって誤差範囲が異なる。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合である。（定数1.96は、信頼率95%と設定した場合の定数である。）

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N：母集団数、n：サンプル数（有効回答数）、p：回答比率

この計算式に従って算出される本調査の標本誤差は以下のとおりとなる。

母集団	有効回答数	回答比率				
		90%または10%程度	80%または20%程度	70%または30%程度	60%または40%程度	50%程度
240,069	758	±2.13	±2.84	±3.26	±3.48	±3.55

※母集団は令和6年10月1日現在の大田区在住の15～39歳の人口である。

(5) 調査結果の見方

- 本文、図表において、調査票の設問文や選択肢は簡略化して表記することがある。
- 図・表中の N、調査数とは、調査の回答者の実数を表す。(無回答含む)
- 回答は N (調査数) を 100%とした百分率で算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、各比率の合計値と全体の比率、図表の比率の合計値として記載した本文の比率と図表に記載された数値の合計が一致しないことがある。
- 複数回答 (あてはまるものすべてに○) の比率の合計は、100%にならず、超えることもある。
- 程度を把握する設問については、例えば、「あてはまる」～「あてはまらない」(4 件法) であれば、「あてはまる」を 1.5、「どちらかといえばあてはまる」を 0.5、「どちらかといえばあてはまらない」を-0.5、「あてはまらない」を-1.5 として、その平均スコアを算出してグラフ右側に掲載した。また、複数の設問の平均値を全平均スコアとして算出している場合もある。

2. 集計結果

問 1-1 性別（単数回答）

男性 41.0%、女性 57.5%、その他 0.4%であった。

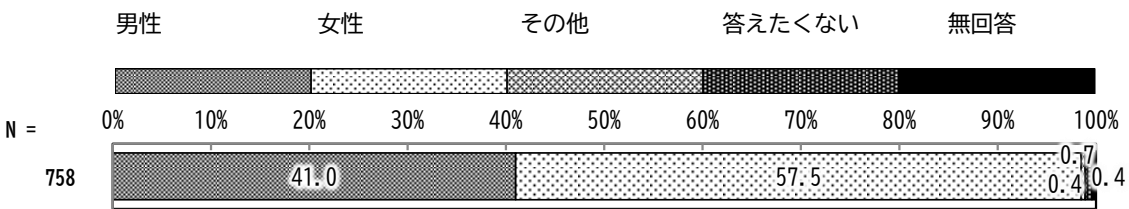


図 1-1

問 1-2 年齢（数字を記入）

回答者の年齢は下記の通り。5 歳毎の年齢階層の比較をすると、回答者が一番多かったのは 30～34 歳で 25.3%、次いで 25～29 歳で 25.2%であった。回答者が一番少なかったのは 15～19 歳で 10.9%であった。

調査数	年齢												
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳
758	18	15	18	14	18	20	25	28	20	37	47	42	36
100.0	2.4	2.0	2.4	1.8	2.4	2.6	3.3	3.7	2.6	4.9	6.2	5.5	4.7

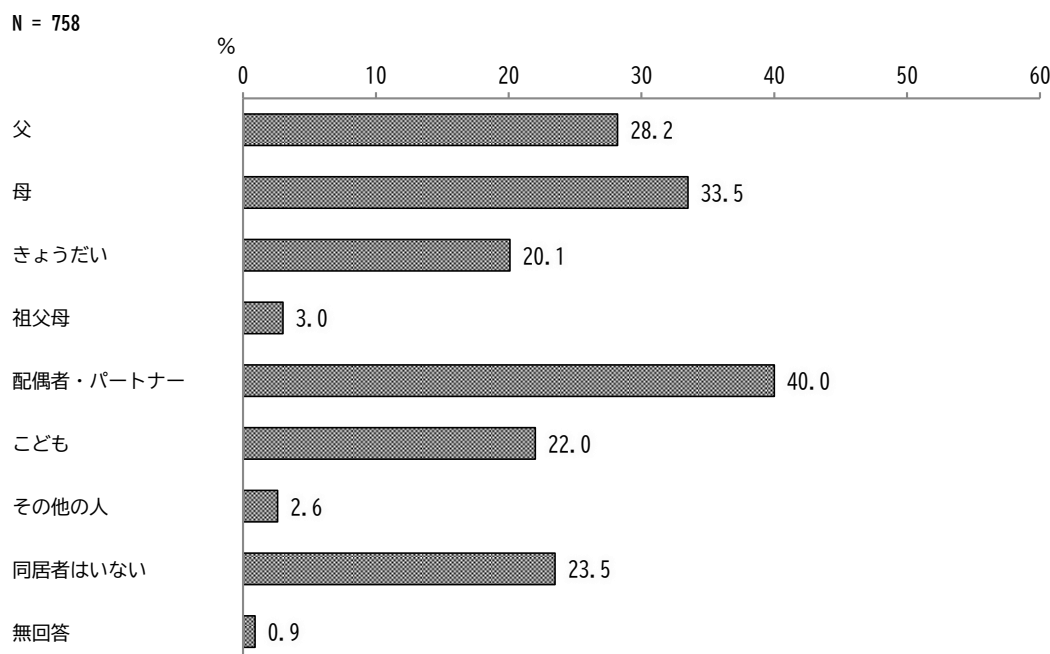
年齢													
28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	その他	無回答
34	32	40	42	41	27	42	32	25	39	30	23	1	12
4.5	4.2	5.3	5.5	5.4	3.6	5.5	4.2	3.3	5.1	4.0	3.0	0.1	1.6

調査数	年齢階層					
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	その他・無回答
758	83	130	191	192	149	13
100.0	10.9	17.2	25.2	25.3	19.7	1.7

図表 1-2

問 1-3 同居している方（複数回答）

配偶者・パートナーと同居している人が40.0%、次いで、母親が33.5%、父親が28.2%の順であった。ここから、家族構成を分析すると、単身は23.5%、夫婦と子どもが22.0%、夫婦のみが18.3%、それ以外の家族（以下「親と同居」と表記）が35.2%であった。



調査数	家族構成				
	単身	夫婦と子ども	夫婦のみ	親と同居	未記入
758	178	167	139	267	7
100.0	23.5	22.0	18.3	35.2	0.9

図 1-3

問 1-4 あなたの現在の仕事・就学状況（単数回答）

勤めている（正社員）が63.1%と最も多く、次いで勤めている（契約社員又はパート・アルバイト）が9.9%、短期大学・大学生が8.2%、中学校・高等学校・高等専門学校が7.9%であった。

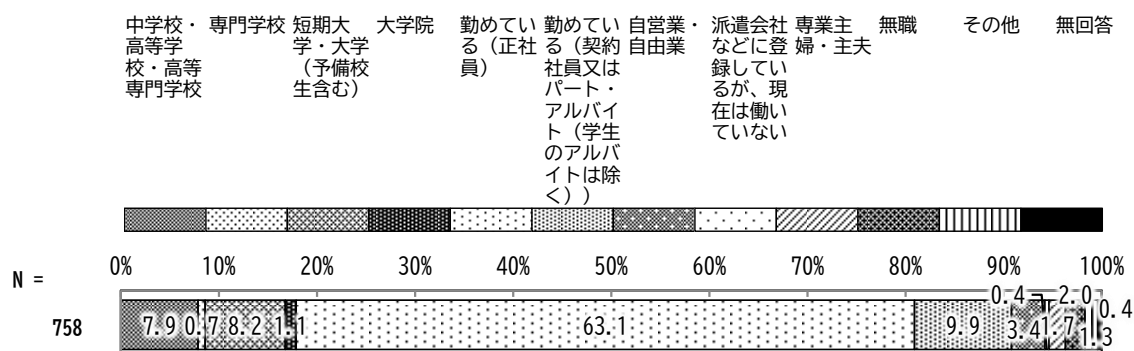


図 1-4

問 1-5 あなたの就業経験（単数回答）

「現在、就業している」が78.9%、次いで「これまでに就業経験が無い」が9.1%であった。

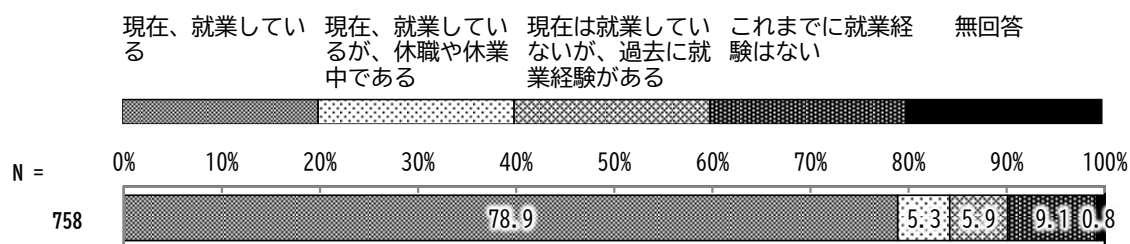


図 1-5

《中高生・学生を除く》

中高生・学生を除くと、「現在、就業している」が87.5%、次いで「現在、就業しているが、休職や休業中である」が6.1%であった。

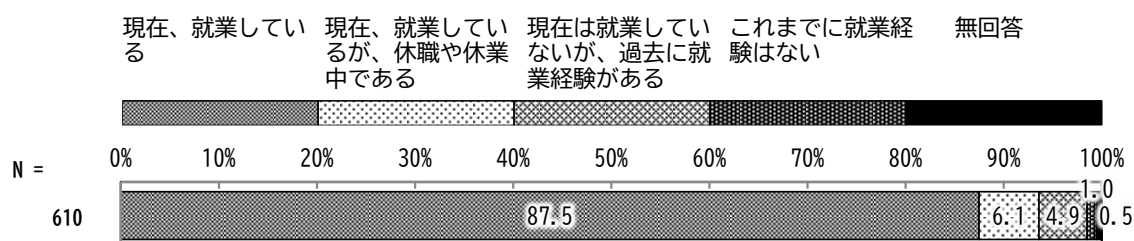


図 1-6

問 1-6 住んでいる地域（単数回答）

「大森地域」が41.2%、次いで「調布地域」が27.0%であった。

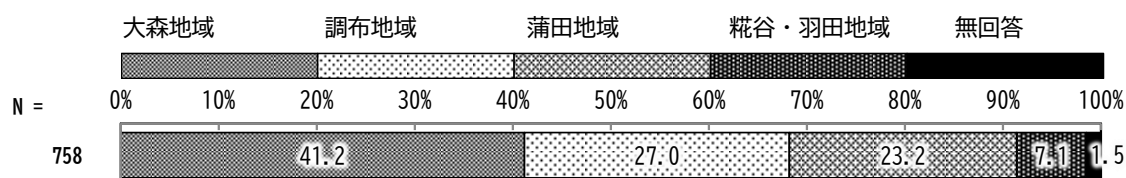


図 1-7

問 1-7 区の在住期間（単数回答）

「1年以上5年未満」が最も多く33.9%、次いで「区に生まれた時から住んでいる」が22.0%であった。

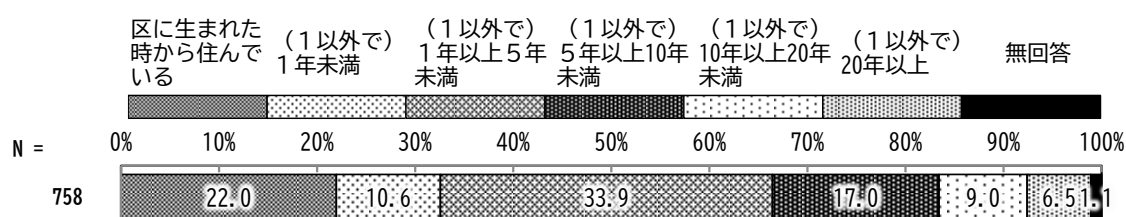


図 1-8

《在住期間と家族構成について》

在住期間が「1年未満」および「1年以上5年未満」では「単身」が最も多くなった。「夫婦と子ども」の世帯が最も多くなるのは「5年以上10年未満」となった。「親と同居」世帯は、10年以上～区に生まれた時から住んでいる家庭が多かった。

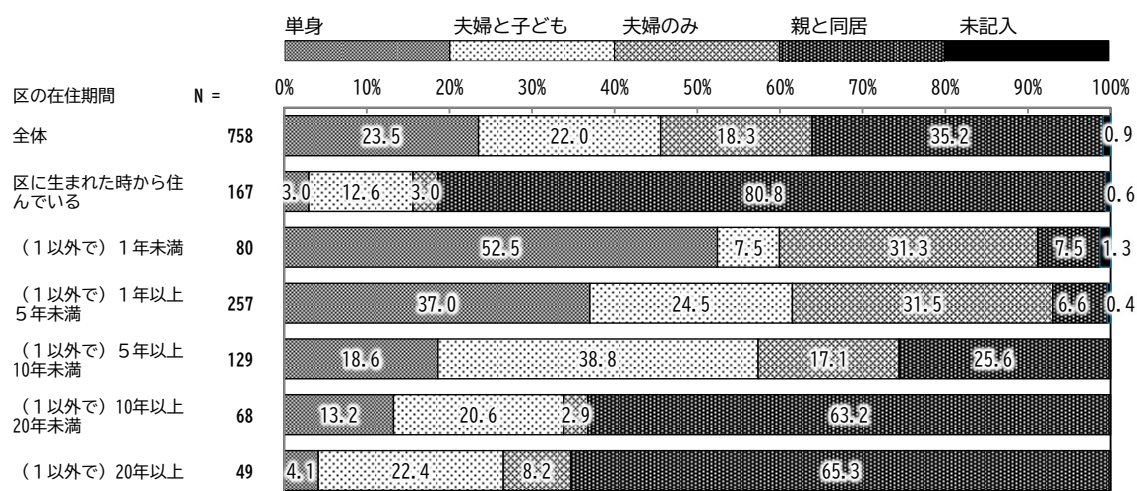


図 1-9

《在住期間と中高生・学生について》

中高生、および、学生は、「区に生まれた時から住んでいる」と「10年以上20年未満」の家庭が殆どとなった。

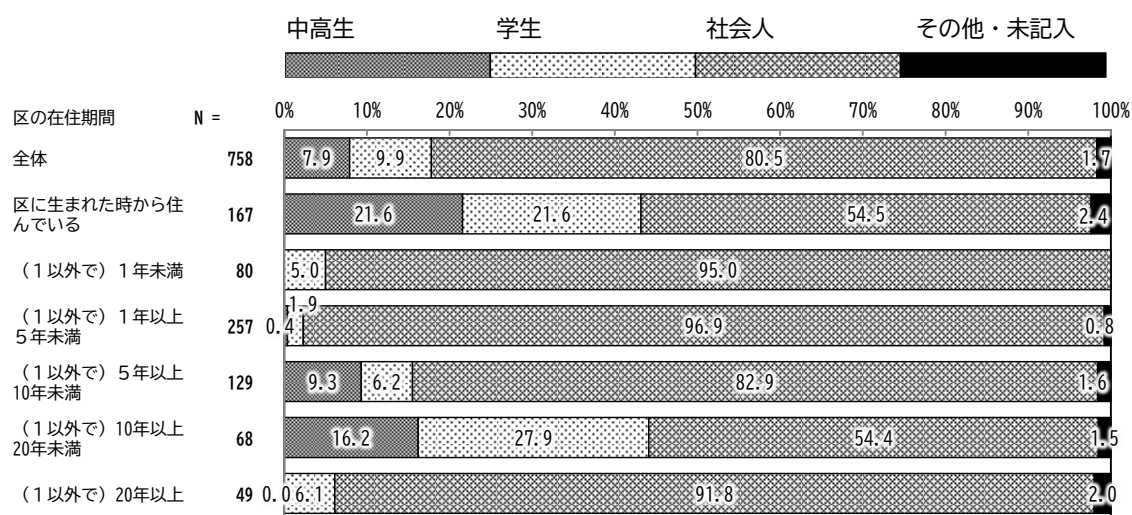


図 1-10

問2 あなた自身で次のことがどのくらいあてはまりますか（単数回答）（自己肯定感）

4段階評価とし、「あてはまる」=1.5点、「どちらかといえば、あてはまる」=0.5点、「どちらかといえば、あてはまらない」=-0.5点、「あてはまらない」=-1.5点とし、平均スコアを算出した。（問3以降も同じ4段階評価の計算を行っている）

平均スコアは「自分の親や家族から大切にされている」が最も高く1.12となった。次いで、「自分には長所があると感じている」が0.72となった。力の「自分は役に立たないと感じる」のみ否定的な設問となっており、マイナスの値となっている。

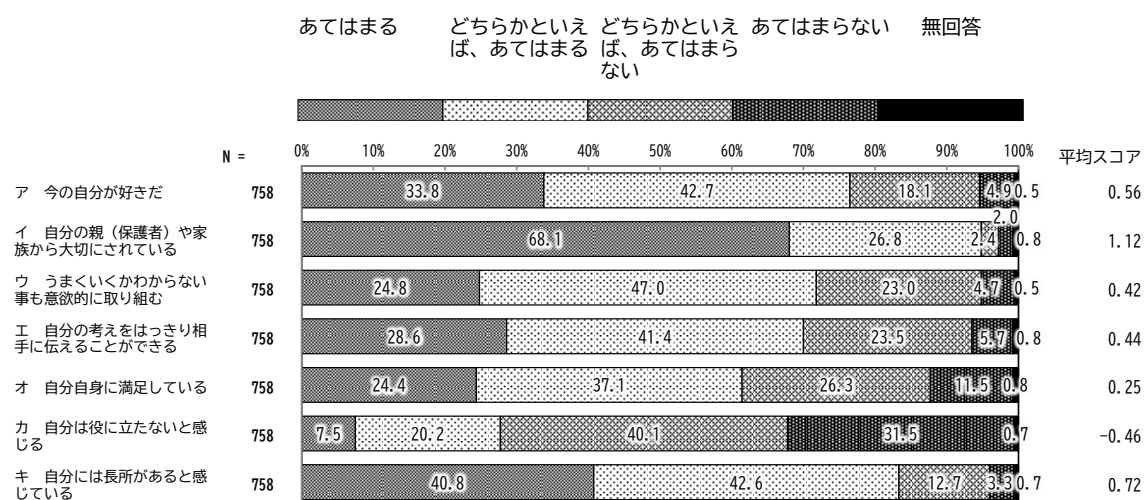


図 2-1

《前回調査との比較》

図 2-2～図 2-7 は、前回調査と同一の選択肢についての比較である。いずれの選択肢においても「あてはまる」の割合（力については「あてはまらない」の割合）が前回に比べて高くなっており、前回調査に比べて、自己肯定感は高くなっている。

ア 今の自分が好きだ

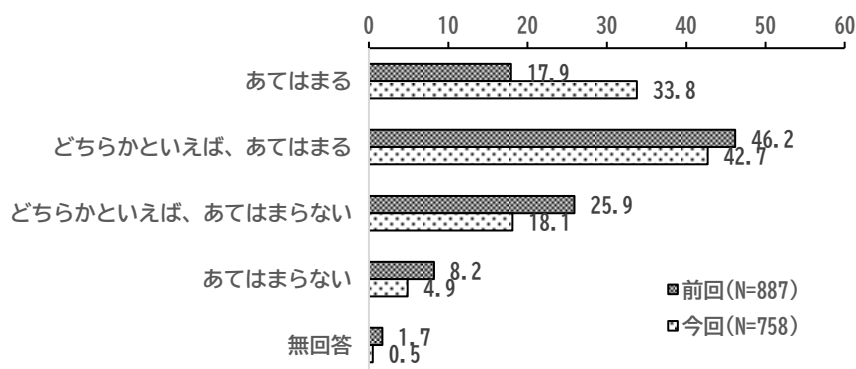


図 2-2

ウ うまくいくかわからない事も意欲的に取り組む

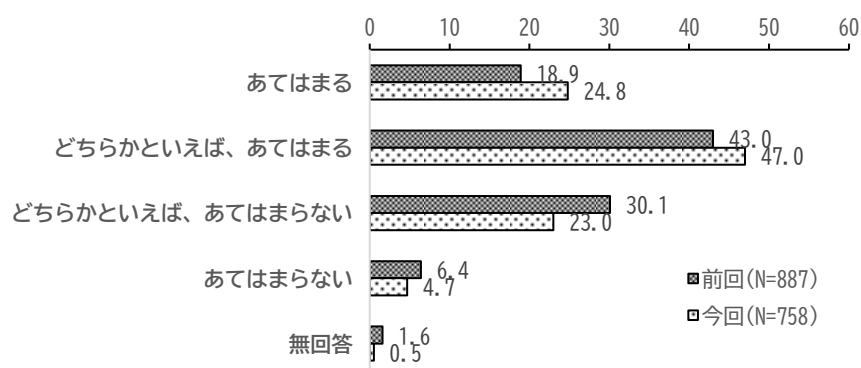


図 2-3

エ 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

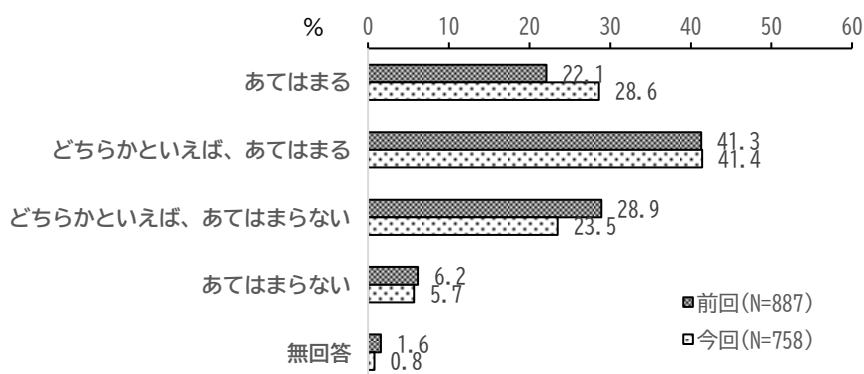


図 2-4

オ 自分自身に満足している

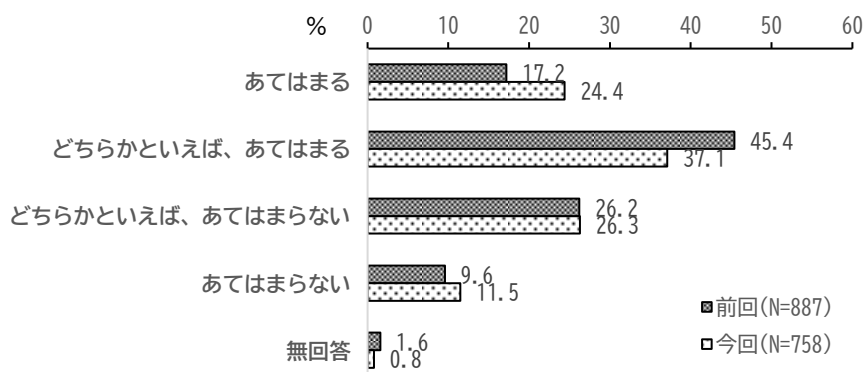


図 2-5

カ 自分は役に立たないと感じる

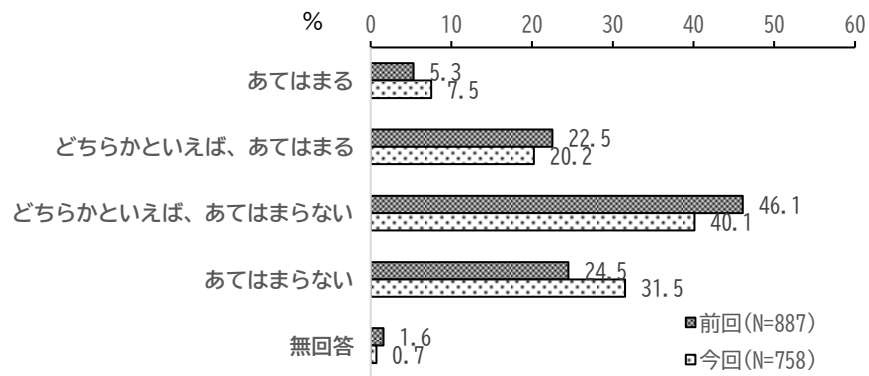


図 2-6

キ 自分には長所があると感じている

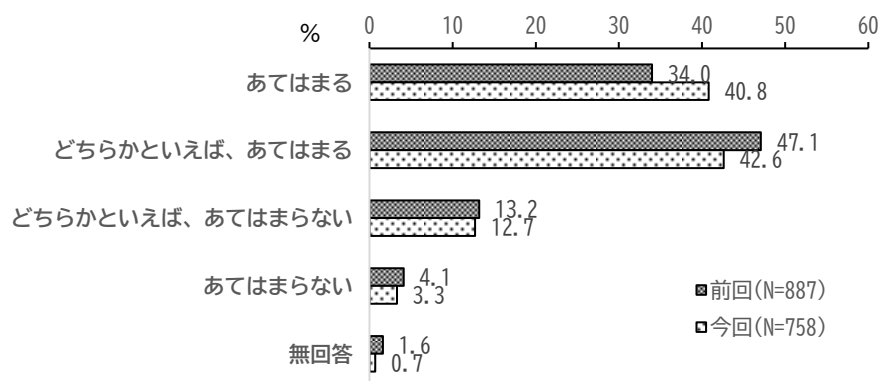


図 2-7

《年代別、世帯別の自己肯定感》

年代別、世帯別に全平均スコア（力については負の値を正に変換）を比較すると、それほど差はないが、「15～19 歳」では 0.59 と比較的高い値を示し、20 歳代の平均スコアは 0.49 とやや低くなった。また、世帯別では「夫婦と子ども」世帯では平均スコアが 0.65 とやや高くなった。

① 15～19 歳

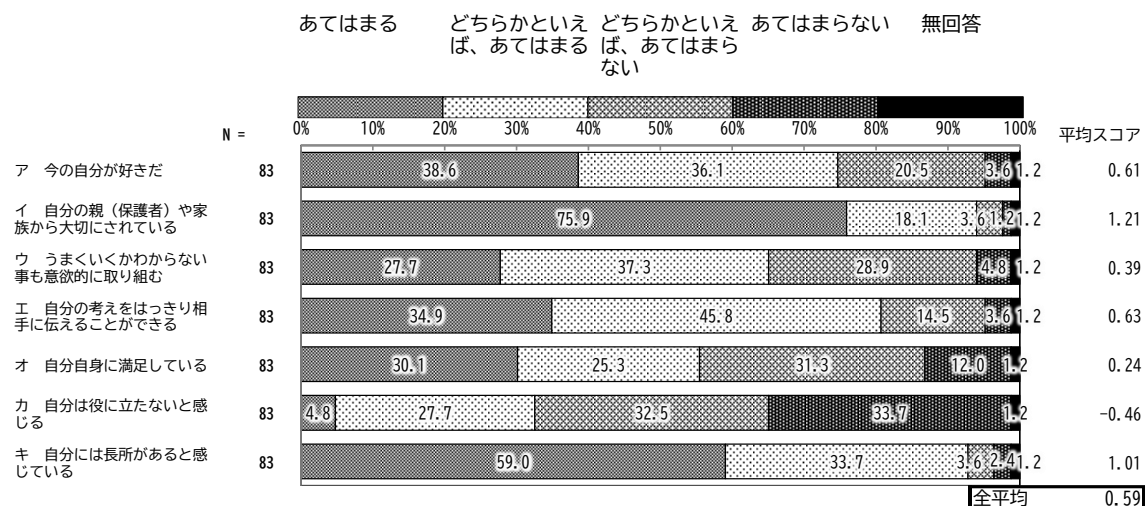


図 2-8

② 20～24 歳

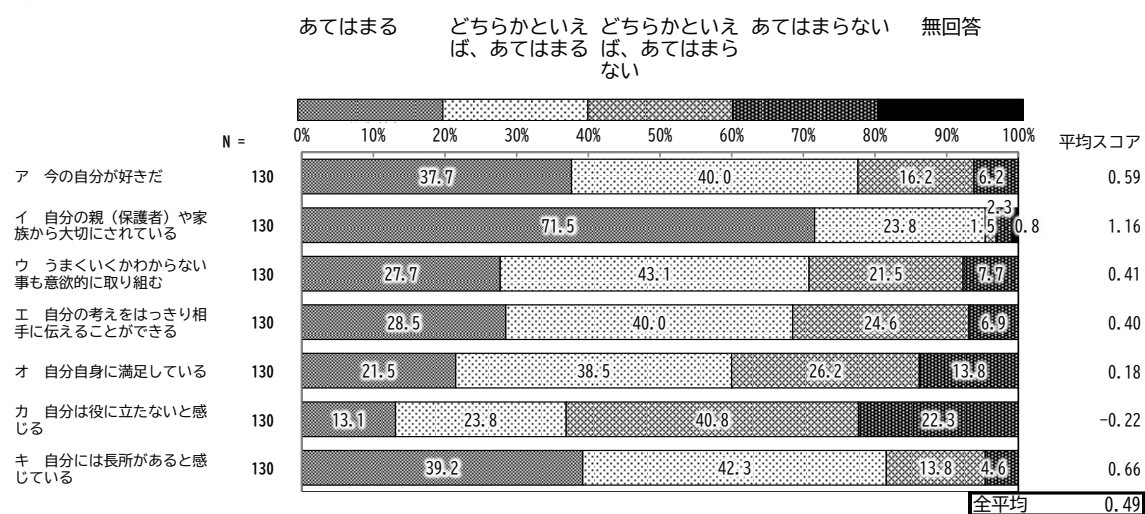


図 2-9

③ 25～29 歳

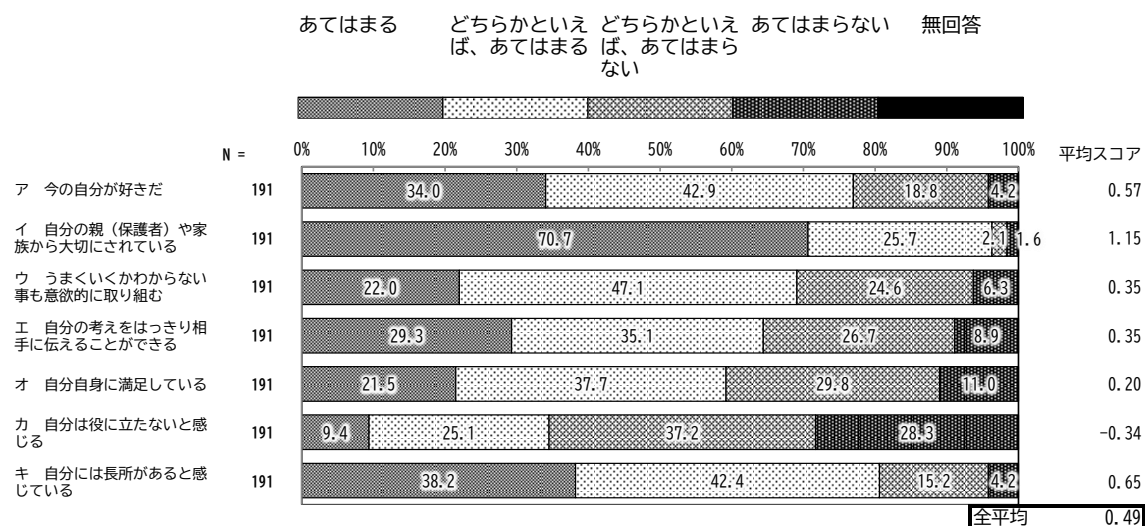


図 2-10

④ 30～34 歳

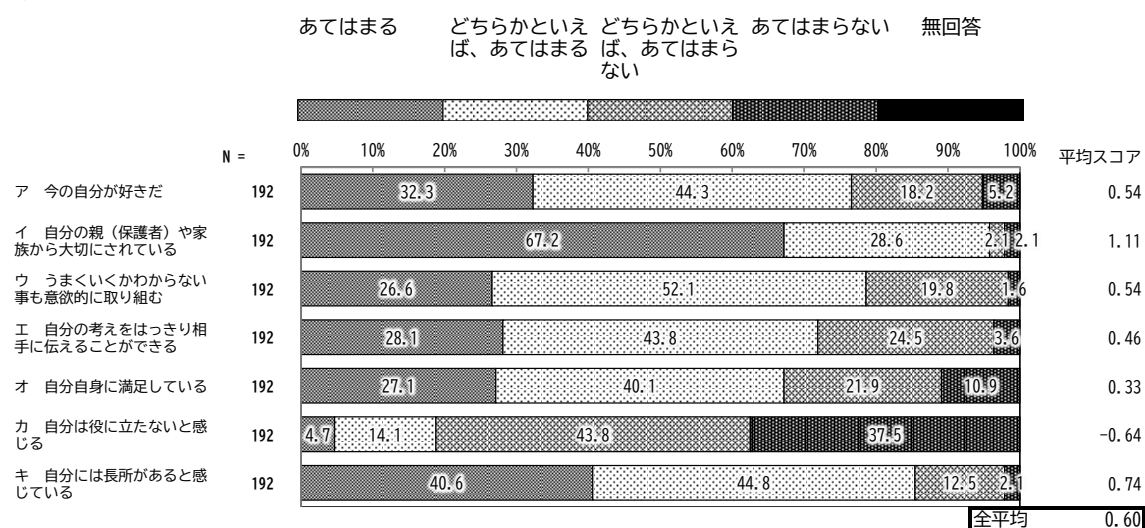


図 2-11

⑤ 35～39 歳

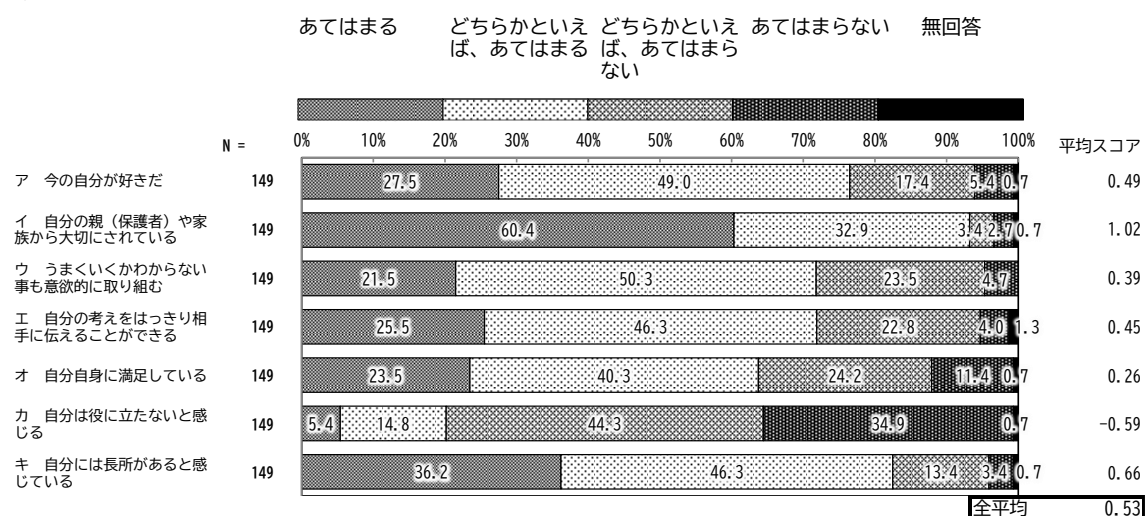


図 2-12

⑥ 単身

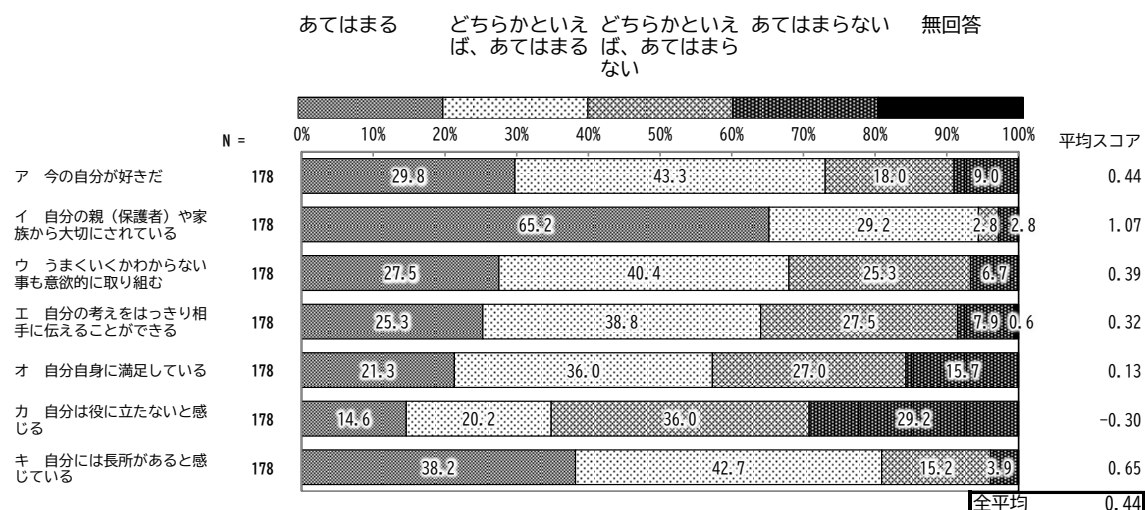


図 2-13

⑦ 夫婦と子ども

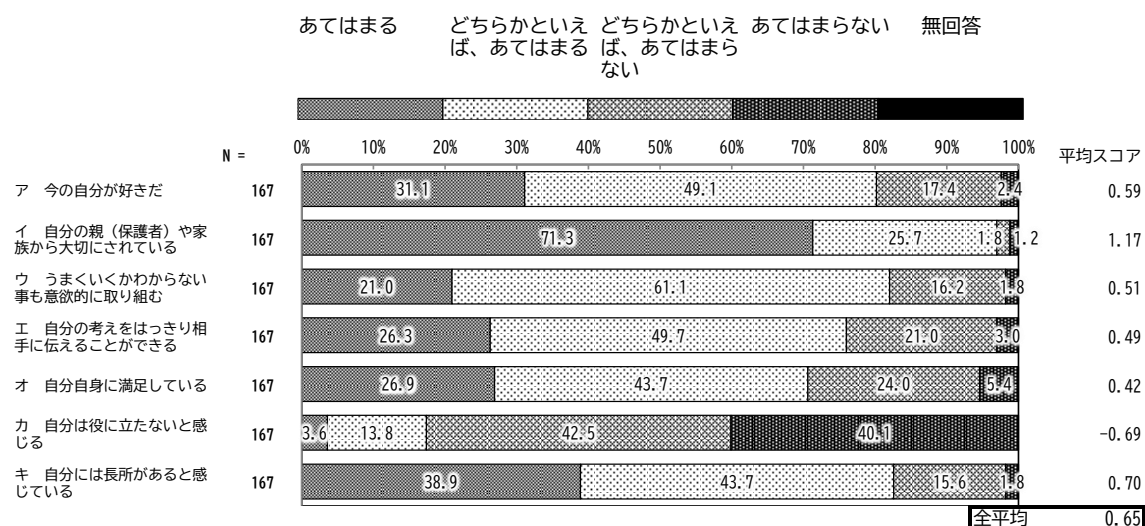


図 2-14

⑧ 夫婦のみ

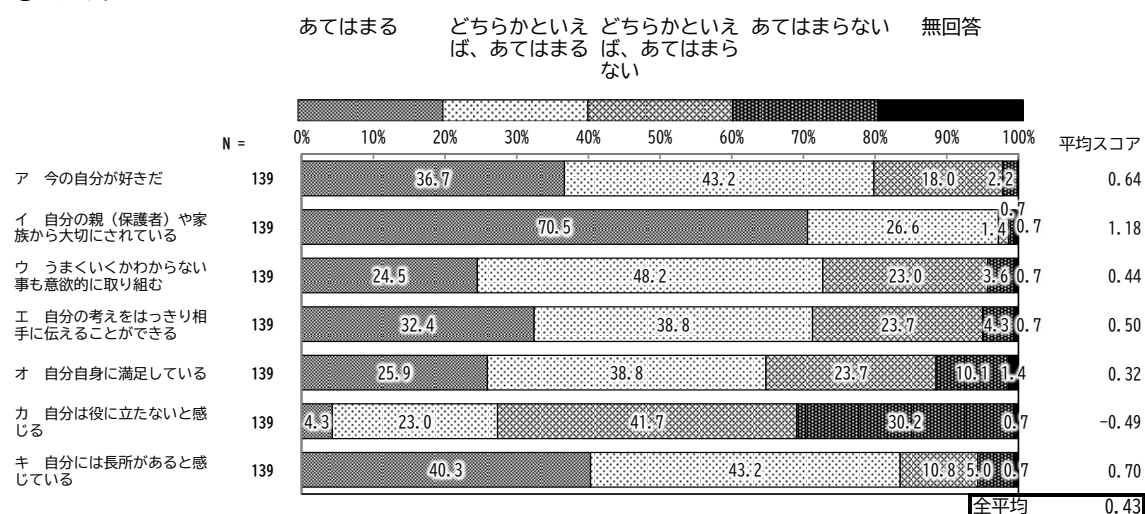


図 2-15

⑨ 親と同居

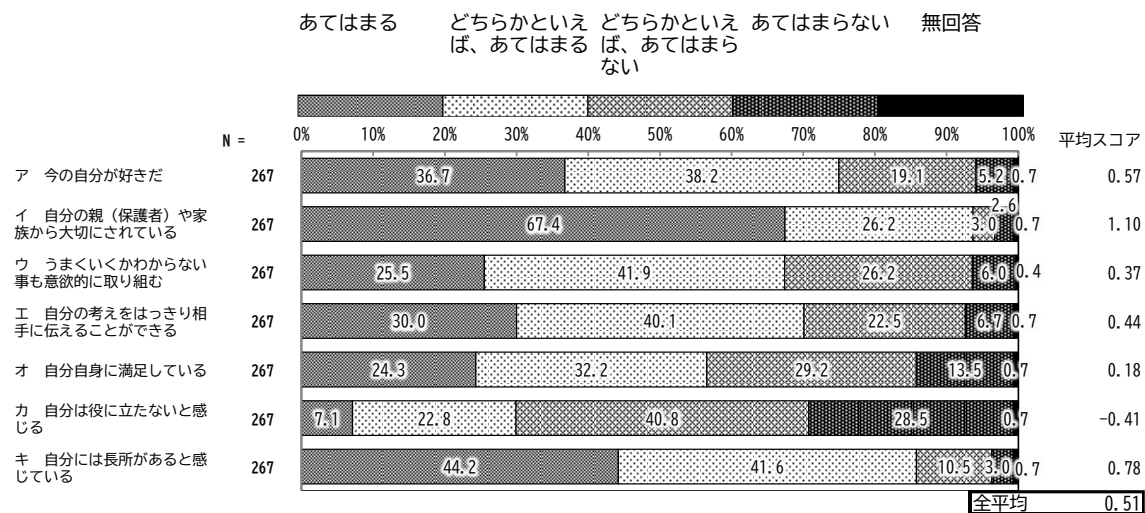


図 2-16

問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか（単数回答）

問2と同様、4段階評価の平均スコアを算出した。（「あてはまらない、わからない」「無回答」は計算から除外している。）「自分の部屋」の平均スコアが最も高く1.11となった。逆に「地域」が最も低く-0.05、次いで「職場」が-0.01となった。

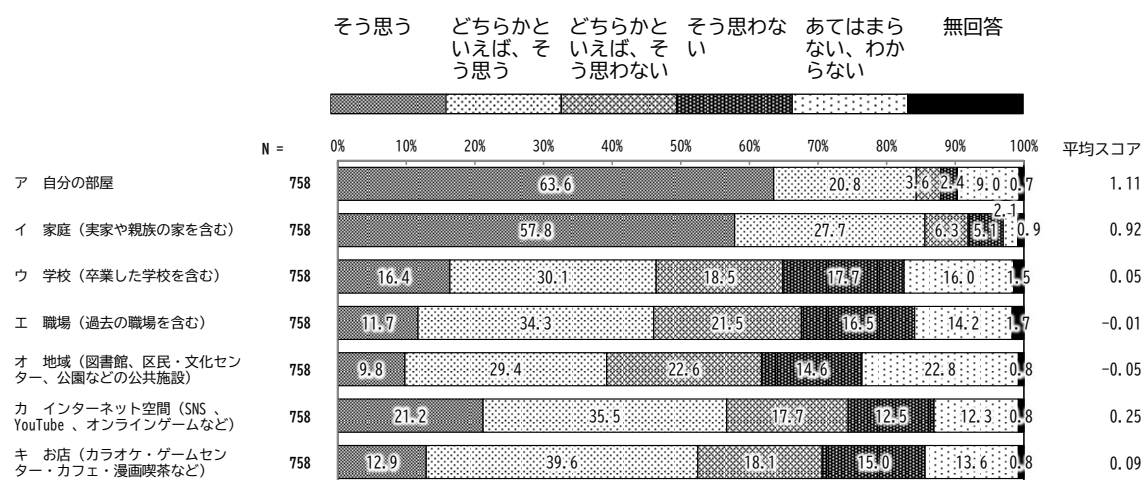


図 3-1

《年代別》

年代別でみると、15～19 歳では、「自分の部屋」、「家庭」、「学校」を居場所と考えている割合が高い。他の年代は、それほど大きな差は見られない。

① 15～19 歳

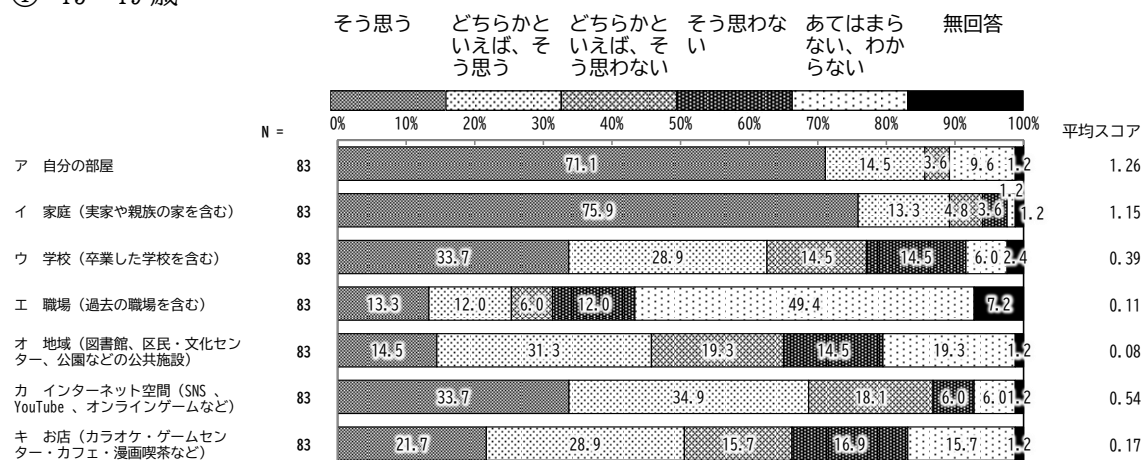


図 3-2

② 20～24 歳

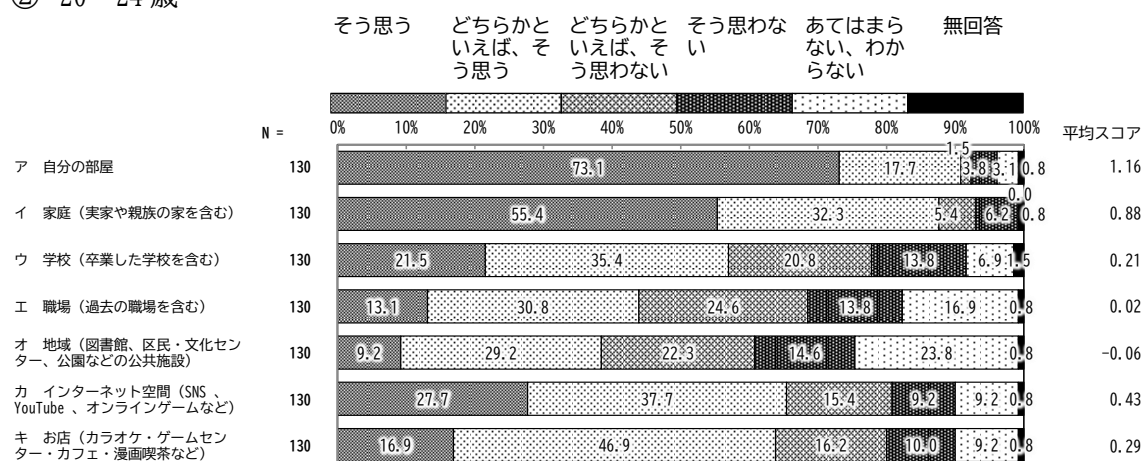


図 3-3

③ 25～29 歳

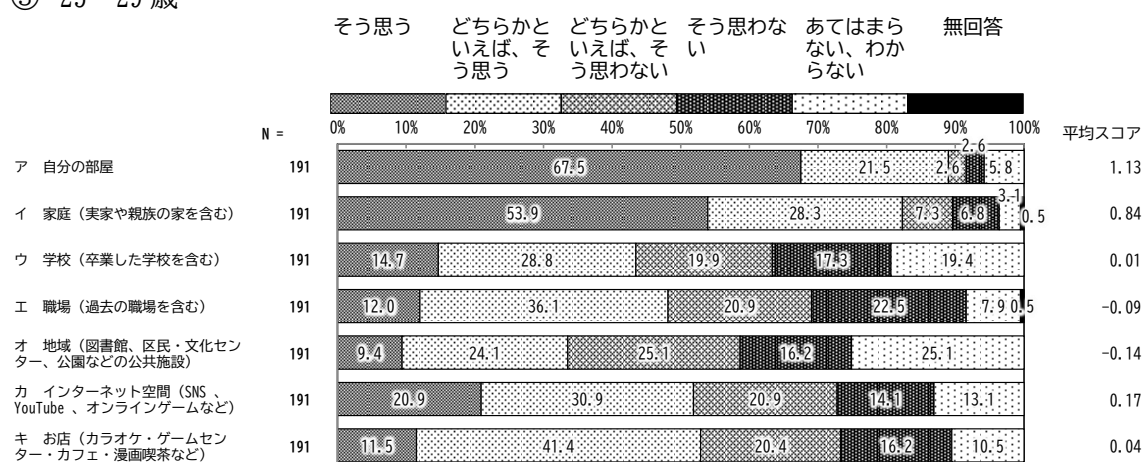


図 3-4

④ 30～34 歳

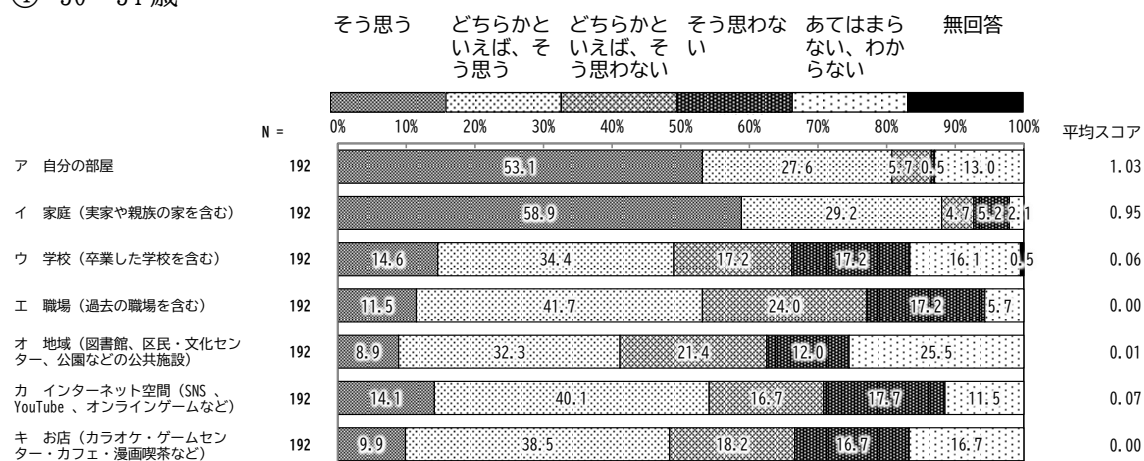


図 3-5

⑤ 35～39 歳

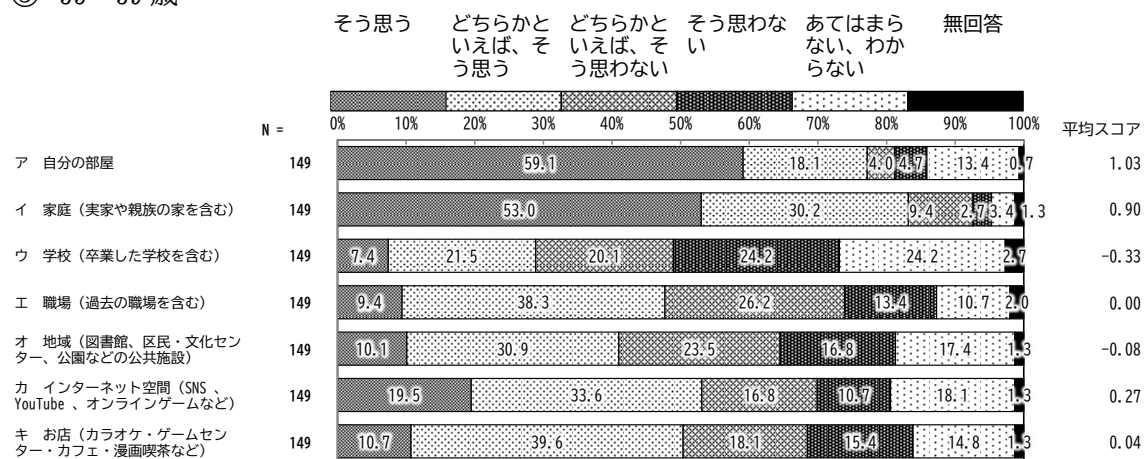


図 3-6

問3-2 問3の選択肢以外で、あなたが居場所になっていると思うものがあれば、お書きください。

- 恋人/友人と居る時間/空間 (76)
- 家族と居る時間/空間 (26)
- 趣味 (14)
- 一人でいる時/空間 (11)
- 好きな人と居る空間/時間 (9)
- 布団/ソファ/トイレ (9)
- 映画館/テーマパーク (9)
- 近くの場所 (商店街/遊歩道/神社仏閣/公園等) (9)
- 飲食店 (7)
- いろいろなお店 (7)
- 自然の中 (7)
- 習い事 (4)
- 推し活 (4)
- 車の中/電車の中 (5)
- 銭湯 (3)
- 部活動 (3)
- ペットと居る空間/時間 (2)
- 静かな場所 (2)
- 仕事 (2)
- 旅 (2)
- 美味しいものを食べているとき
- 自分の国
- 国民の意見が反映された世の中
- 妄想の中
- 地元のイベント
- 個別オンライン授業
- 福祉施設
- 放課後ディサービス

問4 以下の人たちとあなたのかかわりはどのようなものですか（単数回答）

「一緒に住んでいる人、家族、親族」（以下「家族」と表記）、「学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人」（以下「学校・職場」と表記）、「地域の人」（以下「地域」と表記）、「インターネット上の人、グループ」（以下「インターネット」と表記）、「趣味や運動で知り合った人」（以下「趣味」と表記）のかかわりは、「家族」の全平均スコアが0.93と最も高く、次いで「学校・職場」が0.52であった。一方、「地域」の全平均スコアが最も低く、-0.94であった。

① 一緒に住んでいる人、家族、親族

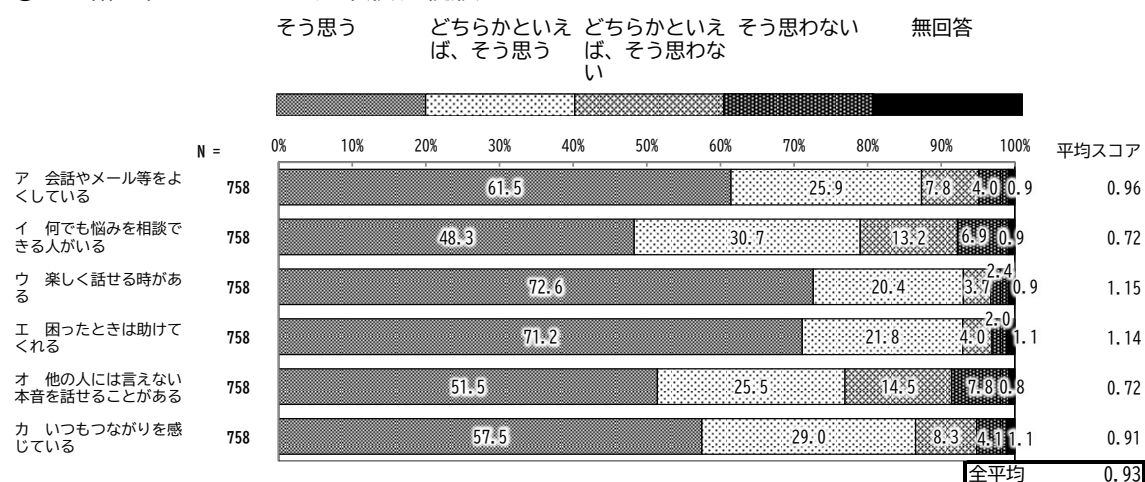


図 4-1

② 学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人

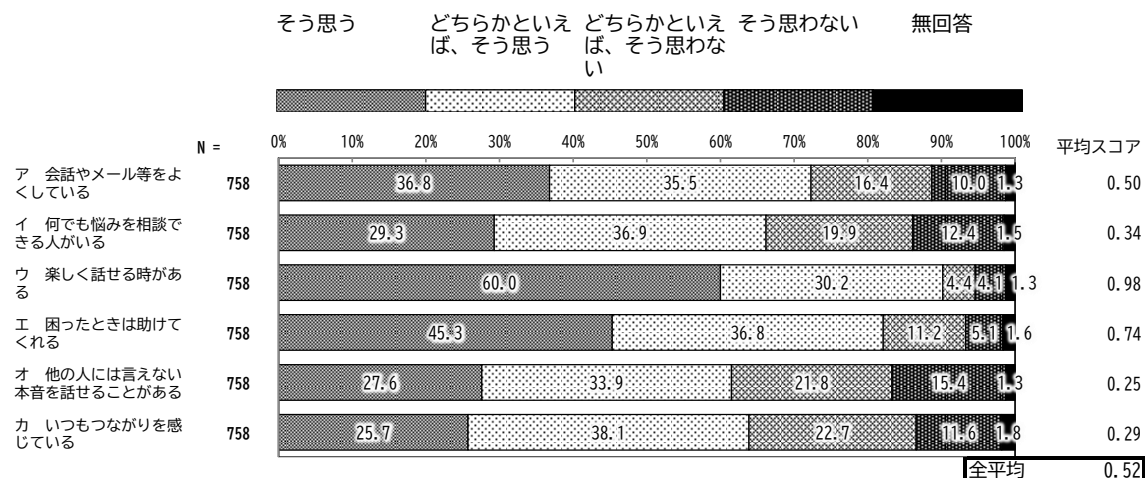


図 4-2

③ 地域の人

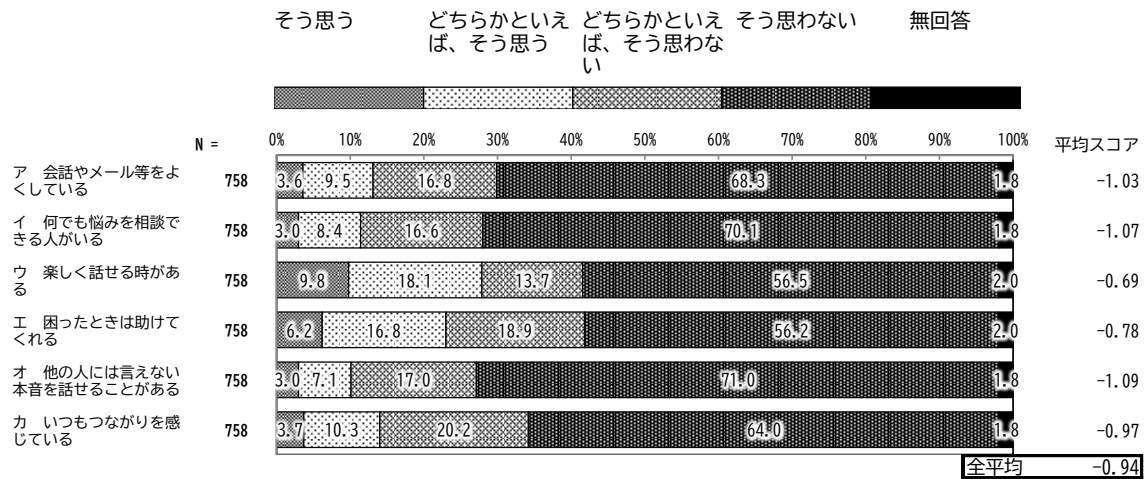


図 4-3

④ インターネット上の人、グループ

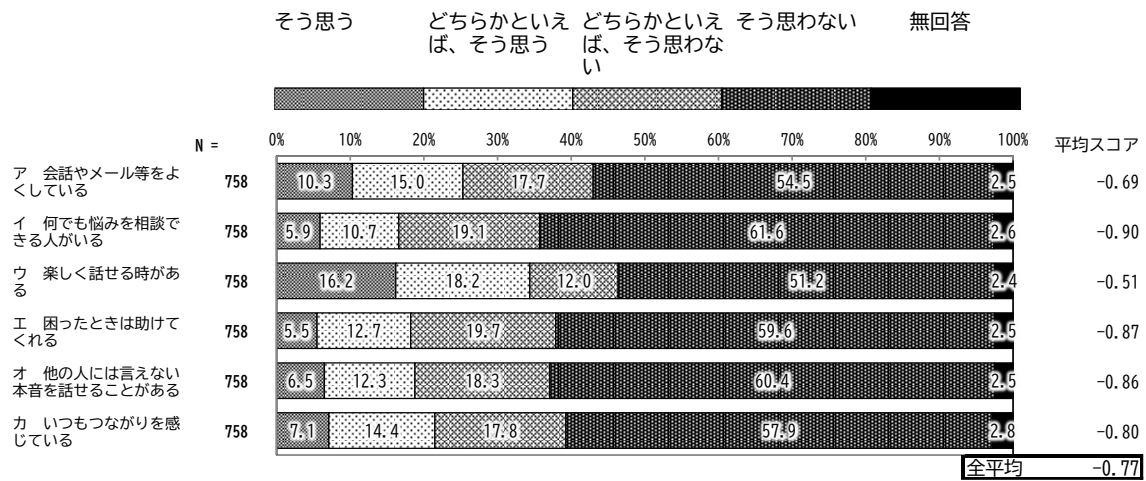


図 4-4

⑤ 趣味や運動で知り合った人

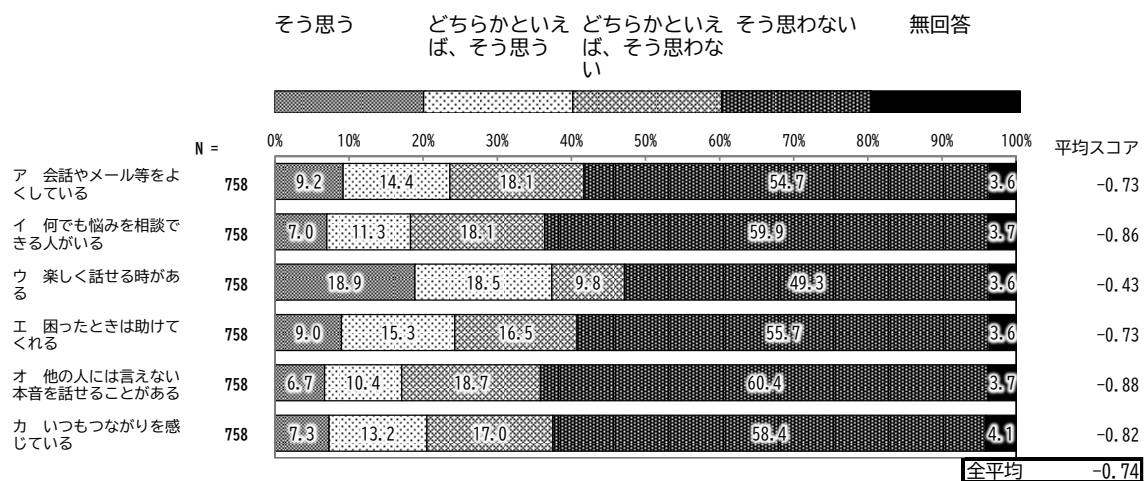


図 4-5

《前回調査との比較》

図 4-6～図 4-11 は、①一緒に住んでいる人、家族、親族について、図 4-12～図 4-17 は③地域の人について前回調査との比較である。①については「そう思う」の割合が前回に比べて高くなっており、前回調査に比べてかかわりの程度が高くなっていると考えられる。③地域の人についても①ほどではないが、「そう思う」の割合は高くなり、「そう思わない」の割合が低くなっている。

① 一緒に住んでいる人、家族、親族 ア 会話やメール等をよくしている

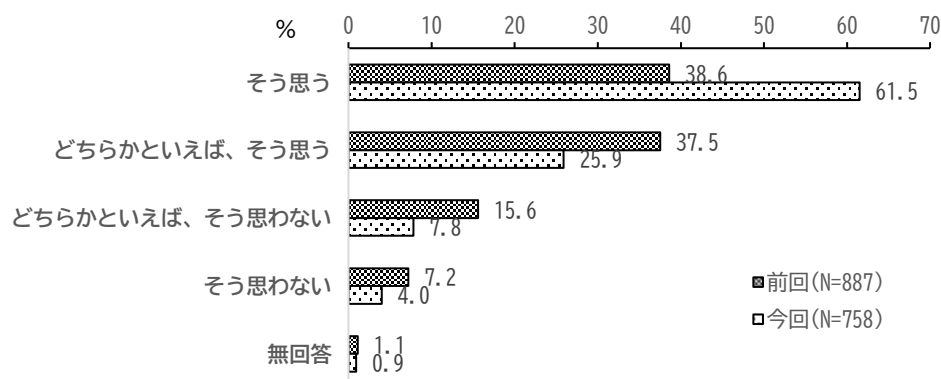


図 4-6

イ 何でも悩みを相談できる人がいる

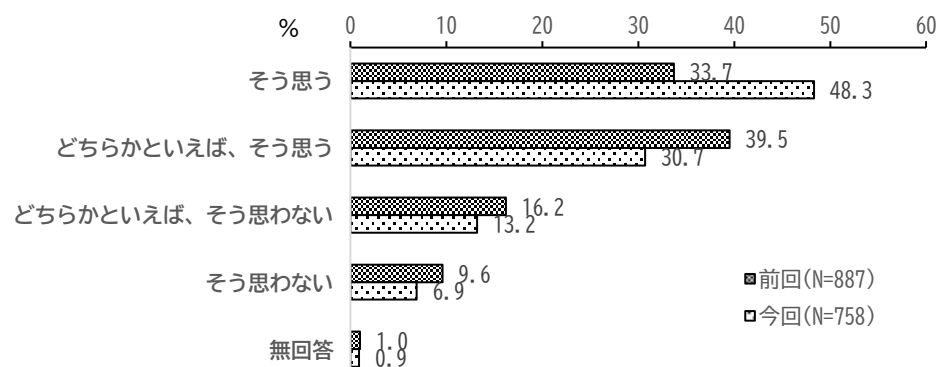


図 4-7

ウ 楽しく話せる時がある

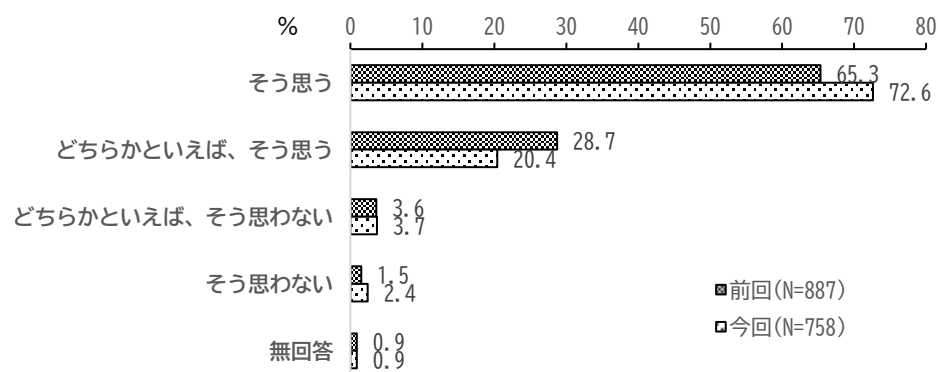


図 4-8

エ 困ったときは助けてくれる

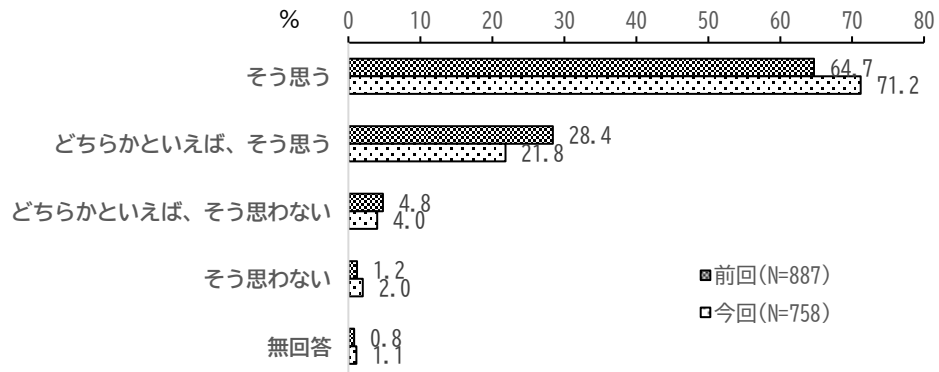


図 4-9

オ 他の人には言えない本音を話せることがある

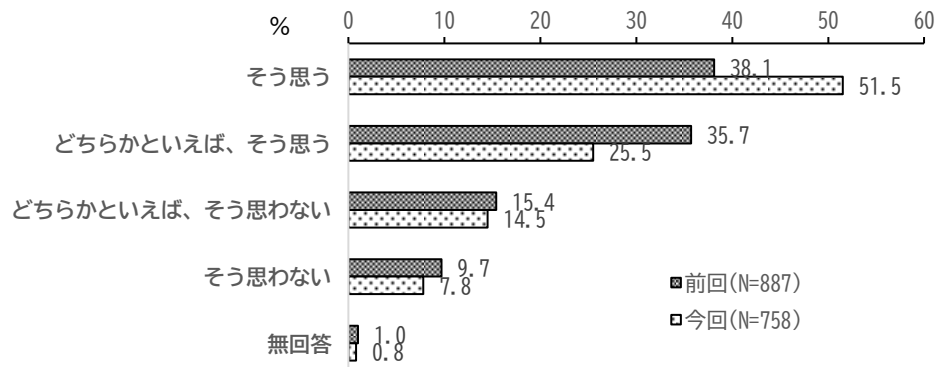


図 4-10

カ いつもつながりを感じている

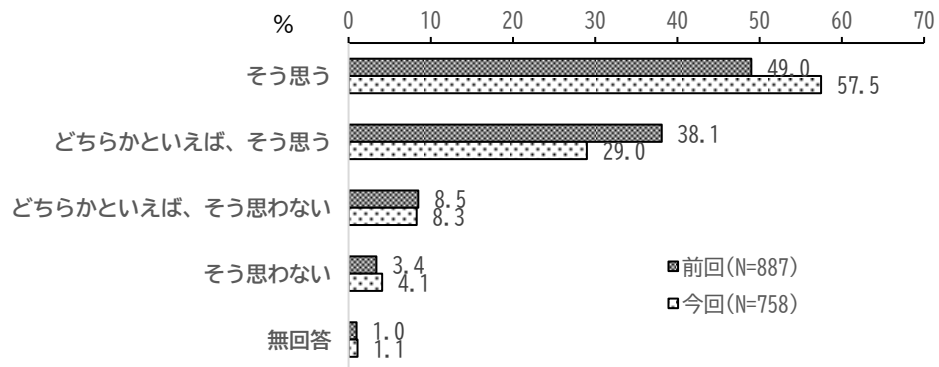


図 4-11

③ 地域の人

ア 会話やメール等をよくしている

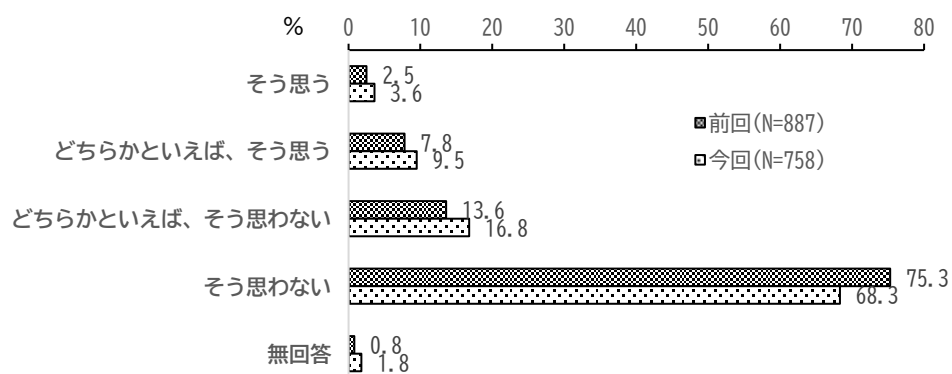


図 4-12

イ 何でも悩みを相談できる人がいる

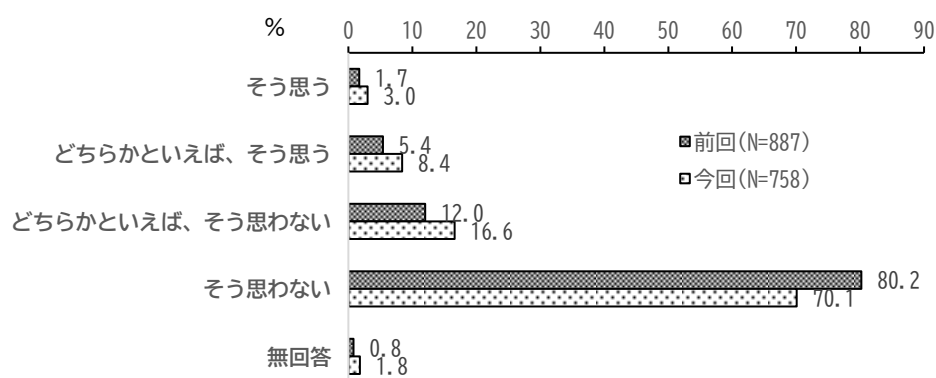


図 4-13

ウ 楽しく話せる時がある

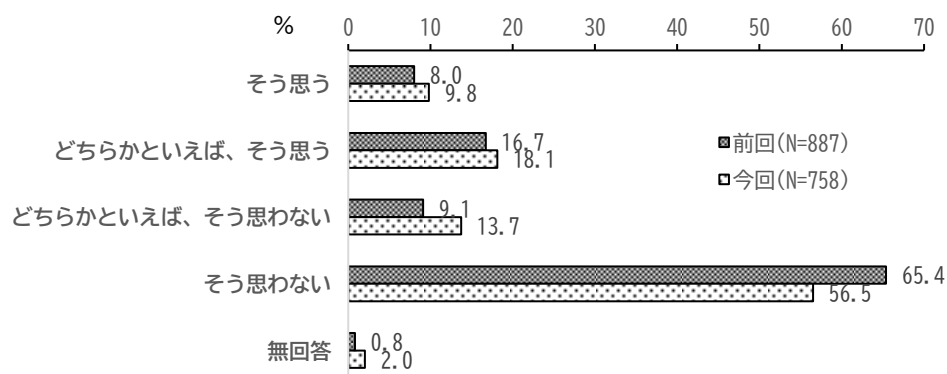


図 4-14

エ 困ったときは助けてくれる

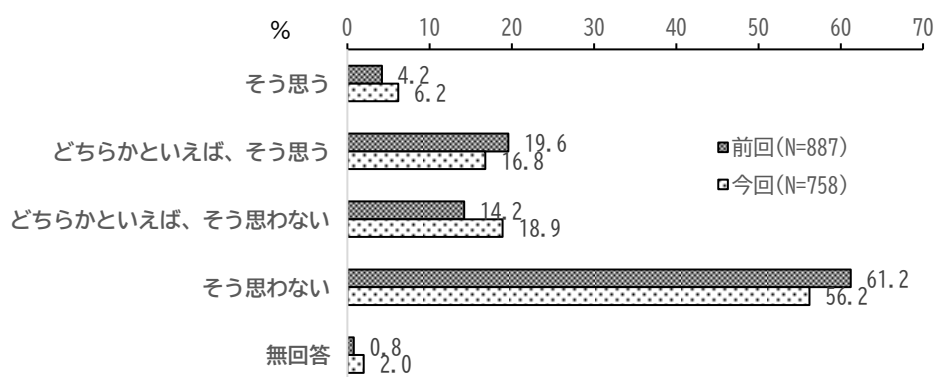


図 4-15

オ 他の人には言えない本音を話せることがある

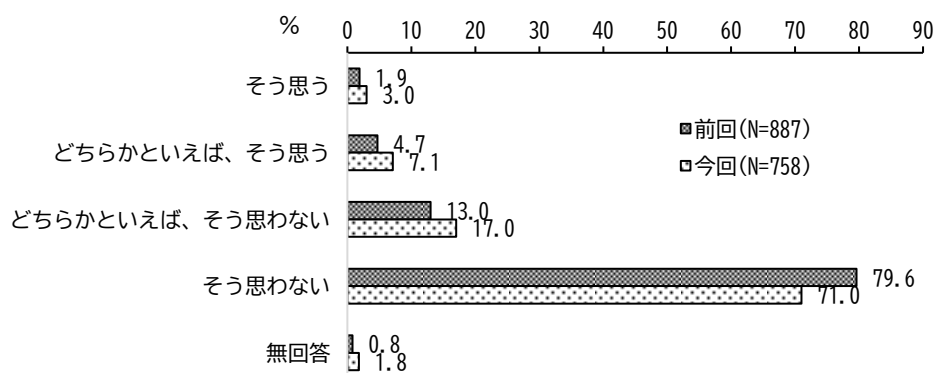


図 4-16

カ いつもつながりを感じている

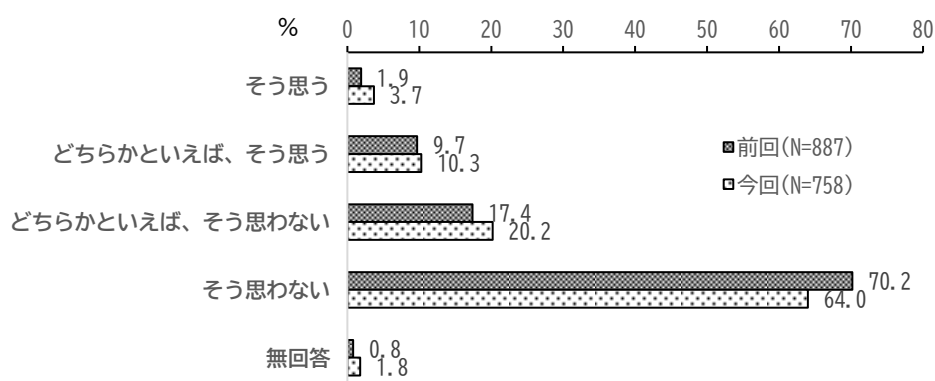


図 4-17

問5 授業や就業時間以外の時間でどんなことに時間を使っていますか（複数回答）

「スマホを利用（選択肢1～9以外のことで）」が最も高く68.9%、次いで「趣味・スポーツ」が52.2%であった。

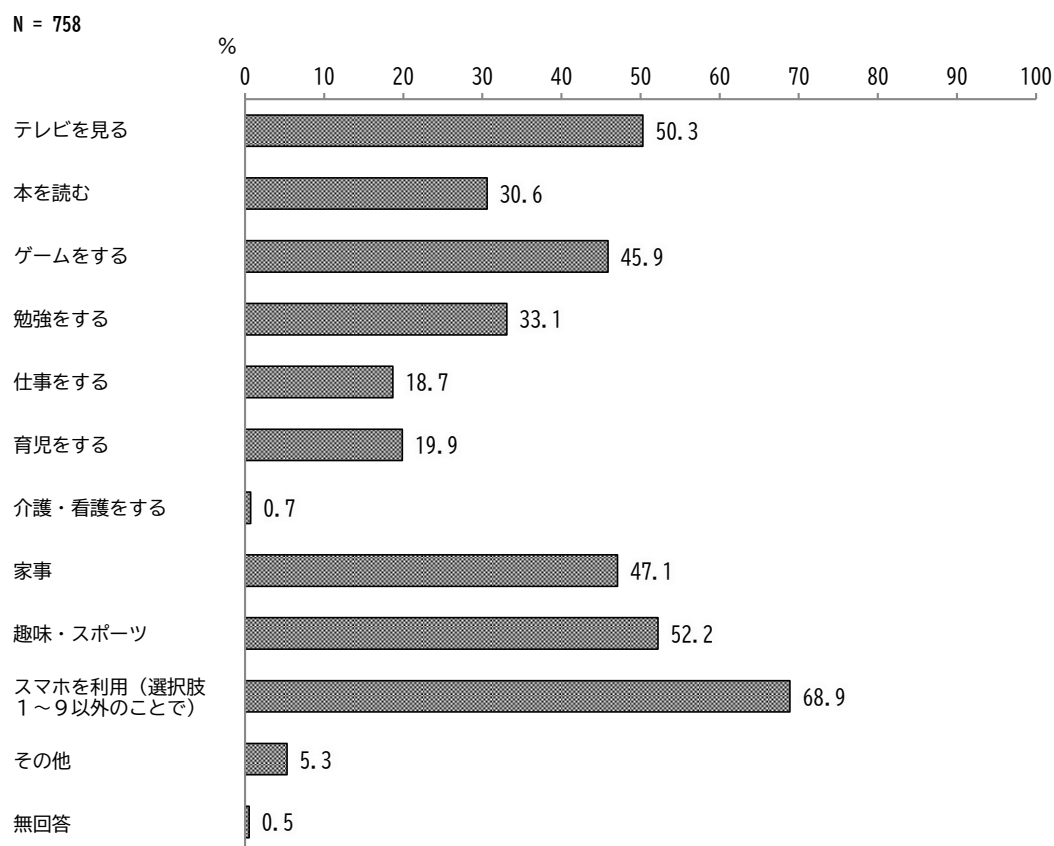


図 5-1

その他自由記述

- 家族/恋人/友人と会う（7）
- お出かけ（7）
- 寝る（6）
- ネット/SNS（5）
- ペットの世話（4）
- 運動（3）
- 何もしない（2）
- 教習所に通う
- これから始めようとしている事業の準備
- 考え事

◀ 前回調査との比較 ▶

図 5-2 は前回調査との比較である。前は、「趣味・スポーツ」に対する選択肢がなかったため単純には比較できない。「趣味・スポーツ」に対する割合が高いため、それ以外の選択肢の割合が低下していると考えられるが、傾向としては大きな変化はない。

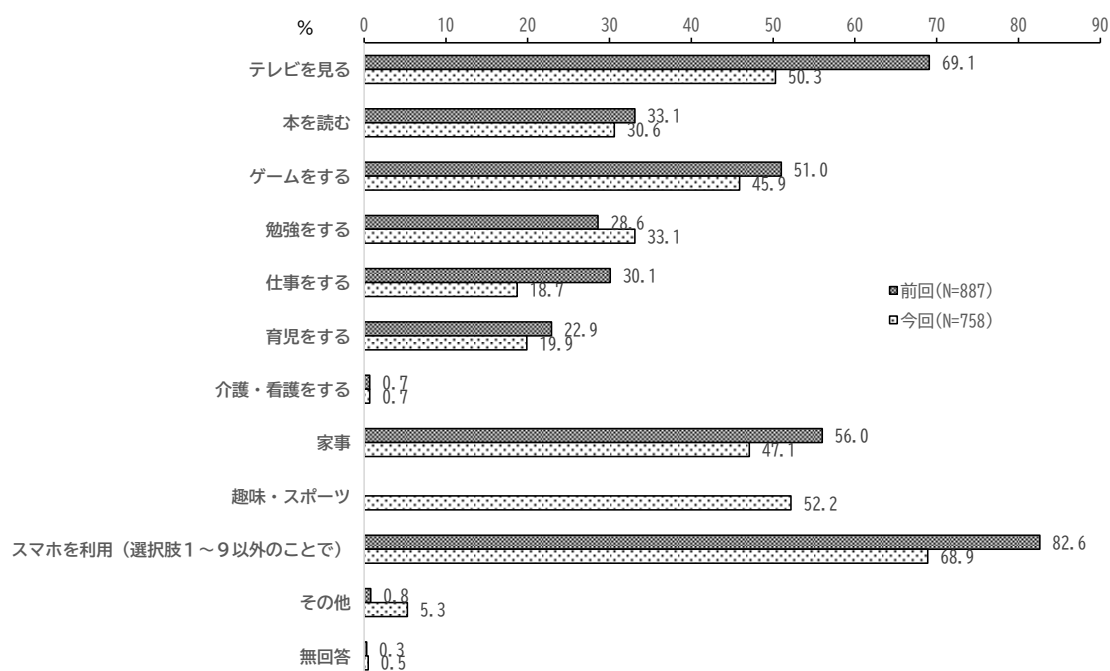


図 5-2

<<年代別の過ごし方>>

若年層は「ゲーム」「勉強」「趣味」に使い、30歳代は「育児」「家事」を行っている。

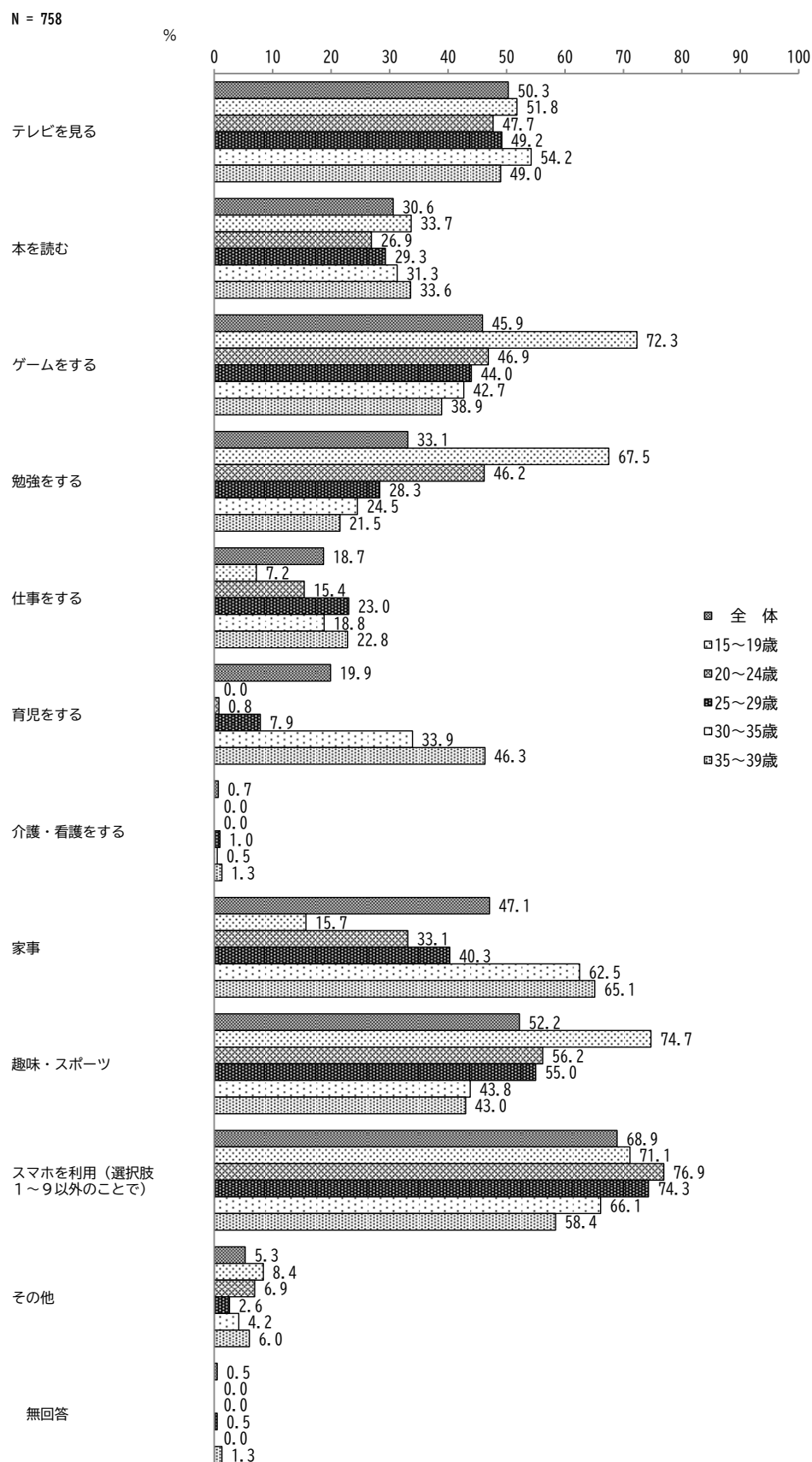


図 5-3

「子どもがいる」家庭は育児や家事に時間を費やしており、その他の時間が少なくなっている。

N = 758

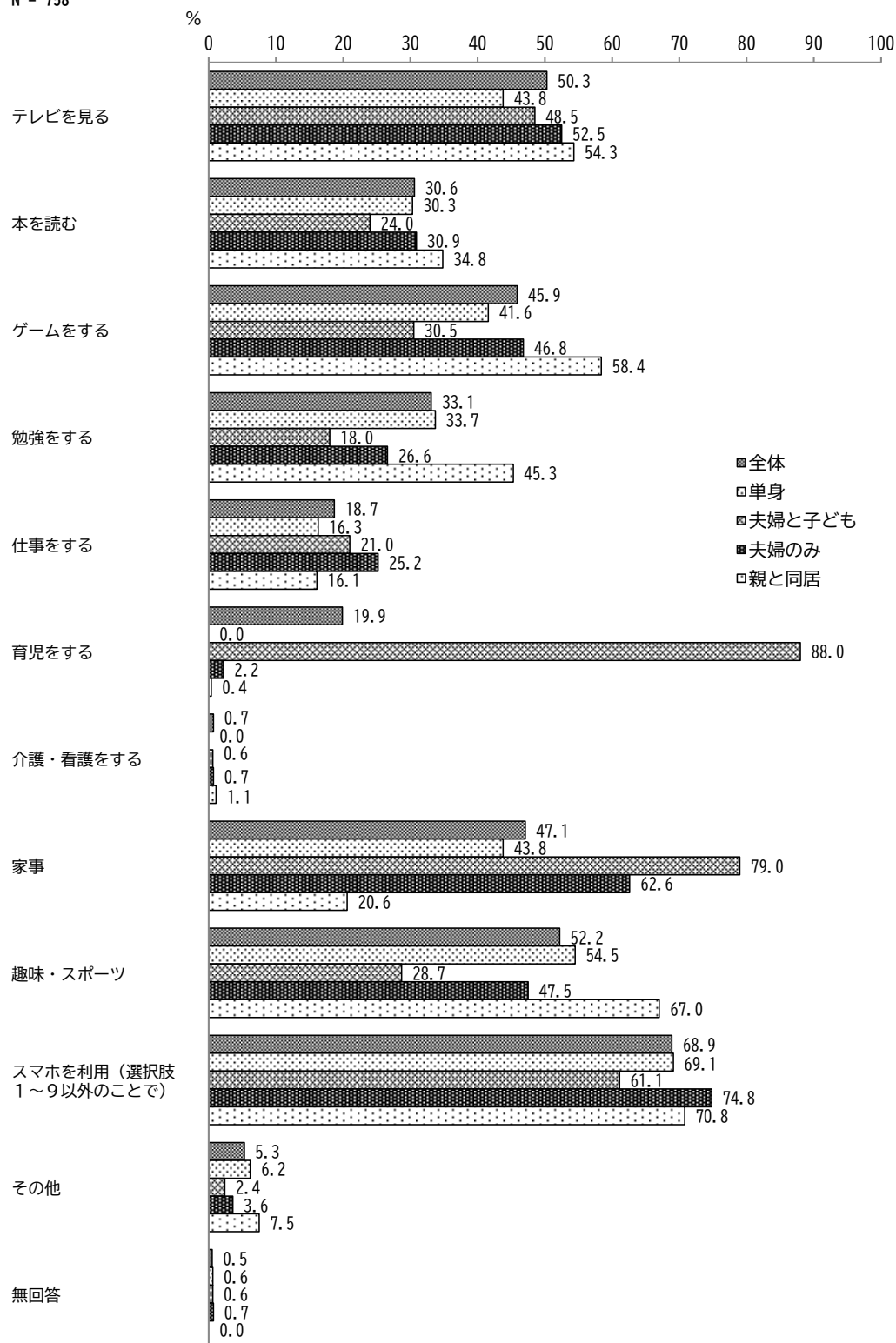


図 5-4

問6 あなたは普段どのくらい外出しますか。(単数回答)

「仕事や学校で平日は毎日、外に出かけている」が最も多く 66.8%、次いで「仕事や学校で週に 3～4 日、外に出かけている」が 18.5%であった。

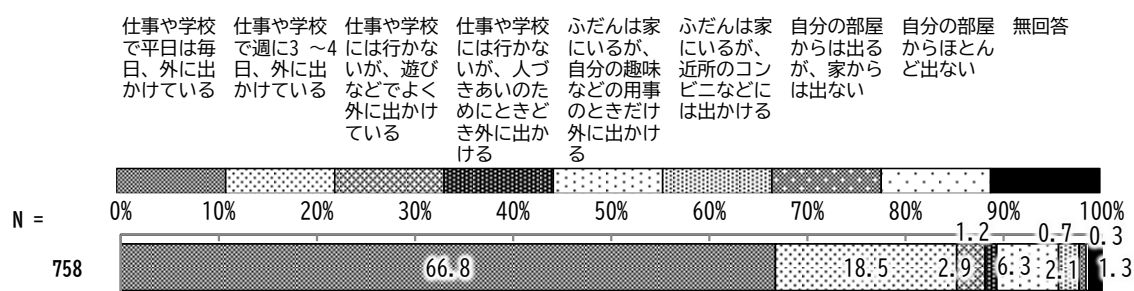


図 6-1

≪前回調査との比較≫

図 6-2 は前回調査との比較である。前回に比べ、「ふだんは家にいるが、自分の趣味などの用事のときだけ外に出かける」が 6.3%と高くなり、逆に「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が 2.1%と低くなった。問 7 の結果を見ても分かるが、コロナ禍の影響により、ふだんから家で仕事や家事等をしている人が多いことも影響していると考えられる。

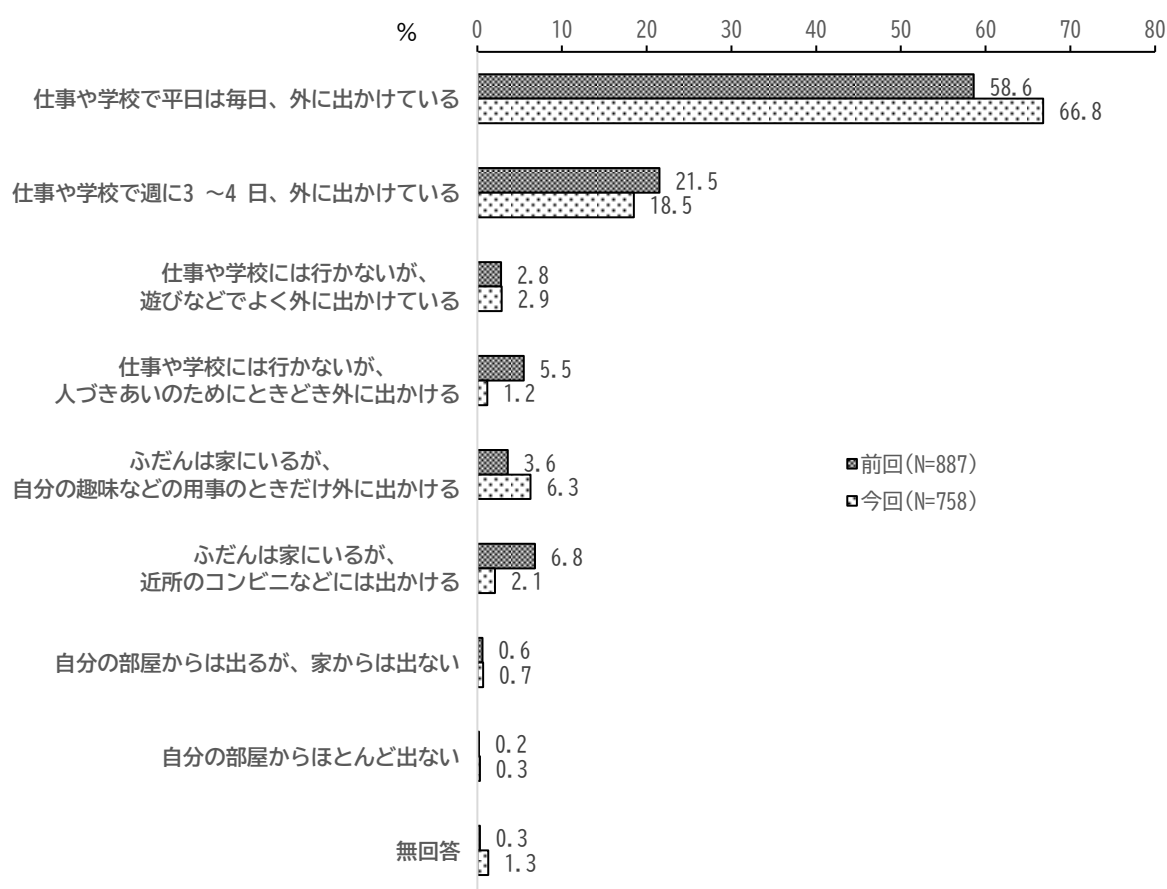


図 6-2

問7 あなたの外出状況が今のようになった主な理由は何ですか。(複数回答)

問6で選択肢5～8を選択したのは71人。うち、「家で仕事や家事などをしている」「妊娠した」「家族の看病やお世話をするようになった」をチェックした人、および、その他として記載されている理由として課題と考えられない人を除く、19名(2.5%)が、外出できない何等かの課題を持っていると考えられる。

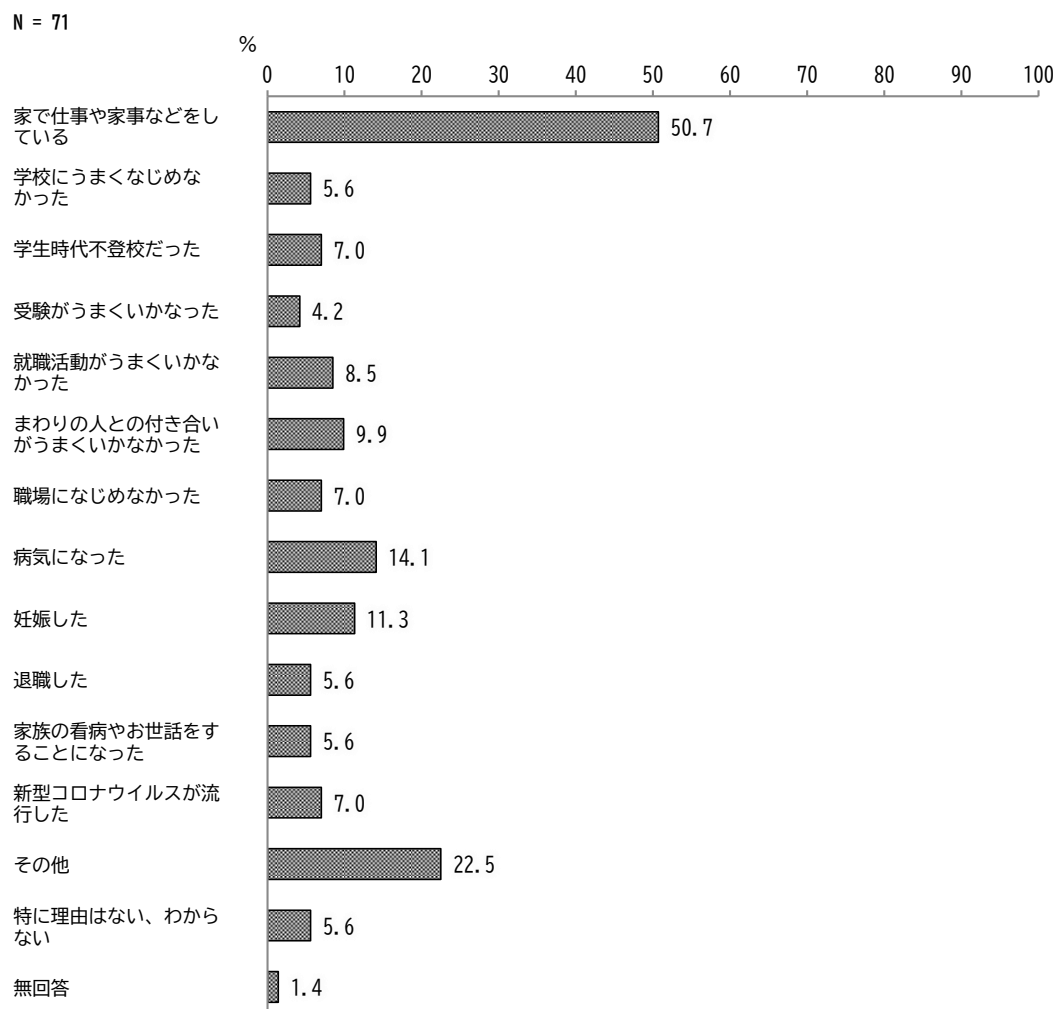


図 7-1

その他自由記述（記載されたその他の理由は下記の通りで、いずれも課題ではない）

- 育児休業中のため/出産直後のため（8）
- リモートワーク(5)
- 学校が現在週一であるため
- ペットが幼いため
- 大田生活実習所に通所中

《何らかの課題を持っている人の悩みについて》

何らかの課題を持っている人の悩みは「お金のこと」が最も高く78.9%、次いで「就職のこと」が68.4%、「自分の将来のこと」が63.2%であった。

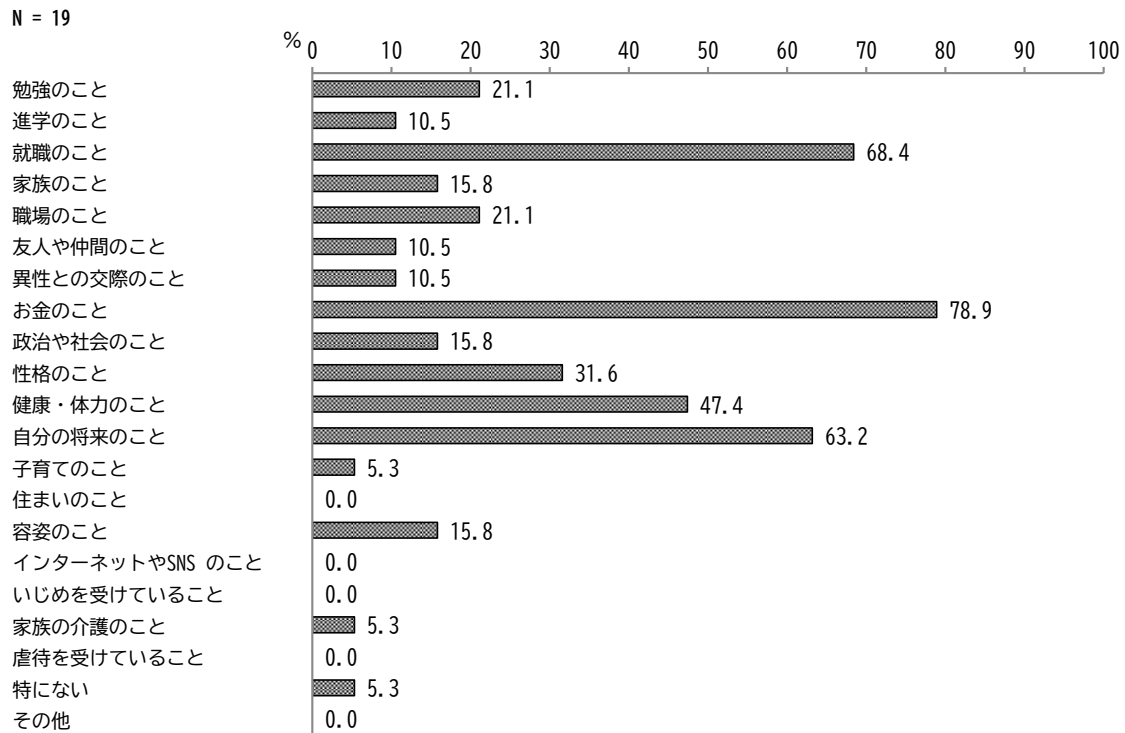
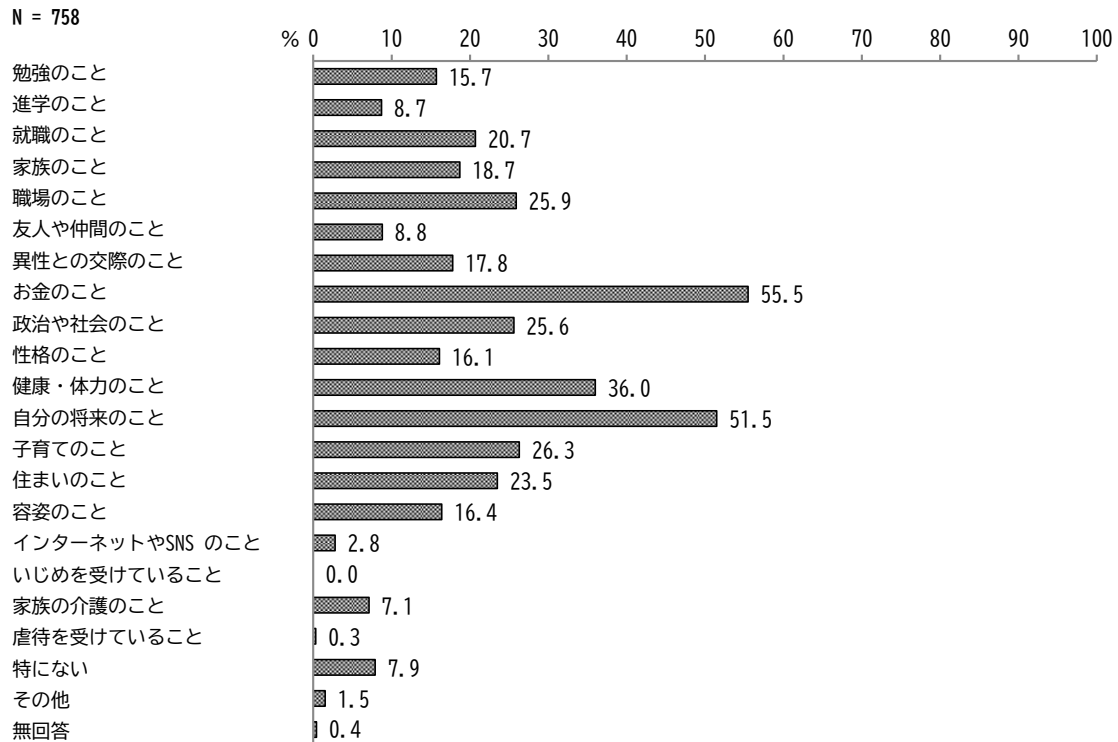


図 7-2

(参考) 一般の悩み (図 9-1 再掲)



問8 あなたは、将来の自分がどのようになっていると思いますか（単数回答）

「何でも話せる人がいる」の平均スコアが最も高く 0.79 であった。次いで「自分の収入で暮らせる仕事についている」が 0.76 であった。

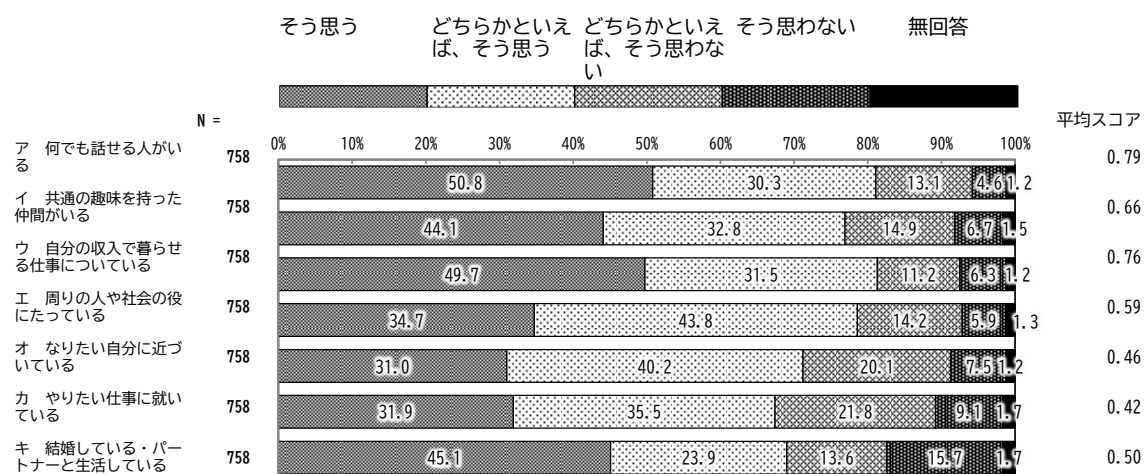


図 8-1

＜前回調査との比較＞

図 8-2～図 8-6 は、前回調査と同一の選択肢についての比較である。「ア」以外の選択肢においては前回調査よりも「そう思う」の割合が増えており、前回調査に比べて、将来像は高くなっている。

ア 何でも話せる人がいる

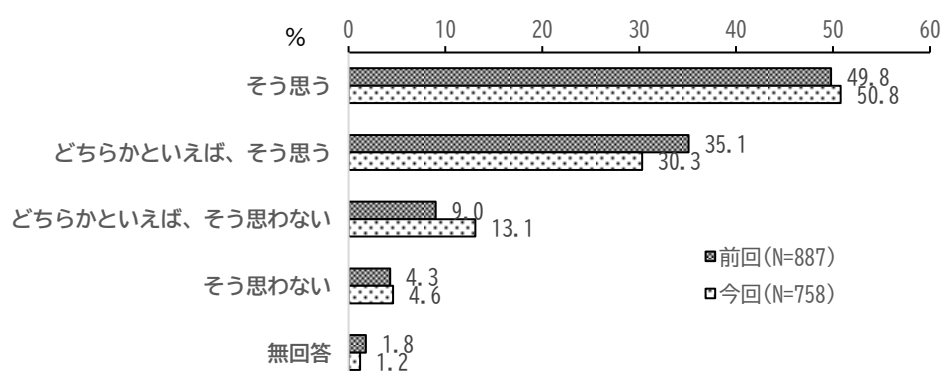


図 8-2

イ 共通の趣味を持った仲間がいる

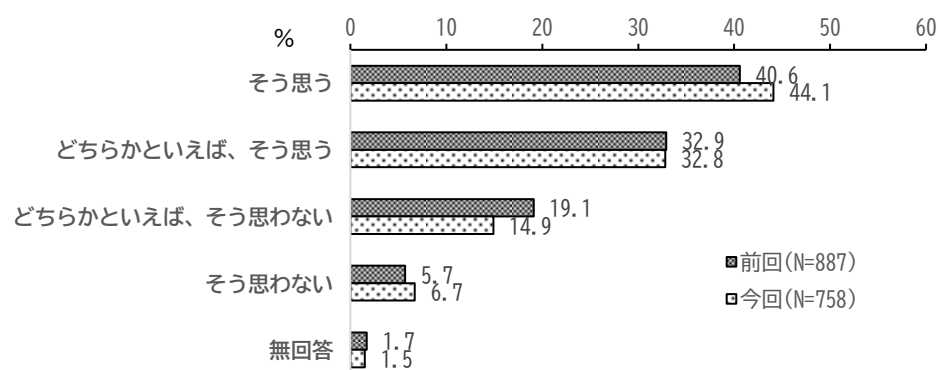


図 8-3

ウ 自分の収入で暮らせる仕事についている

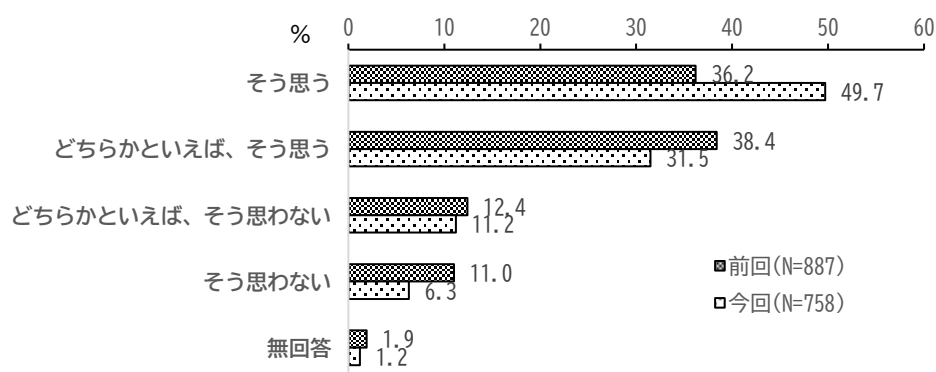


図 8-4

エ 周りの人や社会の役にたっている

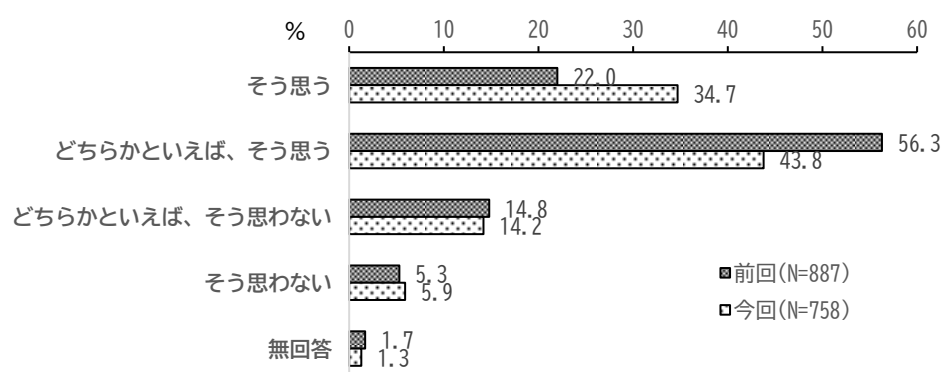


図 8-5

オ なりたい自分に近づいている

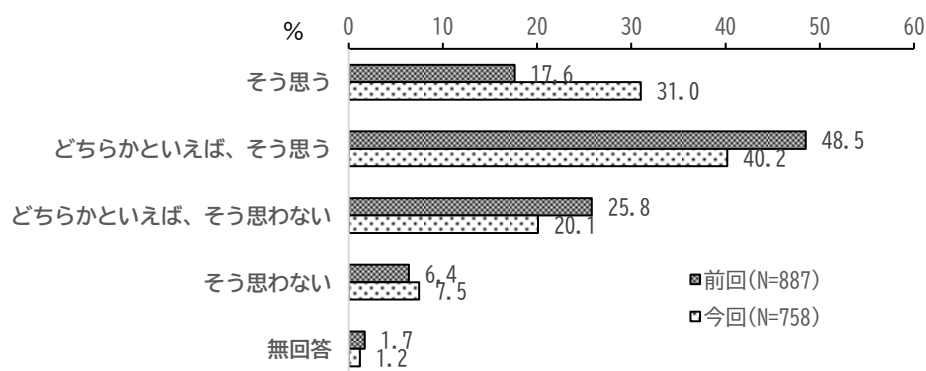


図 8-6

「キ 結婚している、パートナーと生活している」以外の全平均スコアは、15～19歳で0.93と最も高く、年齢を追うごとに低下していく。「キ」については、20～24歳が最も低く0.17であった。

① 15～19歳

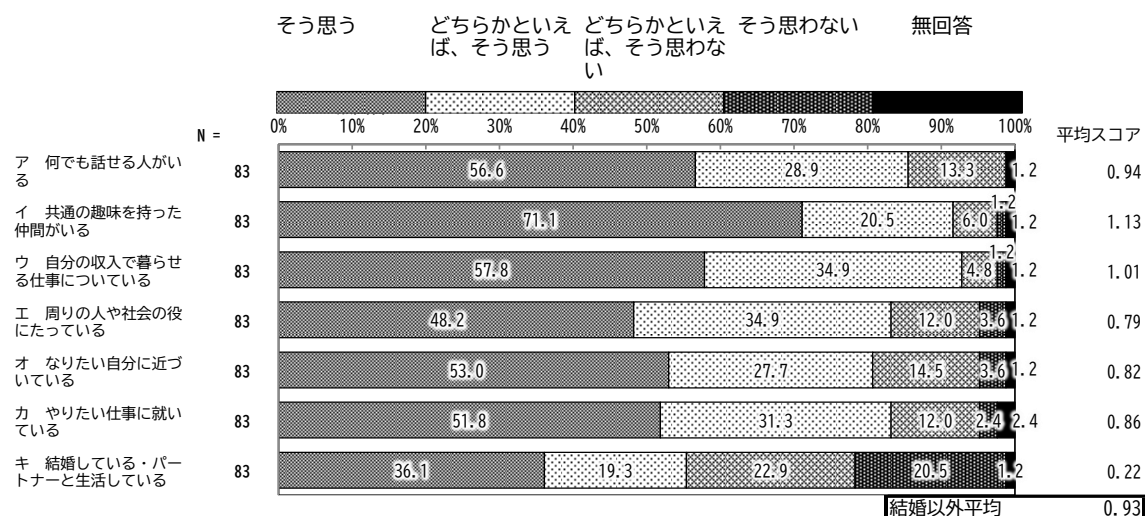


図 8-7

② 20～24歳

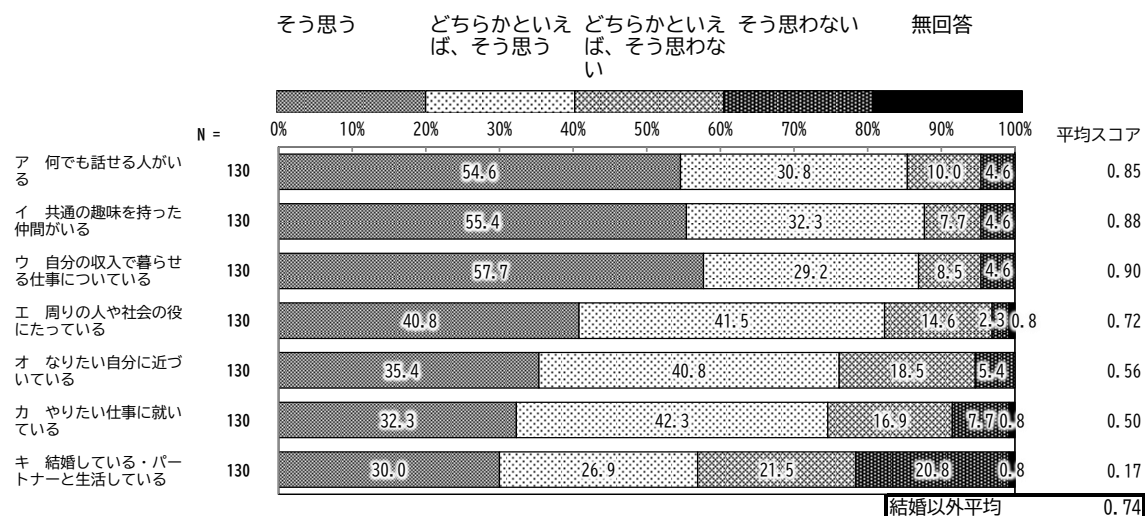


図 8-8

③ 25～29 歳

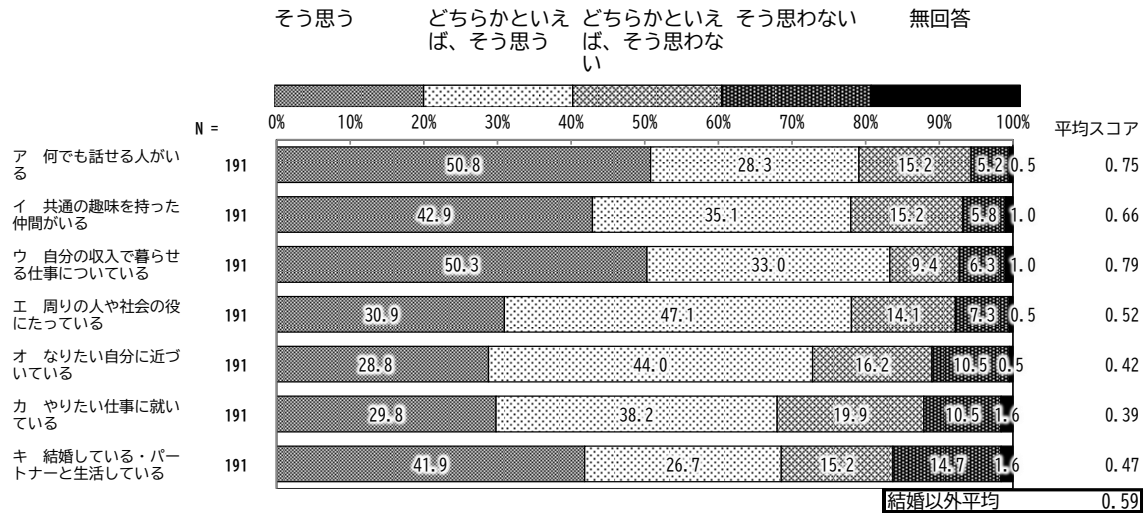


図 8-9

④ 30～35 歳

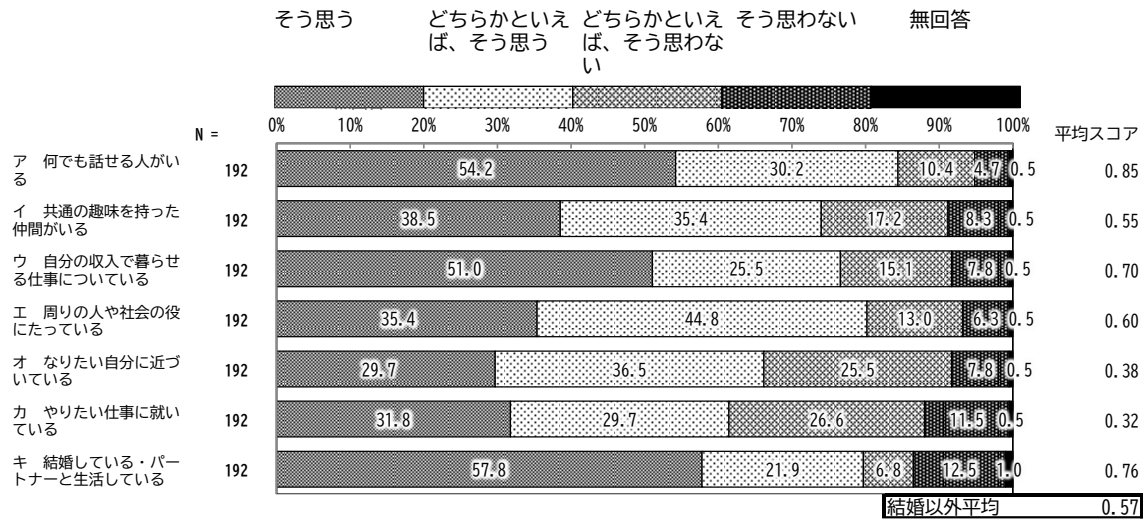


図 8-10

⑤ 35～39 歳

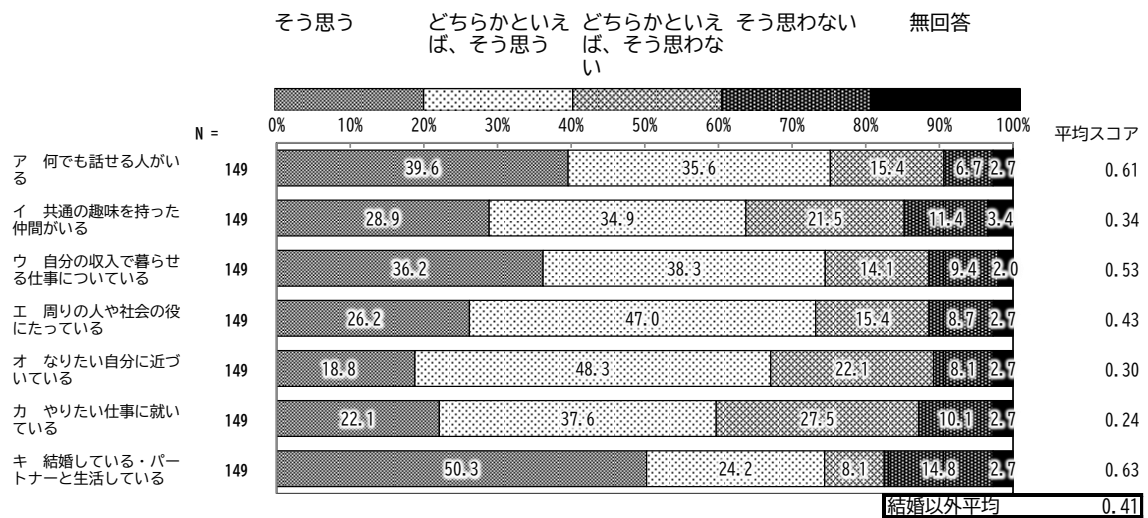


図 8-11

《かかわりと将来像の関係》

図 8-12～図 8-15 に示す通り、問 4 で調査した家族とのかかわりの全平均スコアが、1.5～0.75（かかわりがある）、0.75～0（かかわりがややある）、0～-0.75（かかわりがややない）、-0.75～-1.5（かかわりがない）のそれぞれの若者について将来像の全平均スコアを調査したところ、かかわりがある若者では全平均スコアが 0.81 であるのに対し、かかわりが無い若者では-0.23 と大きな違いがあった。

図 8-16～図 8-31 には、家族以外のかかわりについても比較したものを示す。

① 家族との関わり

1-1 かかわりがある

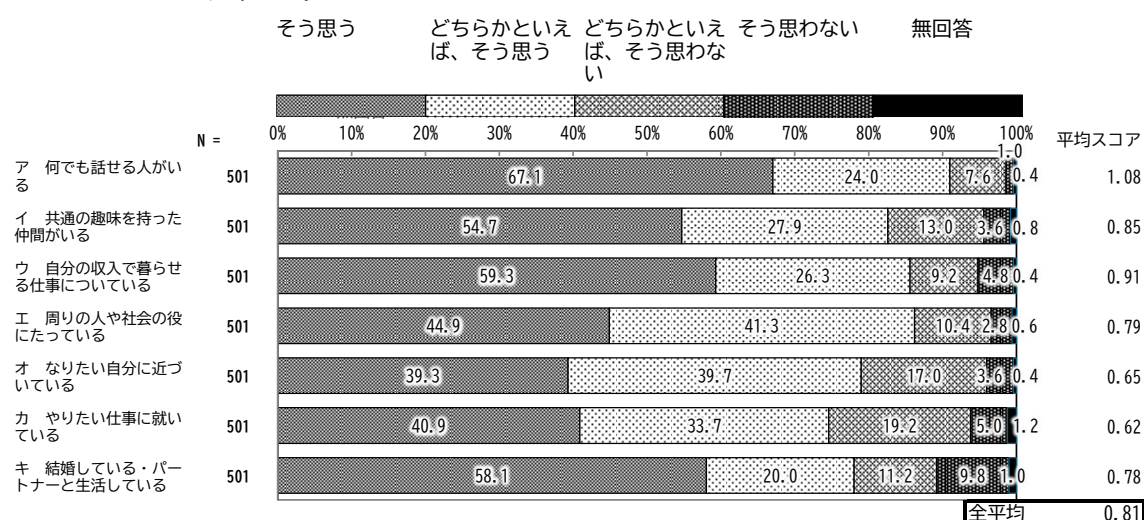


図 8-12

1-2 かかわりがややある

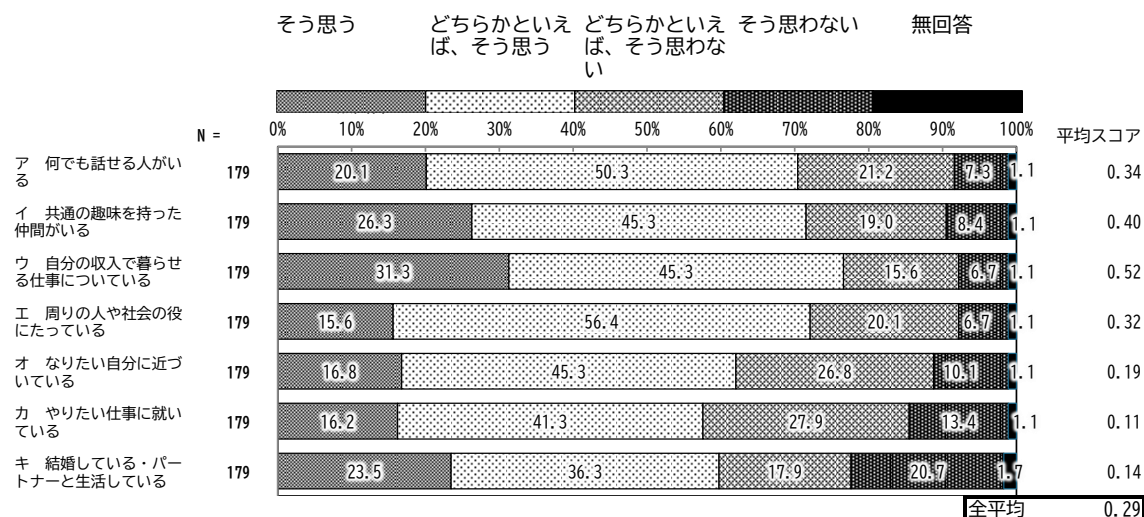


図 8-13

1-3 かかわりがややない

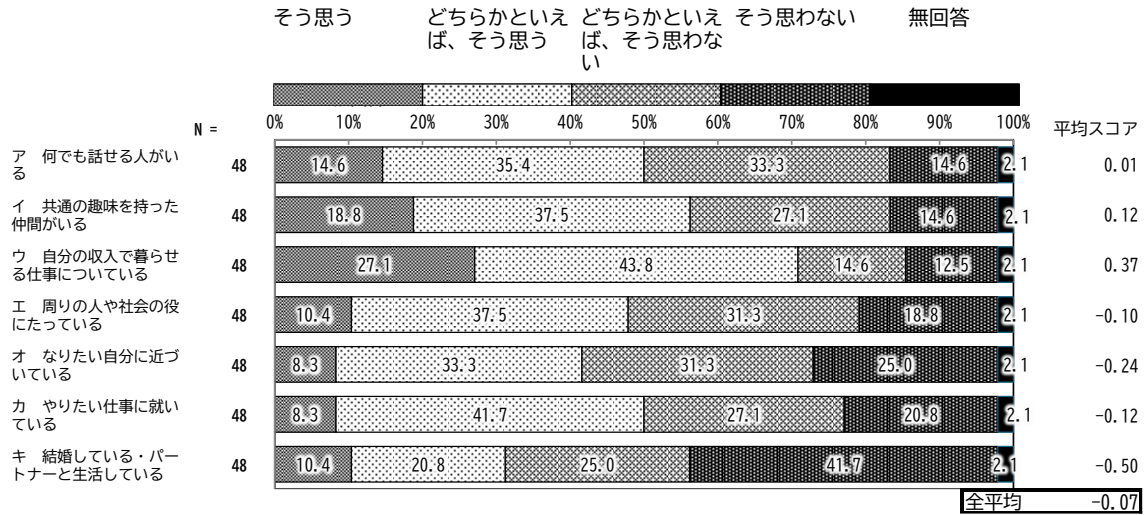


図 8-14

1-4 かかわりがない

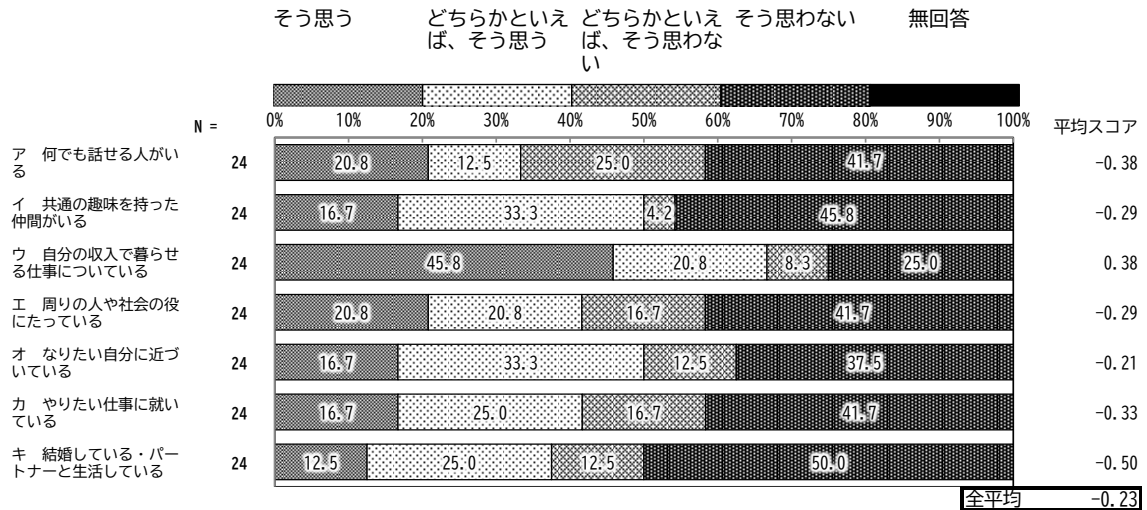


図 8-15

② 学校・職場との関わり

2-1 かかわりがある

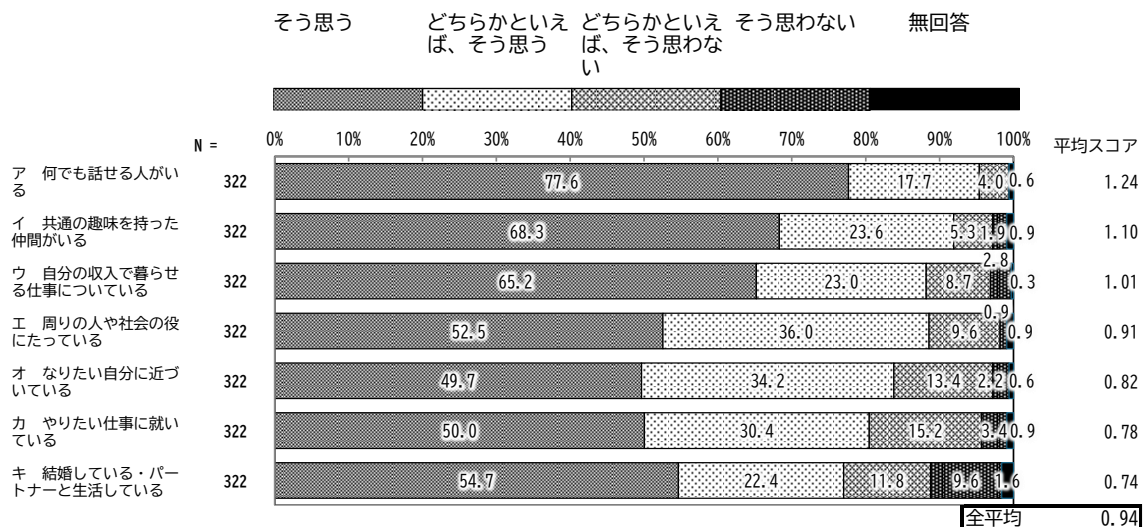


図 8-16

2-2 かかわりがややある

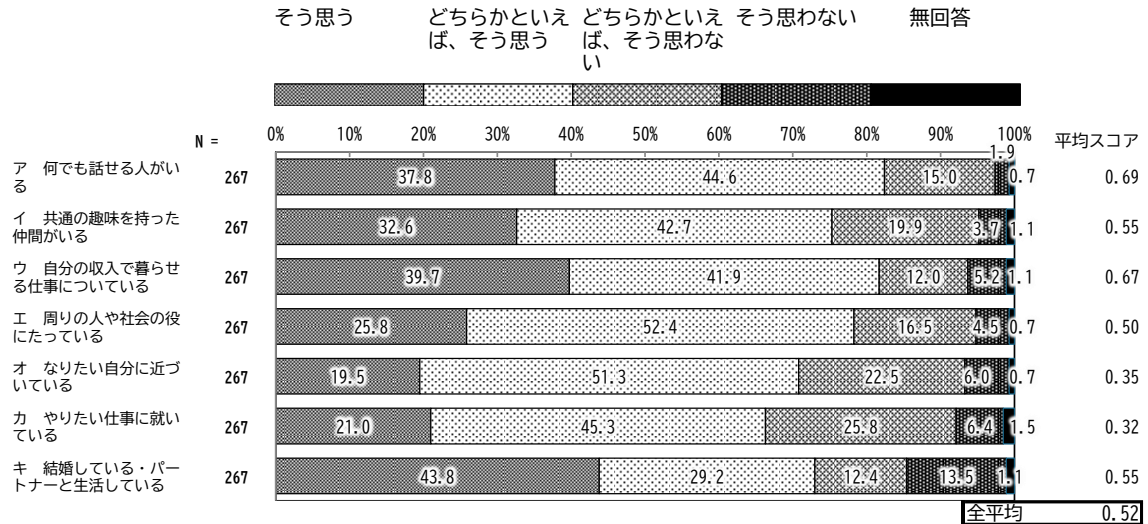


図 8-17

2-3 かかわりがややない

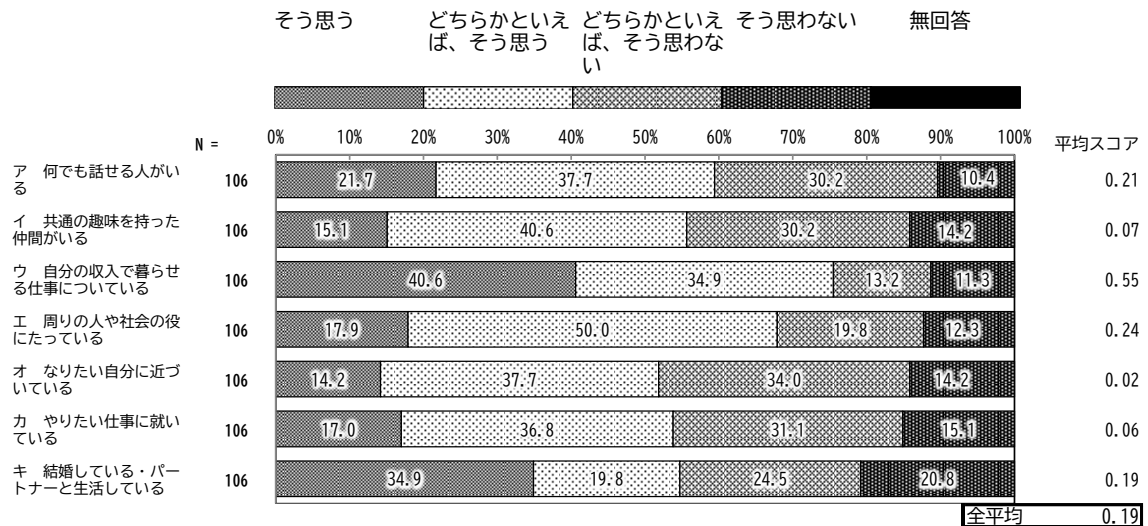


図 8-18

2-4 かかわりがない

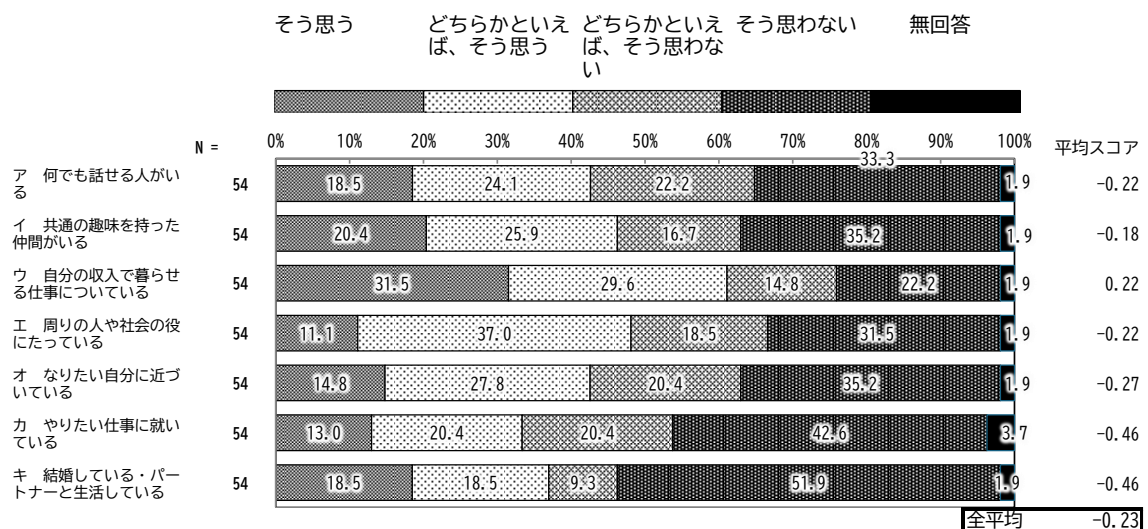


図 8-19

③ 地域との関わり

3-1 かかわりがある

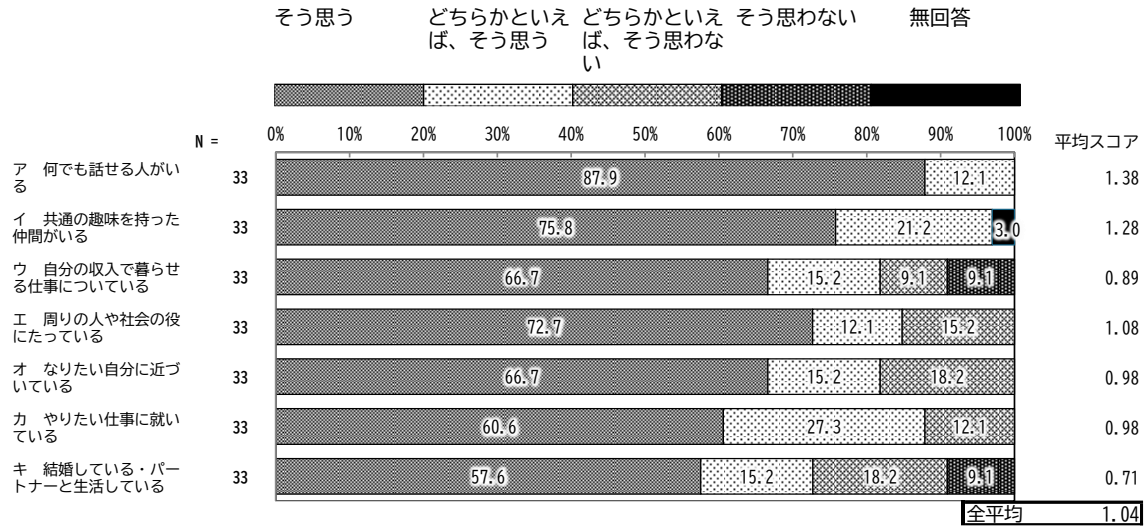


図 8-20

3-2 かかわりがややある

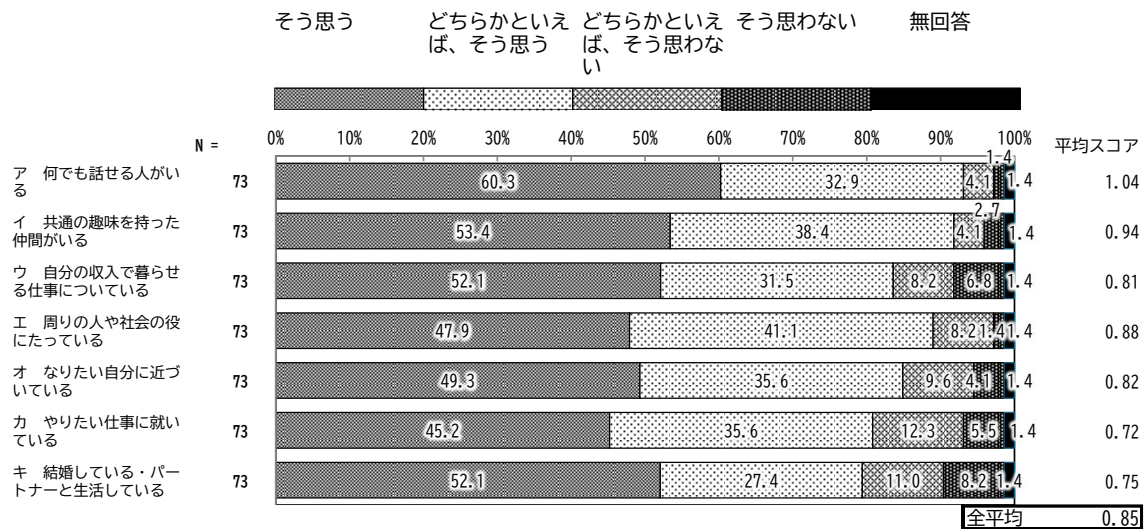


図 8-21

3-3 かかわりがややない

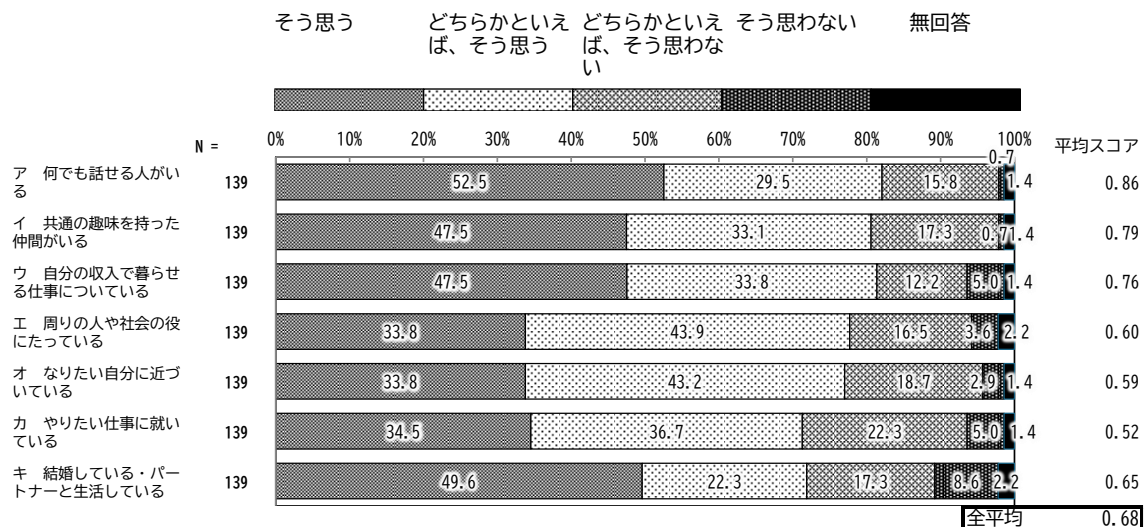


図 8-22

3-4 かかわりがない

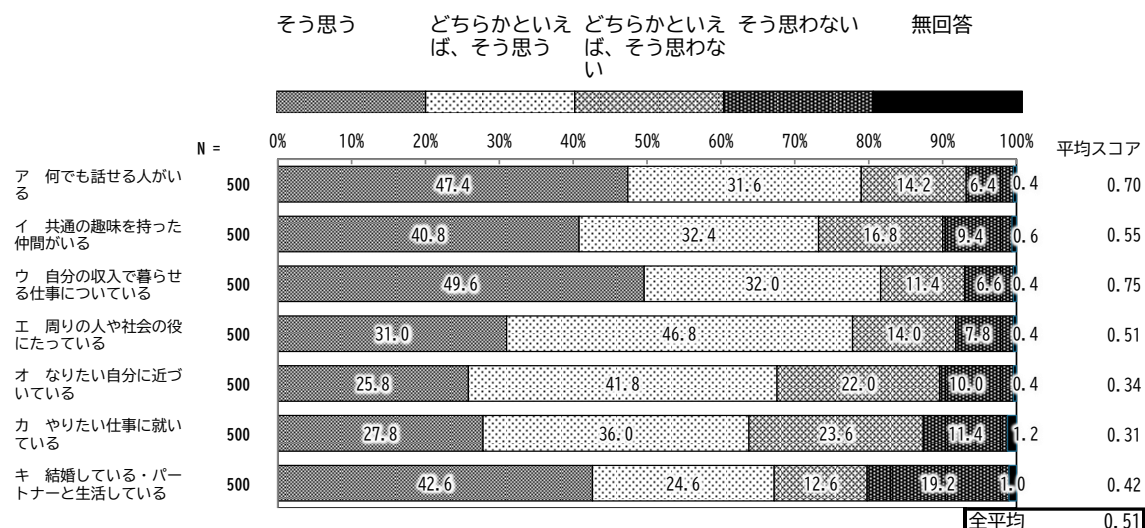


図 8-23

④ インターネットとの関わり

4-1 かかわりがある

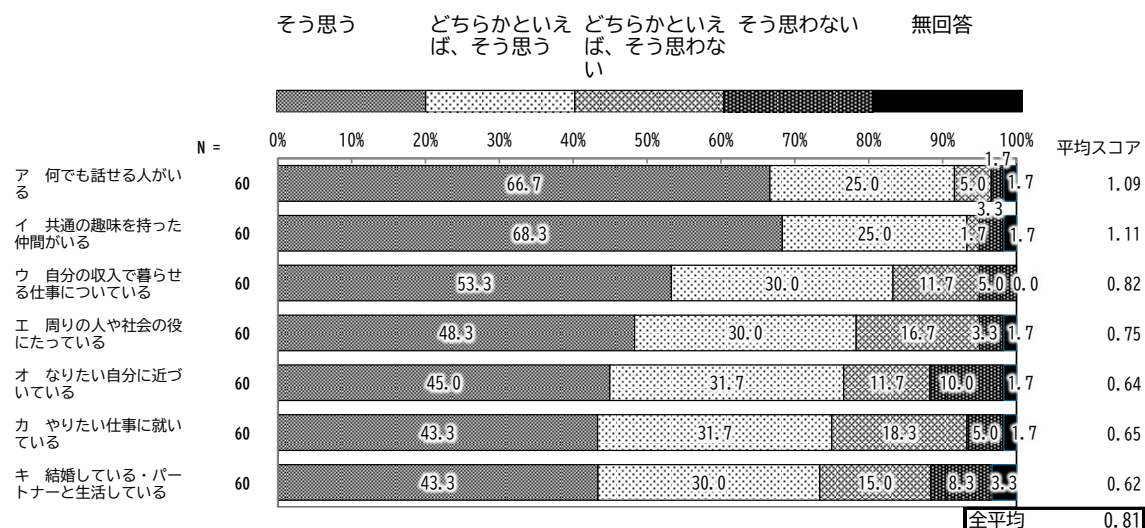


図 8-24

4-2 かかわりがややある

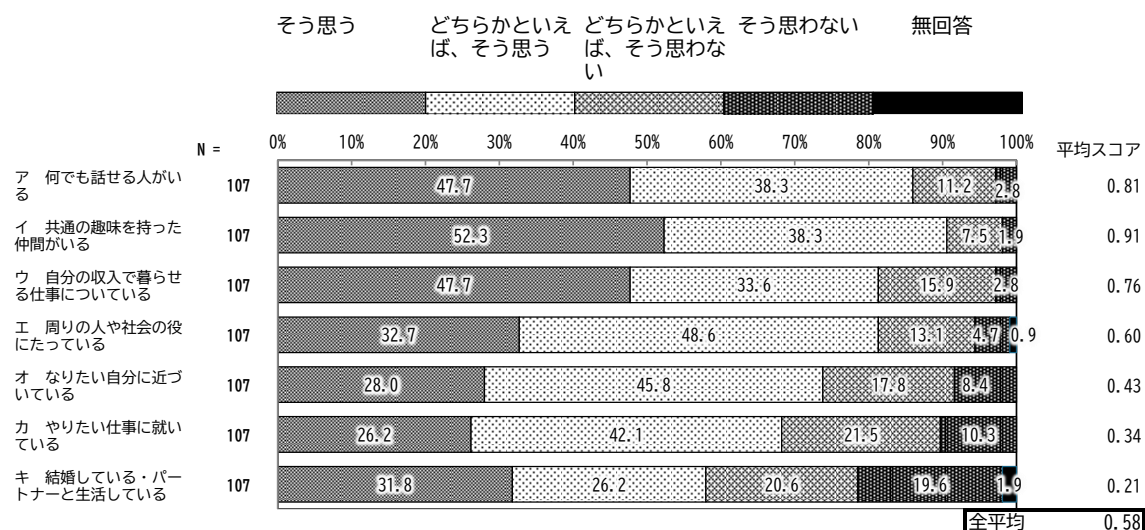


図 8-25

4-3 かかわりがややらない

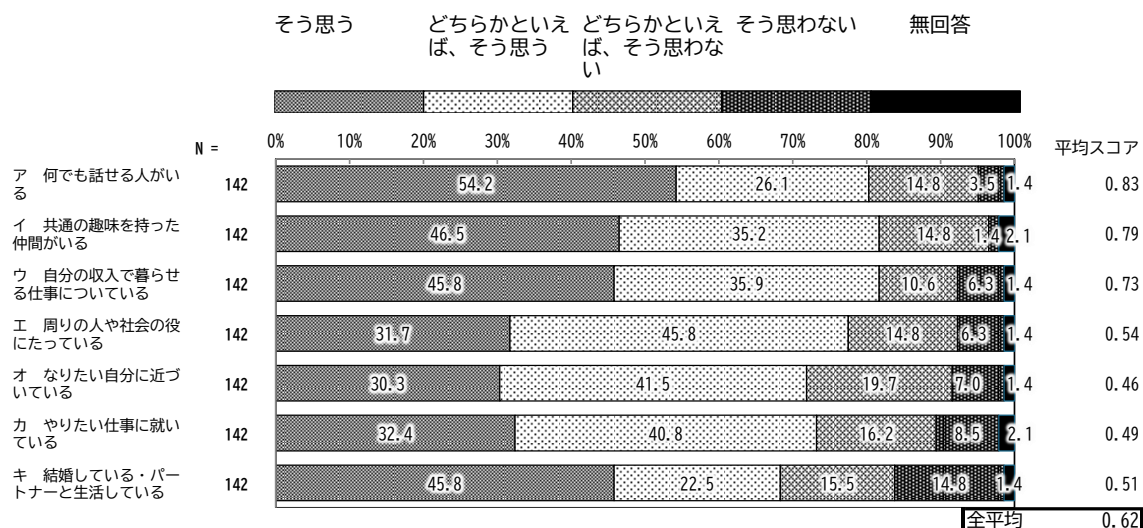


図 8-26

4-4 かかわりがない

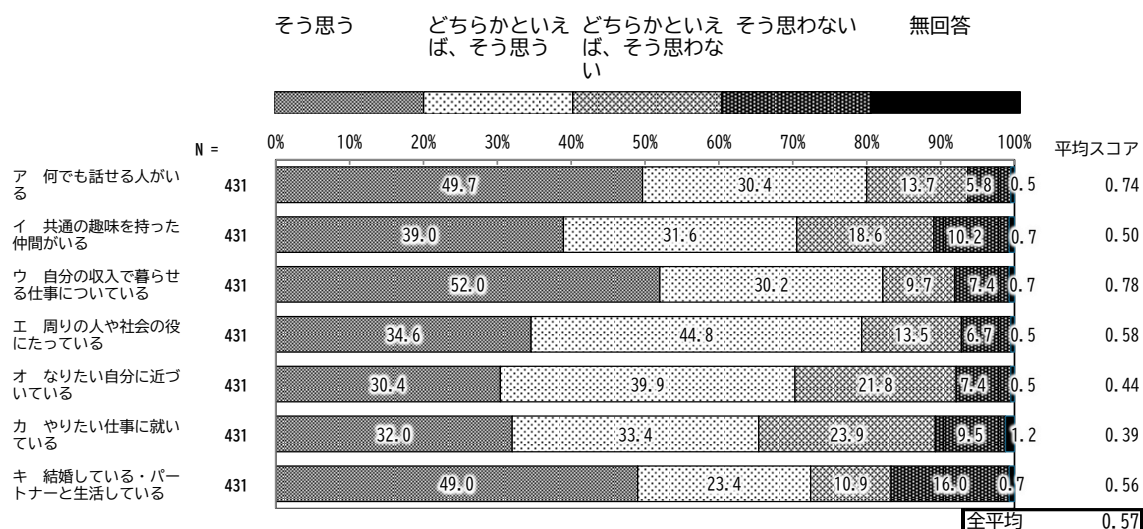


図 8-27

⑤ インターネットとの関わり

5-1 かかわりがある

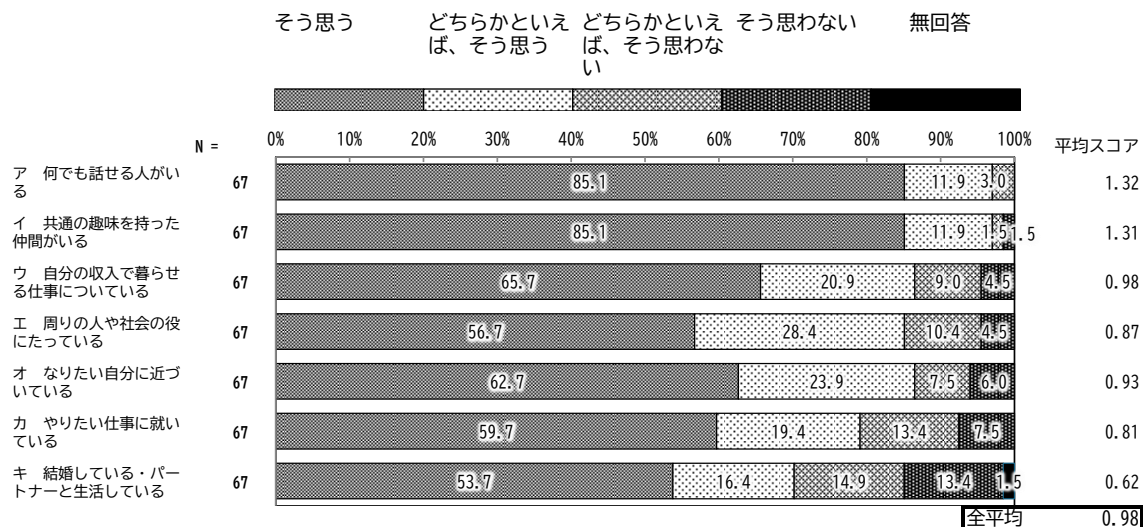


図 8-28

5-2 かかわりがややある

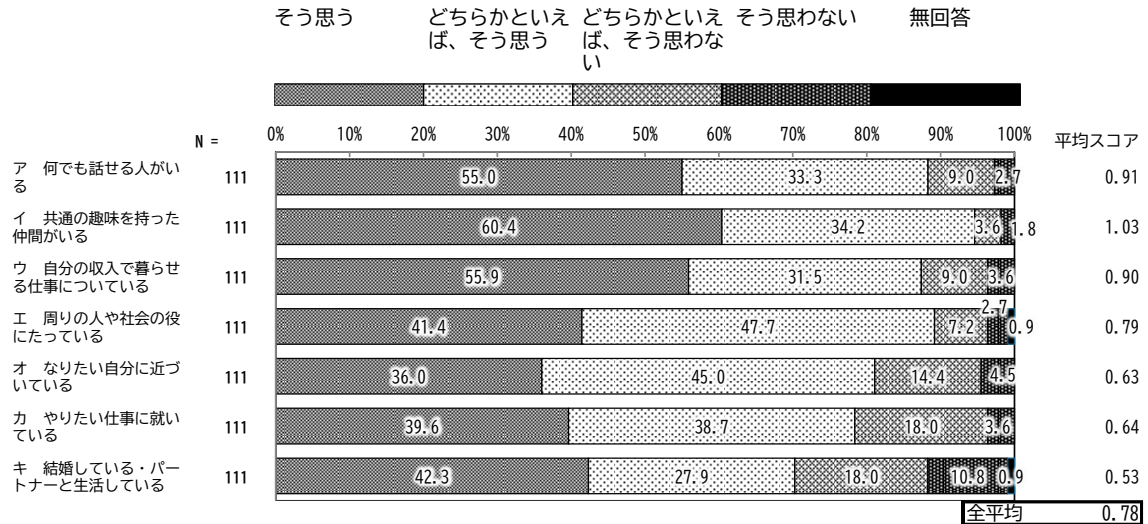


図 8-29

5-3 かかわりがややない

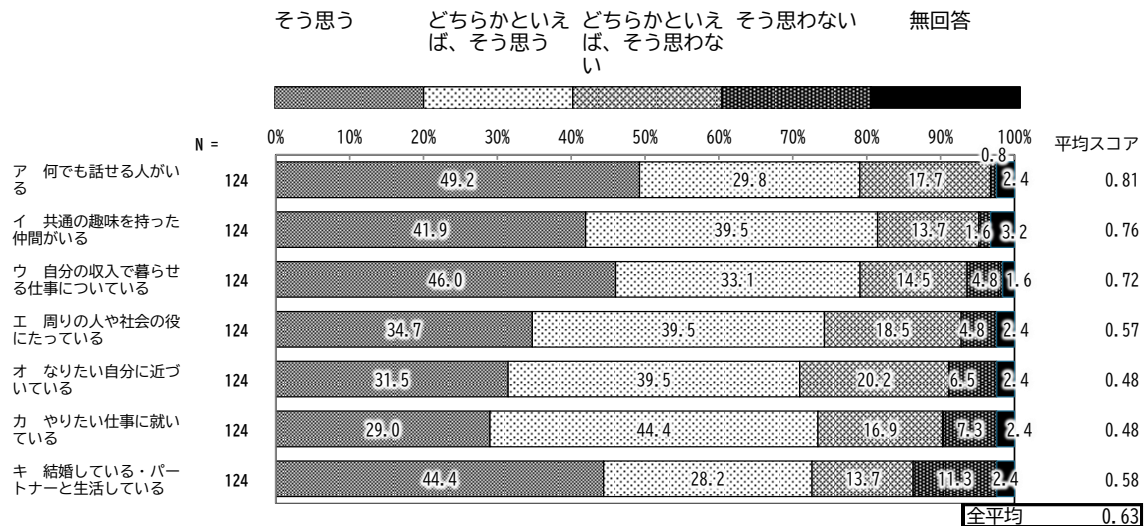


図 8-30

5-4 かかわりがない

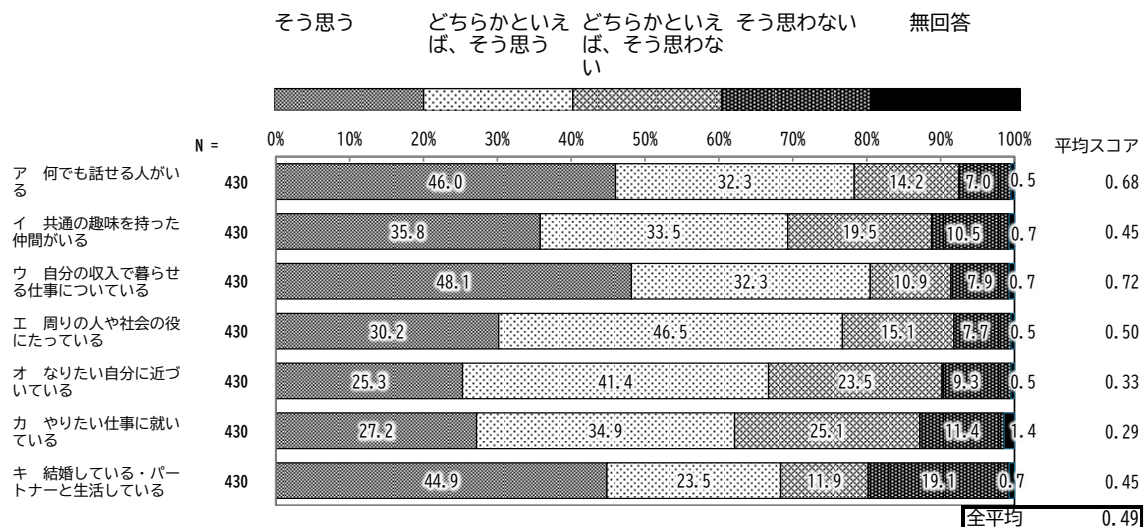


図 8-31

《それぞれのかかわりの将来像の平均スコアの関係》

図 8-32 は、「家族」、「学校・職場」、「地域」、「インターネット」、「趣味」それぞれのかかわりと将来像の平均スコアの関係性をまとめたものである。「家族」および「学校・職場」とのかかわりと将来像の平均スコアの間には強い相関があり、かかわりが強いほど良い将来像を持つことが分かる。また、「地域」「趣味」においても関連性があったが、「インターネット」については大きな違いは無かった。

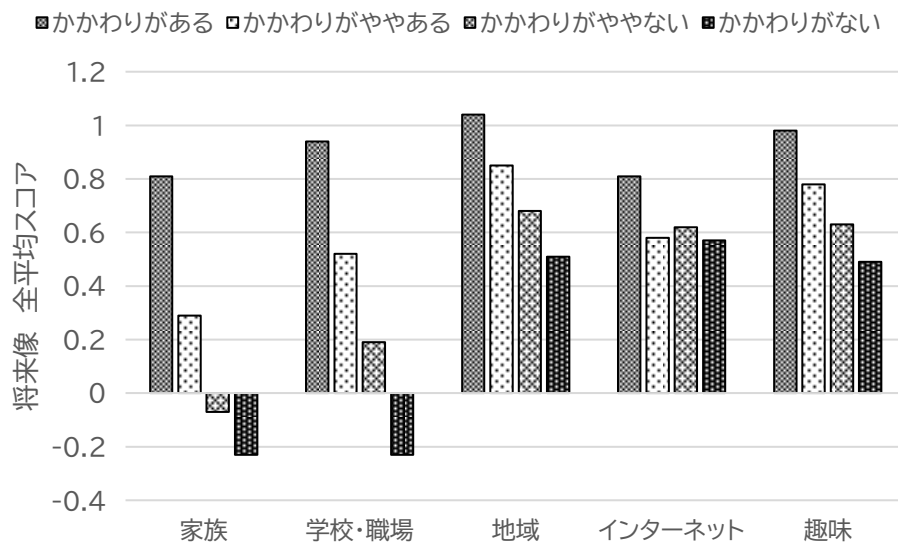


図 8-32

問 9-1 あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますか（複数回答）

「お金のこと」が最も高く 55.5%、次いで「自分の将来のこと」が 51.5%であった。

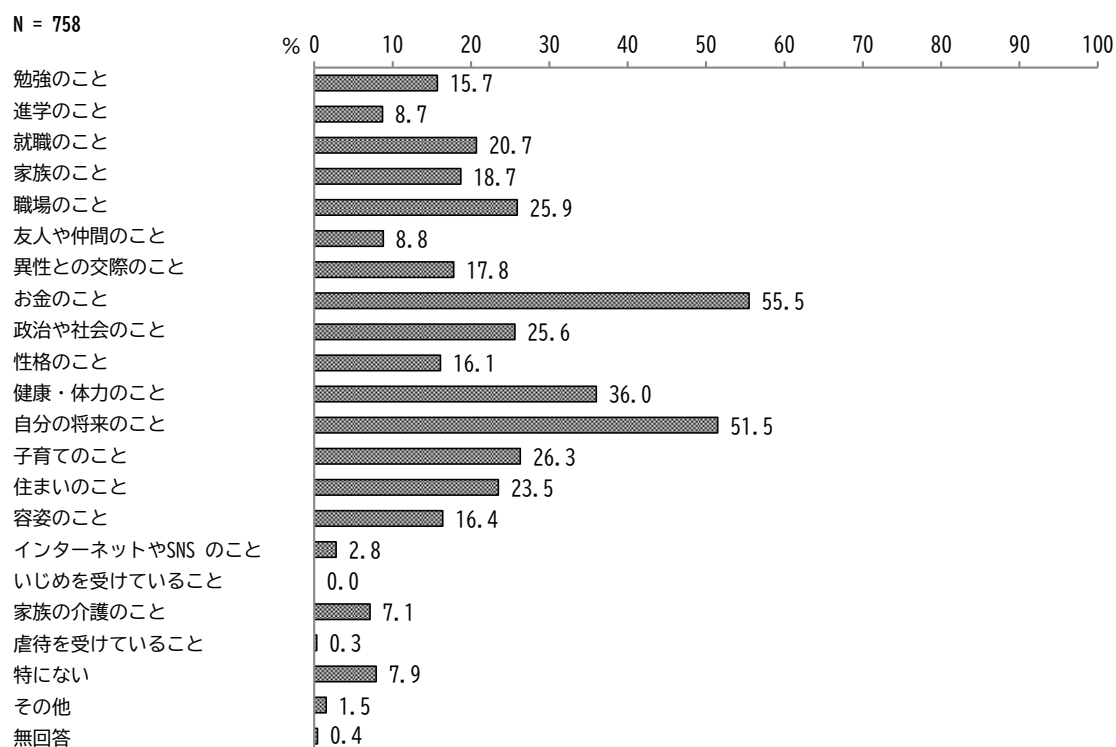


図 9-1

その他自由記述

○同性愛のこと

○自分のキャリアについて

○夫婦関係のこと

○両親が永眠いたしました後、自分の居場所はどこですか？

○死を選ばない

○永住権取得

○犯罪に巻き込まれないか心配。強盗等テレビで取り上げられている為

○子育てと仕事の両立

○仕事内容

○特になし

◀ 前回調査との比較 ▶

図 9-2 は、前回調査との比較である。数値が記入していない棒は前回調査には含まれていない選択肢である。前回調査よりも増加が大きいのは「自分の将来のこと」で 51.5%であった。逆に「職場のこと」については 25.9%と減少した。

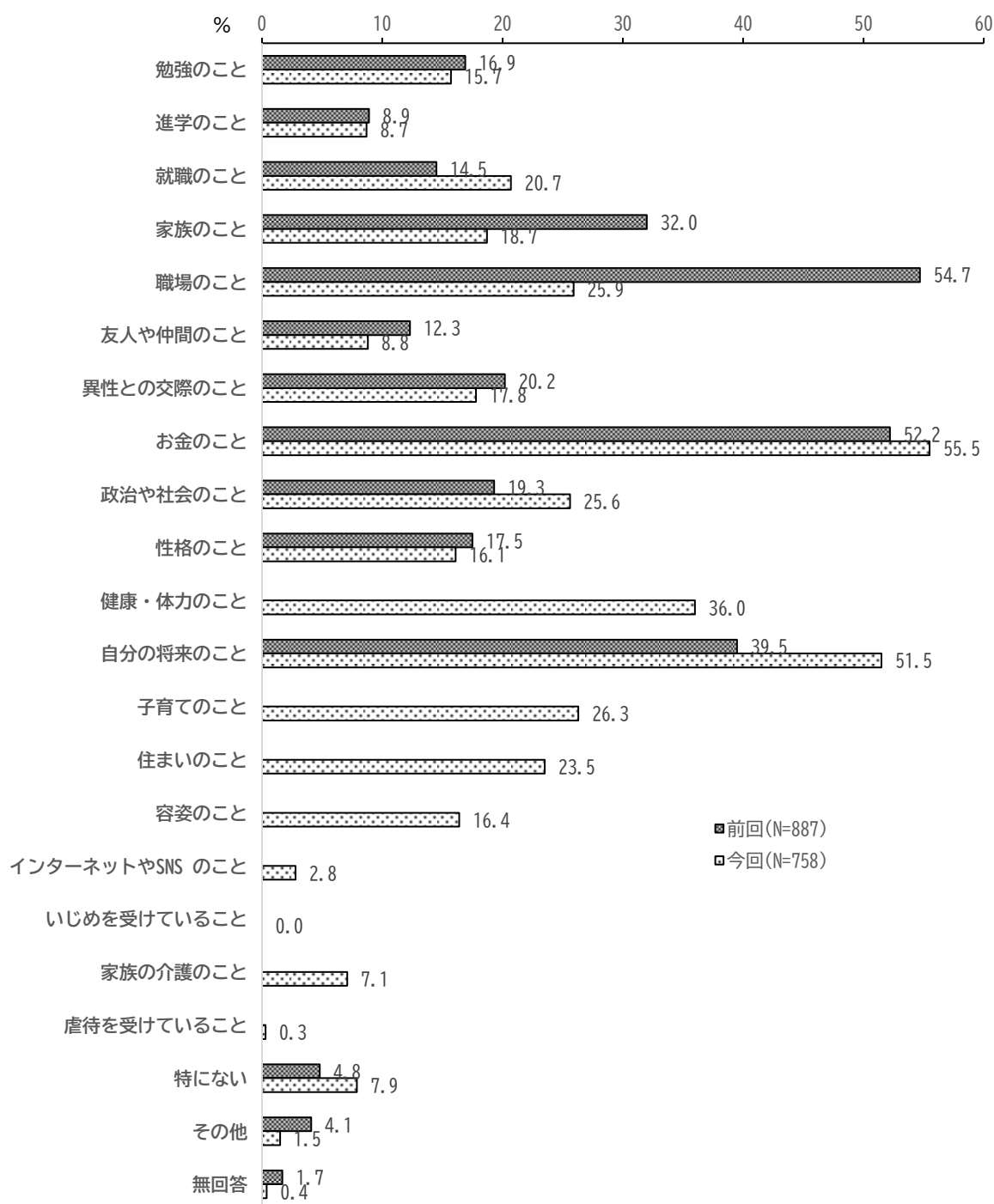


図 9-2

《年代別の悩み》

図 9-3 に示す通り、15～19 歳では、「勉強のこと（62.7%）」、「進学のこと（55.4%）」、「自分の将来のこと（45.8%）」の順で多かった。20～24 歳では、「自分の将来のこと（65.4%）」、「お金のこと（53.1%）」、「就職のこと（33.8%）」、25～29 歳では、「お金のこと（63.9%）」、自分の将来のこと（59.7%）」、「職場のこと（35.6%）」、30～34 歳では、「お金のこと（53.1%）」、「自分の将来のこと（42.2%）」、「子育てのこと（40.6%）」、35～39 歳では、「お金のこと（63.1%）」、「健康・体力のこと（51.0%）」、「子育てのこと（47.0%）」の順になっている。各世代に共通するのは「お金のこと」、「自分の将来のこと」で、あとは各年代のライフスタイルに応じたものになっている。

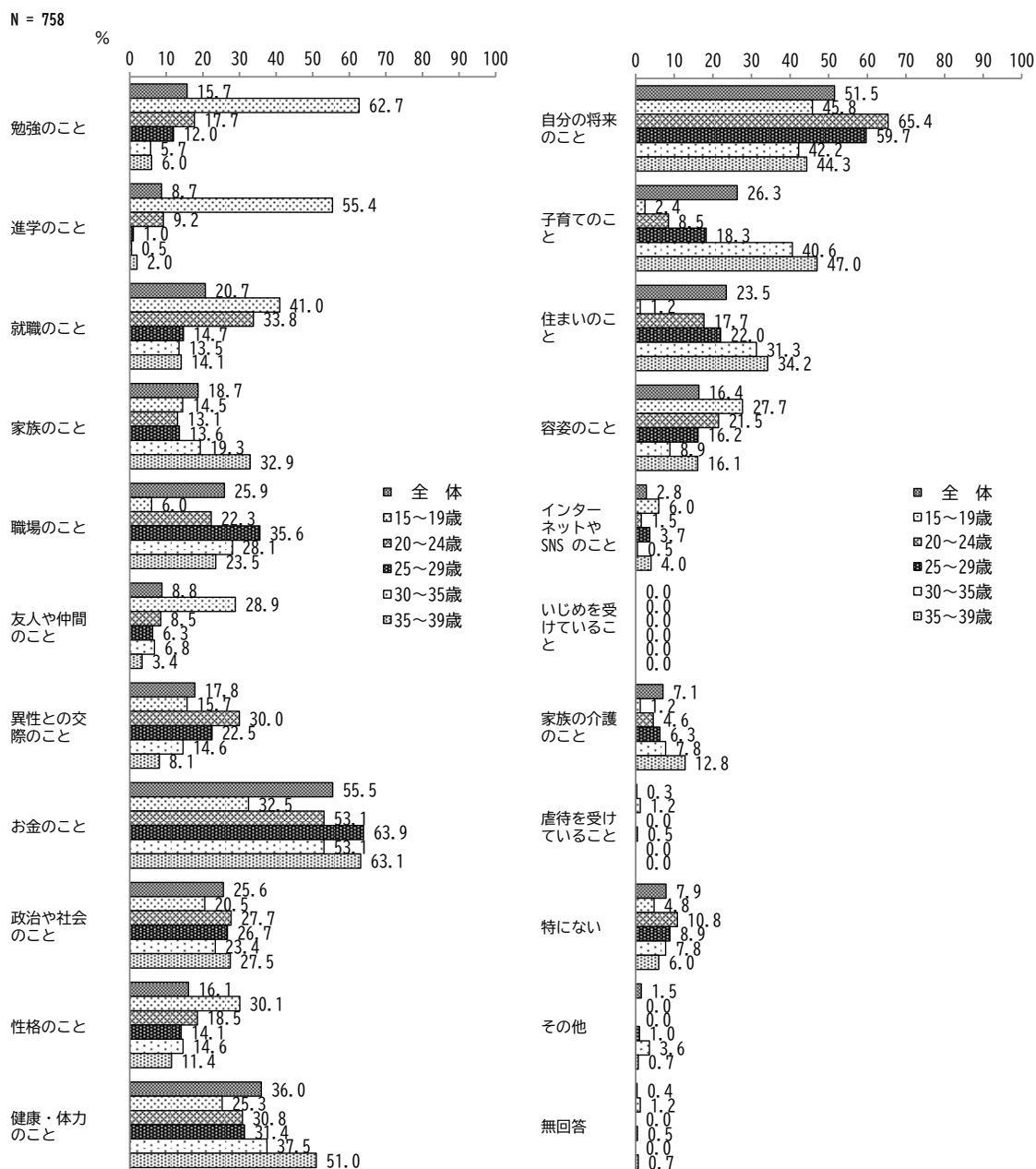


図 9-3

「家族構成別の悩み」

家族構成別では、「単身」世帯では「お金のこと」が最も高く 62.4%、「夫婦と子ども」世帯では「子育てのこと」が最も高く 74.9%、「夫婦のみ」世帯では「お金のこと」が最も高く 61.9%、「親と同居」世帯では「自分の将来のこと」が最も高く 56.2%であった。

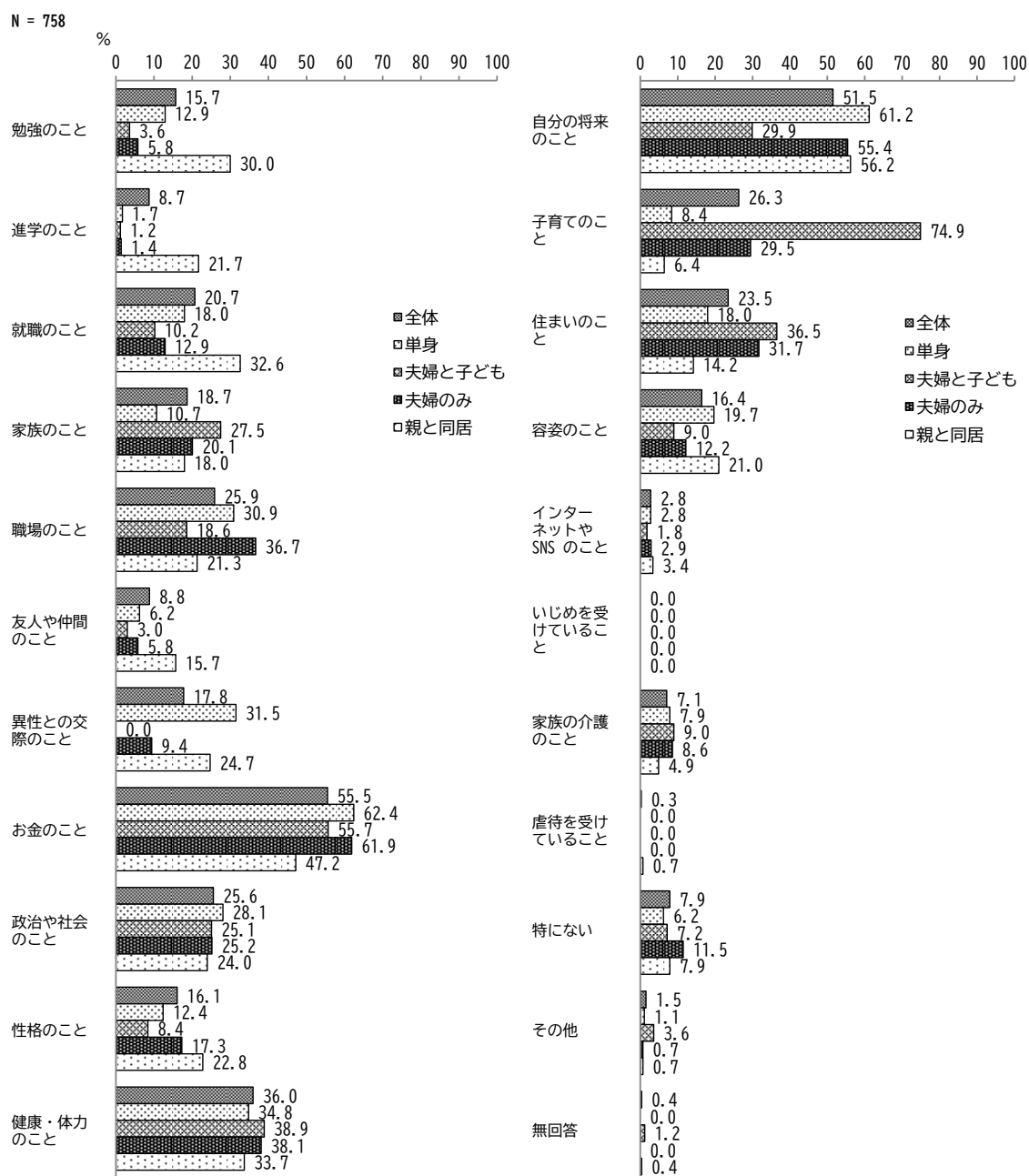


図 9-4

問 9-2 あなたは、悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(単数回答)

「少し思う」が最も高く 33.4%、次いで「思う」が 27.0%であった。

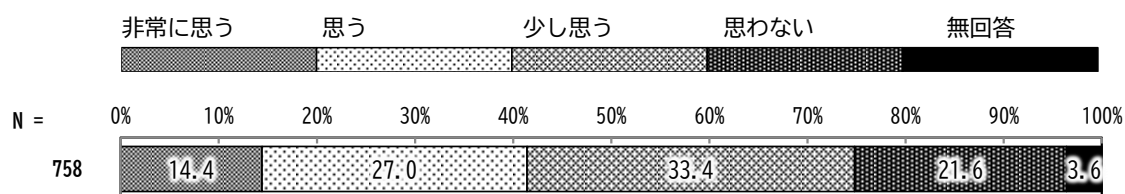


図 9-5

≪前回調査との比較≫

図 9-6 は、前回調査との比較である。「非常に思う」「思う」が減少し、「思わない」が増加している。

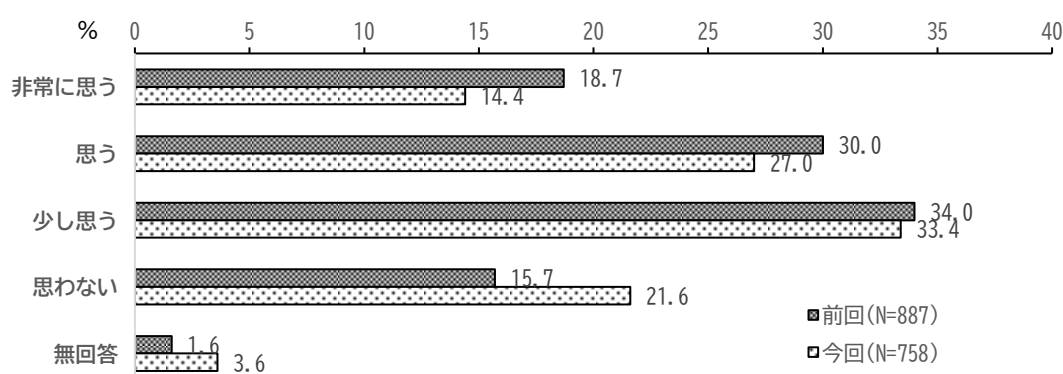


図 9-6

問 9-3 「4 思わない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。(単数回答)

問 9-2 で「思わない」と選択した理由のうち、「自身で解決できるから」が最も高く 48.8%、次いで「相談したとしても解決すると思えないから」が 31.1%であった。

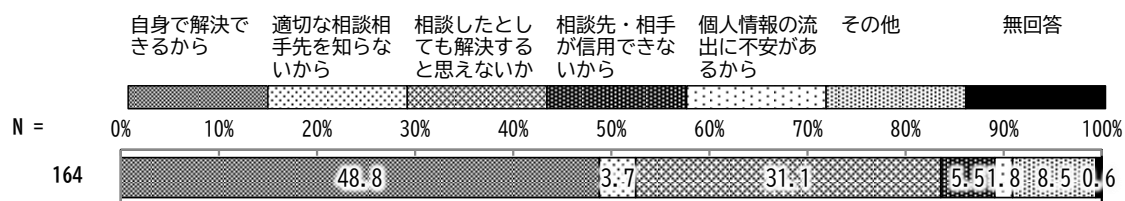


図 9-7

その他自由記述

- 話したくない・面倒 (4)
- 聞いてもらいたい悩みがない (3)
- 相談相手がいる (2)
- 自分で解決したい (2)
- 家や仕事がないときに相談しても何もしてくれなかった
- 障害が持っているから
- 分かりません

「若者の将来像との関係性」

若者の将来像は、自分の悩みを相談したいかどうかにも強く関係していることがわかった。図 9-8～図 9-10 は、悩みを相談することについて「非常に思う」、「思う」、「少し思う」若者毎の将来像を示す。また、相談したいと思わない理由として、「自分で解決したいから」という若者の将来像を図 9-11、「相談しても解決できると思わないから」等それ以外の理由で相談したくない若者の将来像を図 9-12 に示した。これらを比較すると、最も前向きな将来像を持っているのは「相談したくない（自分で解決したいから）」の若者であるのに対し、最も後ろ向きなのは「相談したくない（それ以外の理由）」の若者であった。

また、悩みを相談したいと「非常に思う」若者が感じている将来像の全平均スコアは 2 番目に高く、悩みを相談したいと非常に思っているからといって自分の将来を悲観しているとは言えないことが分かった。むしろ、悩みを積極的に相談したいと思わない若者のほうが将来像を不安視している程度が大きくなることから、問 8 の「かかわりと将来像の関係」でも見たように、他者とのコミュニケーションの良し悪しが、若者の将来像に影響していると考えられる。

① 将来像（相談したいと非常に思う）

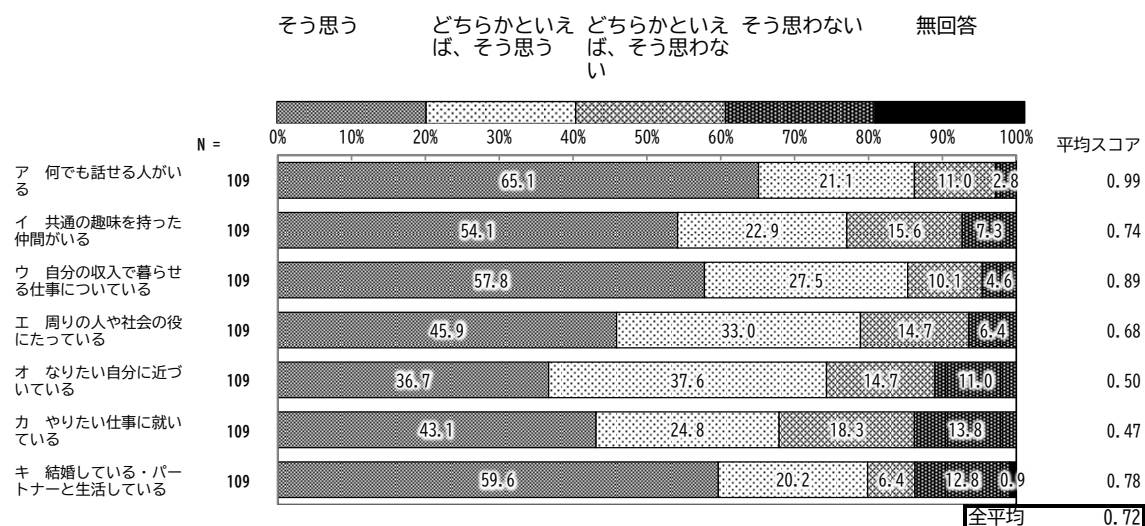


図 9-8

② 将来像（相談したいと思う）

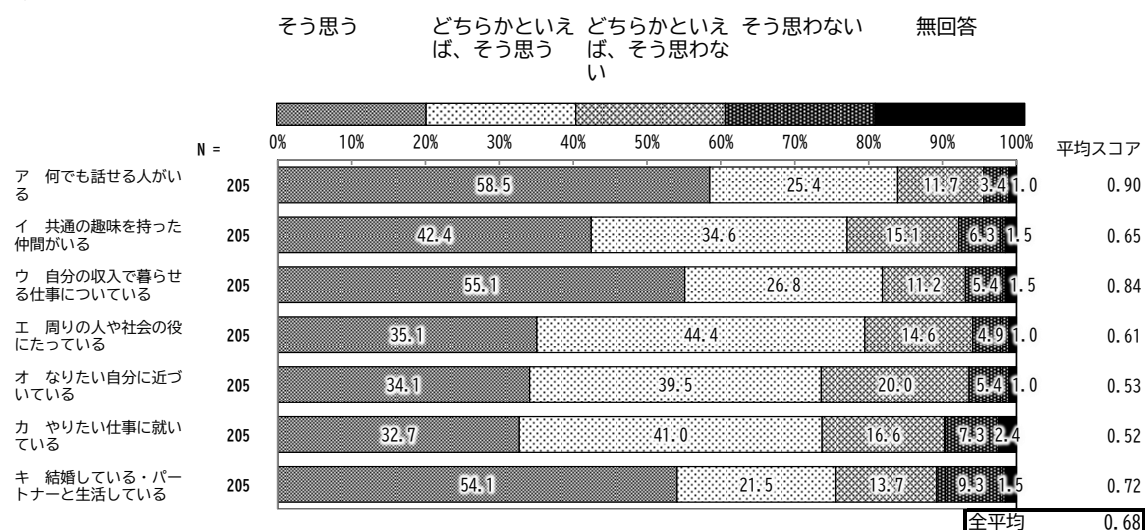


図 9-9

③ 将来像（相談したいと少し思う）

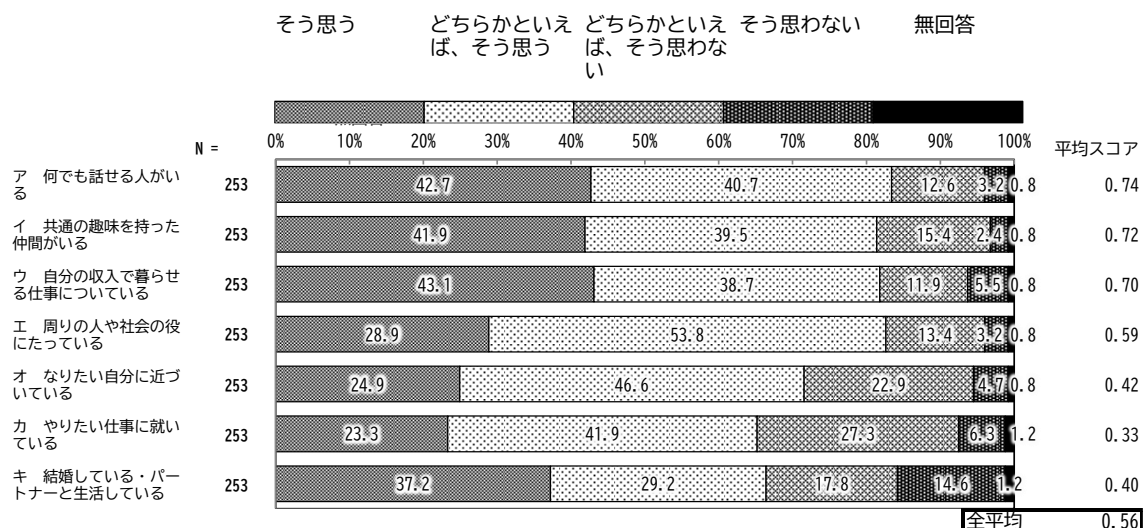


図 9-10

④ 将来像（相談したくない（自分で解決できる））

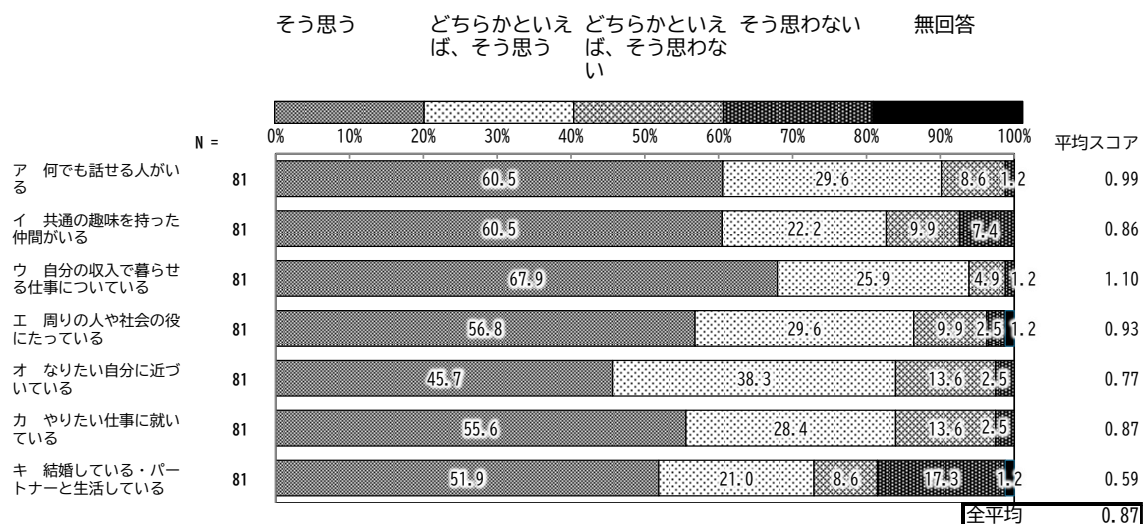


図 9-11

⑤ 将来像（相談したくない（それ以外の理由））

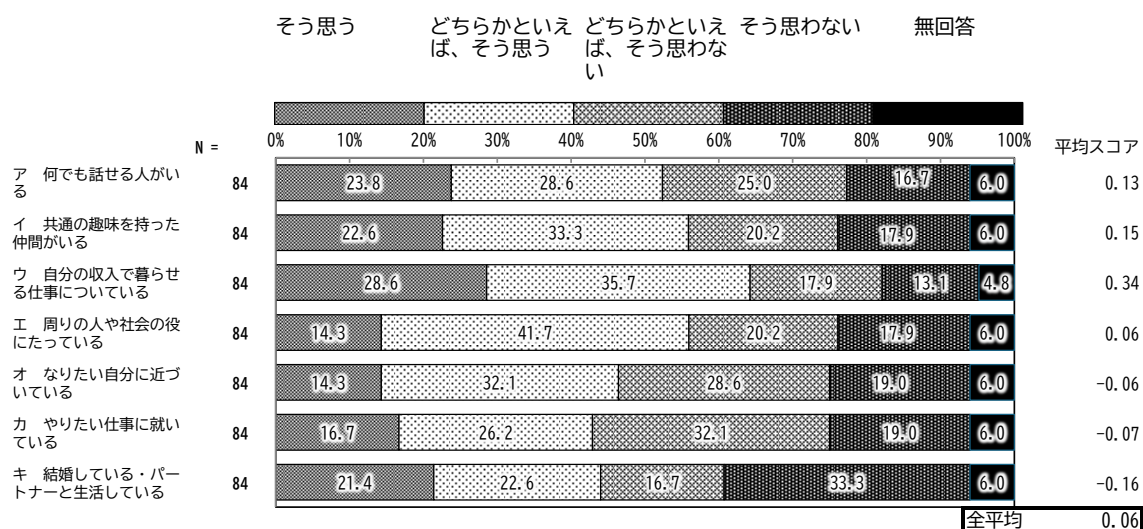


図 9-12

《若者の悩みとの関係性》

「相談したくない（自分で解決する）」、「相談したくない（それ以外の理由）」「相談したい」の若者の悩みを比較したところ、「相談したくない（自分で解決する）」若者の悩みの割合は相対的に低かったが、「相談したくない（それ以外の理由）」と「相談したい」若者の割合はあまり変わらなかった。

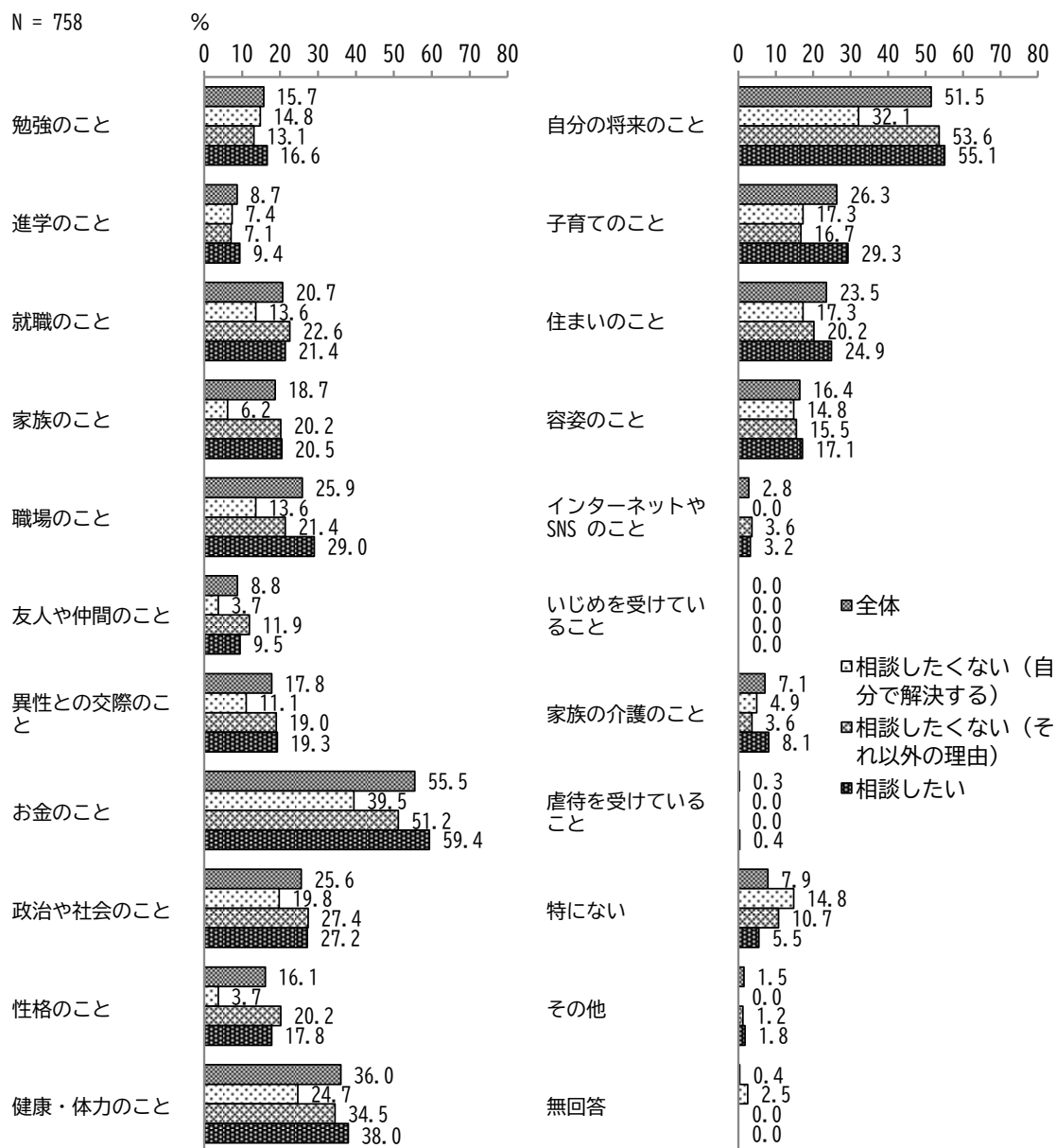


図 9-13

問 9-4 あなたは普段悩み事を誰に相談しますか。(複数回答)

問 9-2 で、悩み事を相談したいと「非常に思う」、「思う」、「少し思う」と答えた方に、悩み事を相談したい人を伺ったところ、「親」が最も高く 60.8%、次いで「知人・友人」が 57.5%であった。「カウンセラー・精神科医」、「区役所などの専門機関の人」、「NPO など民間の相談機関の人」など、外部専門家への相談の割合はいずれも低かった。

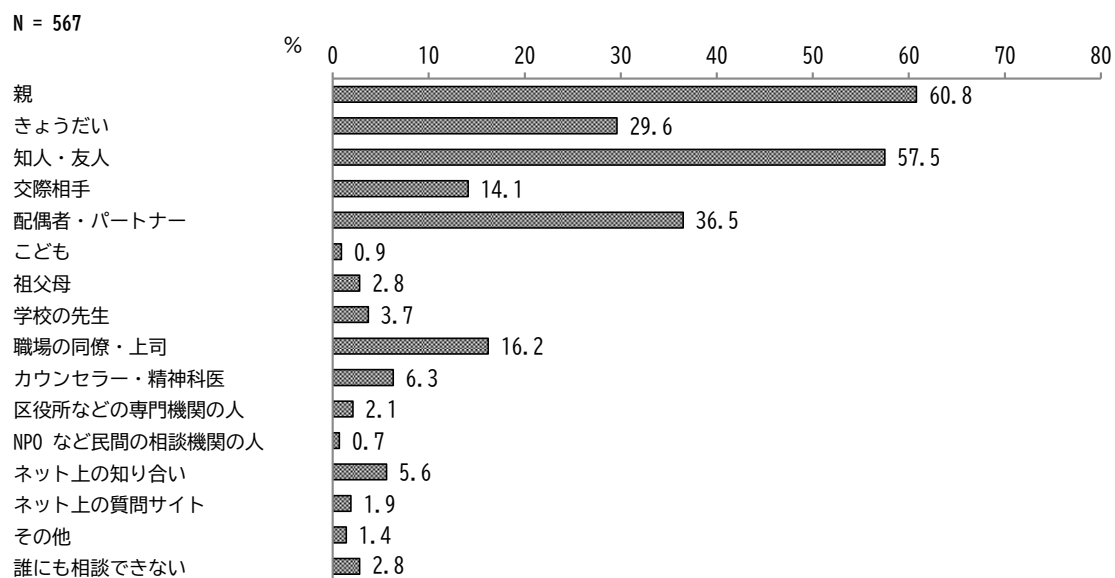


図 9-14

その他自由記述

- 友人
- スポーツ仲間
- 習い事の先生
- 親戚（おば、おじ）
- チャット GPT (2)
- May dairy books& God
- Twitter に吐き捨てる

<<前回調査との比較>>

図 9-15 は、前回調査との比較である。前回は全ての人を対象に伺っているのに対し、今回調査では、問 9-2 で悩み事を相談したいと「非常に思う」、「思う」、「少し思う」と答えた方に伺っているため「誰にも相談したくない」という選択肢は無くなっている。前回に比べ、「親」、「きょうだい」と答えた割合が増加している。

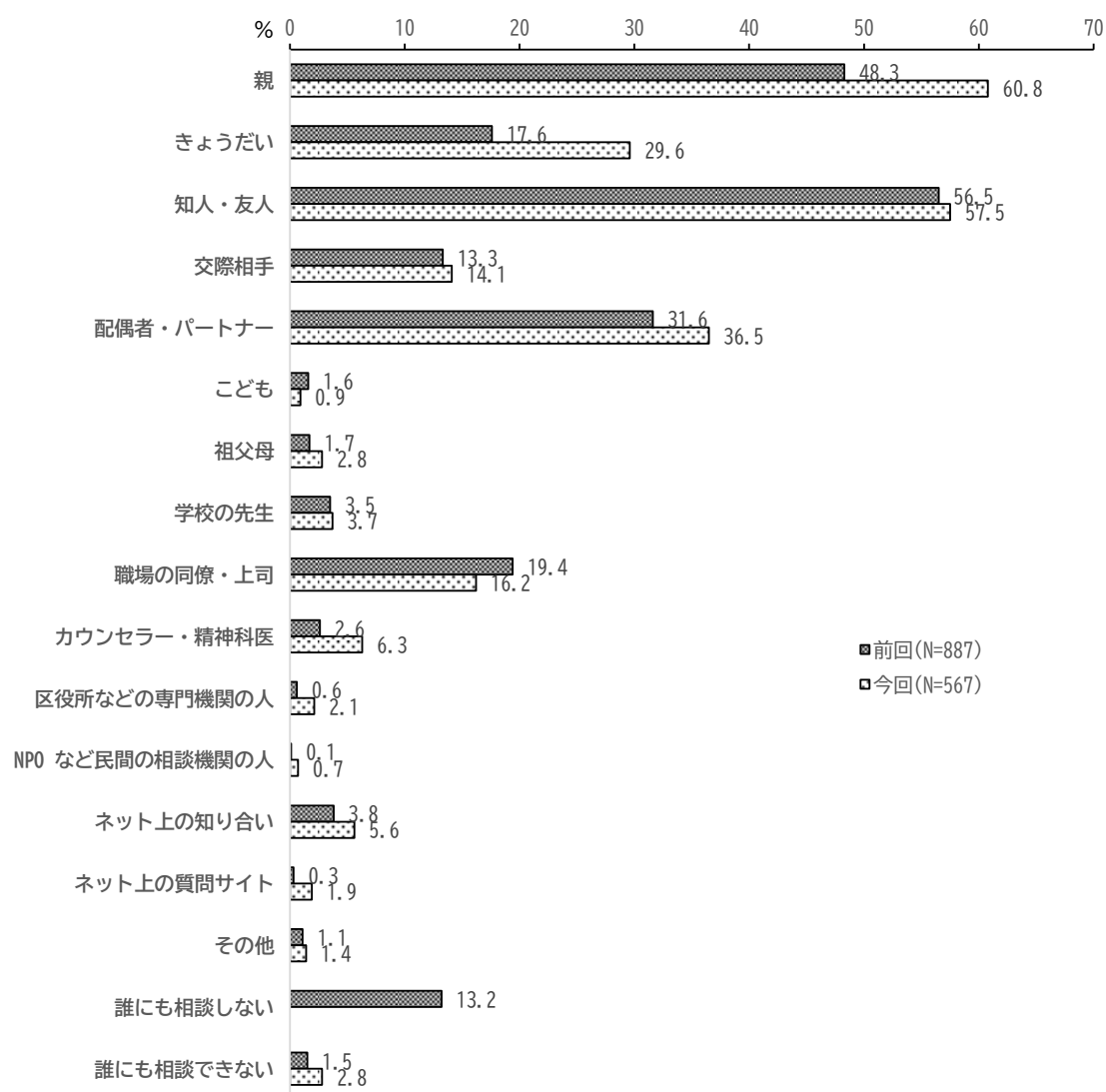


図 9-15

「家族構成別の相談先」

「単身」世帯は「知人・友人」が最も高く 64.7%、「夫婦と子ども」、「夫婦」世帯はいずれも「配偶者・パートナー」が最も高く 85.8%、76.5%、「親と同居」世帯は「親」が最も高く 71.0%であった。

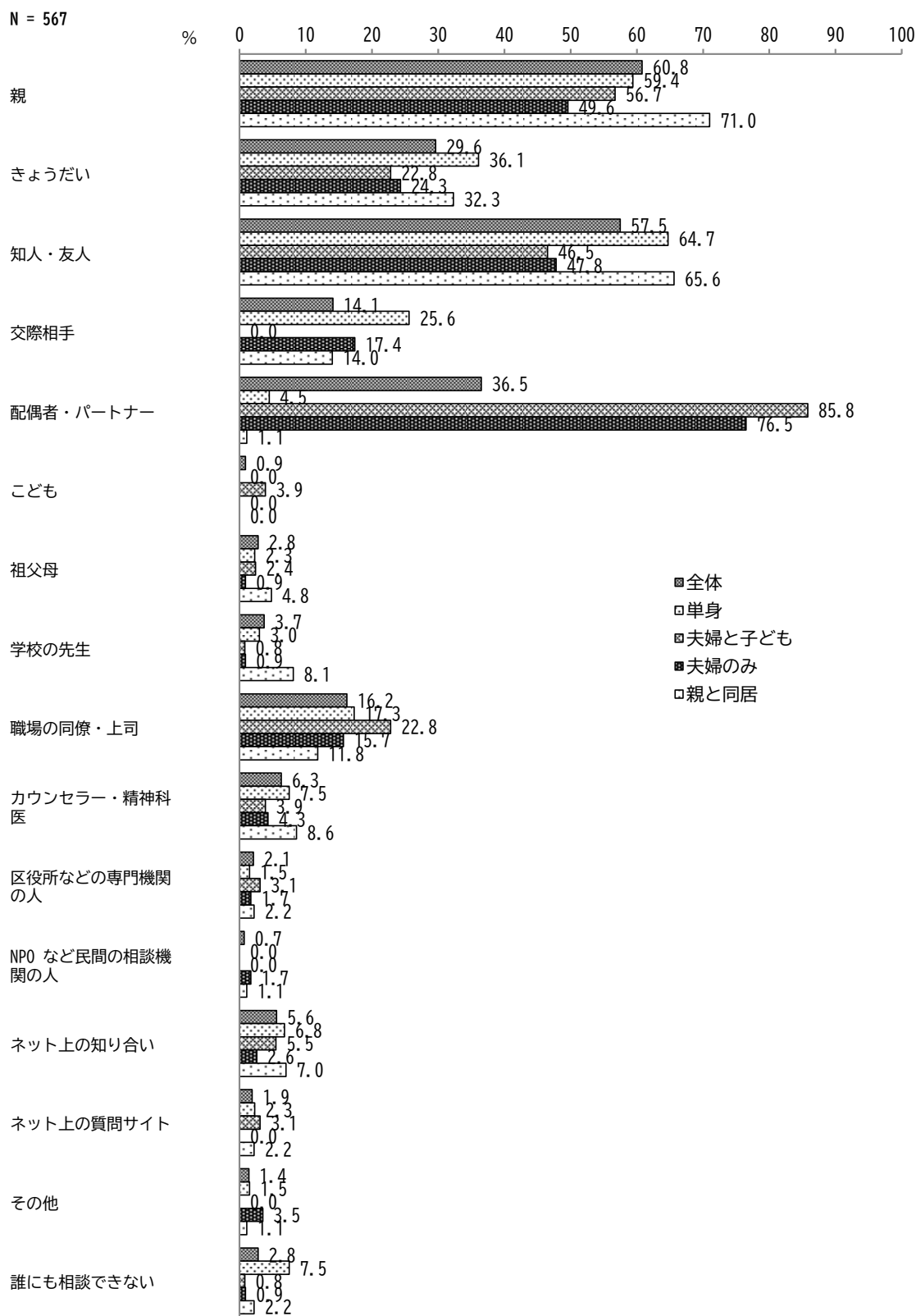


図 9-16

問 9-5 「16 誰にも相談できない」と選択した理由をお聞かせください。

- 相談できる人がいない。
- 相談できる相手がいない。幼少期の家庭環境により弱音や悩みを吐露するのが不得手。
- ふさわしい相手がいない。また、自分でも考えがまとまらない。
- 普段相談できる人がいない。
- 他の人と違う経歴のため理解者（親族含め）がいないため。
- 外国人だから友達とか少ないし、新しくできた友達には深い話まではしづらい。
- 誰も信頼できないから。
- 相談すれば親身になって聞いてくれると思われる人は何人もいるけれど、相談しても解決する物事ではないから話しても意味ないと思っている。
- 言ったところで無駄だから。
- あまり相談しないで自分で抱えるタイプです。
- 自分の中で留めてしまう。
- うまく説明出来ないから。
- 誰に相談していいか分からない。
- 漠然と話したいという気持ちと、誰にも話したくないという気持ちが両方ある。

問 9-6 相談した結果、改善した経験がありましたか（単数回答）

「改善した」が最も高く 38.7%、次いで「少し改善した」が 32.5%であった。

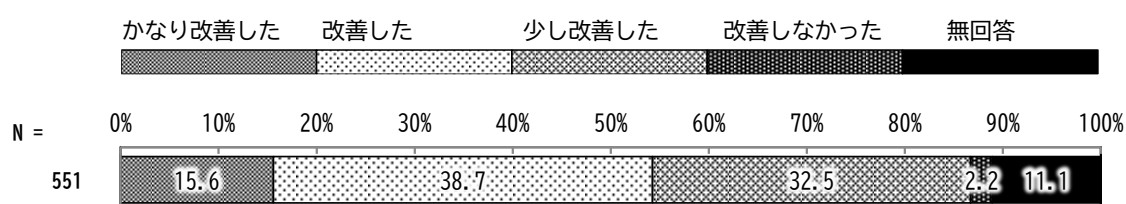


図 9-17

問 10 悩みの相談以外で、若者に対する必要な施策、制度はどのようなものだと思いますか。

「生活や就学のための経済的援助」が最も高く 55.3%、次いで「自由に過ごせる場」が 44.2%であった。

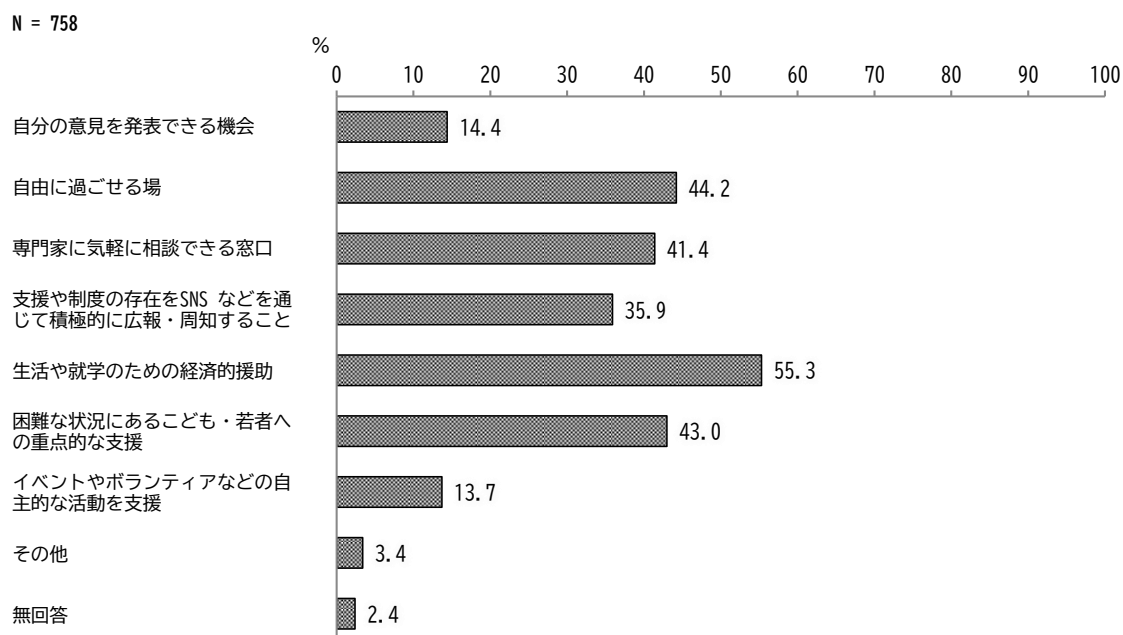


図 10-1

その他自由意見

- 将来を考える機会/知識/起業などの支援 (5)
- 金銭的な支援 (3)
- 居場所・空間づくり (3)
- 子育て支援 (3)
- 意見を言える場 (2)
- 質の高い義務教育
- 予防歯科
- 特に男性に対して若年時からの家事、育児、介護能力向上施策、精神的自立を促す施策
- 悩みに対して柔軟（都合が良い）対応
- 年少扶養控除の復活、社会保険料負担の見直し
- 光バイト
- 基本的マナーや態度、ストレス解消法などを教えてもらえる場所
- わからない

《年代別の必要と考える施策・制度》

必要な施策・制度は、平均値が最も高い「生活や就学のための経済的援助」、3番目に高い「困難な状況にあるこども・若者への重点的な支援」については年代別に差はなかった。2番目に平均値が高い「自由に過ごせる場」については15～24歳において最も高い割合となった。4番目に高い「専門家に気軽に相談できる窓口」については、25歳以上で高い割合となった。

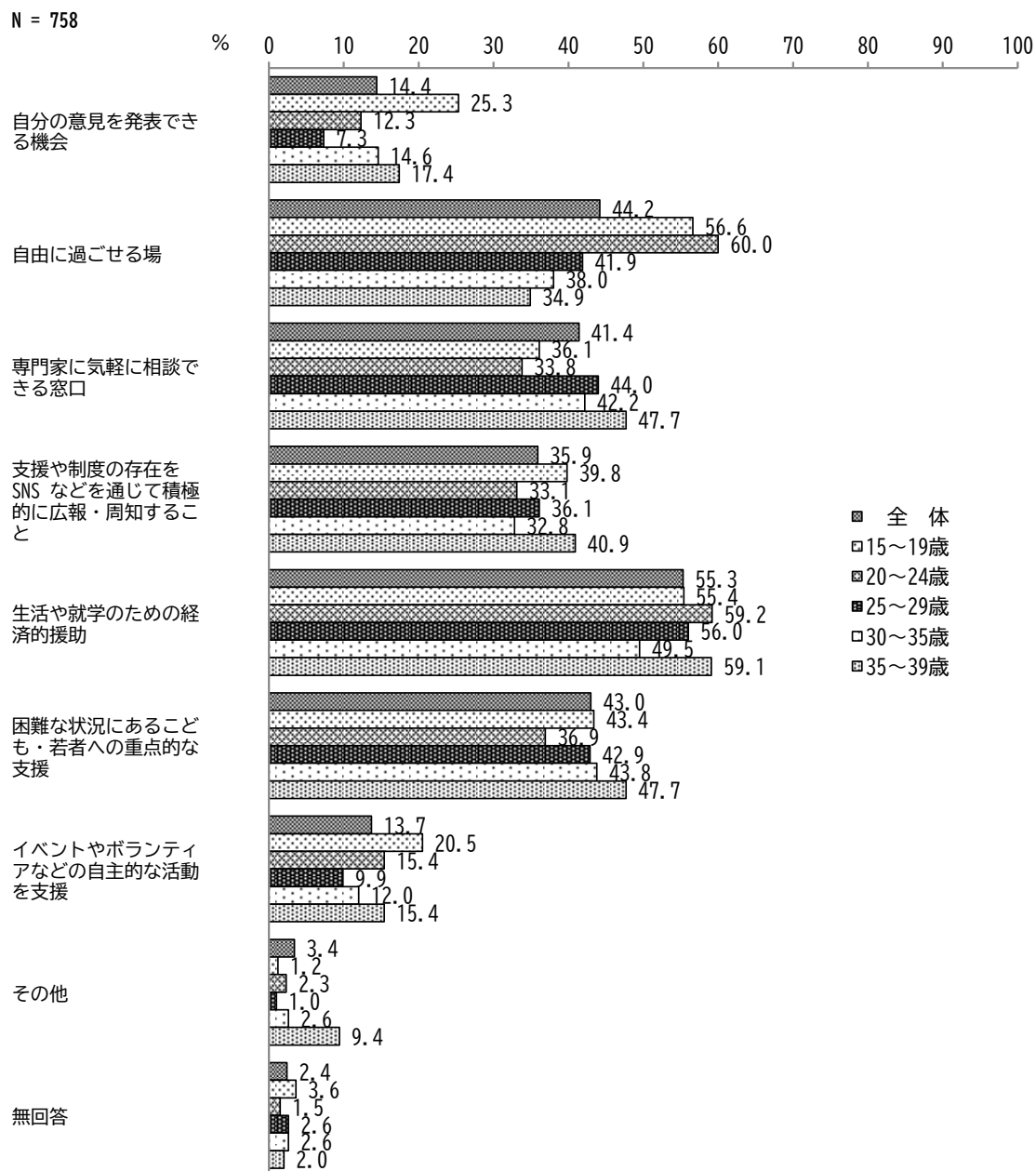


図 10-2

「家族構成別」

「単身」世帯と「夫婦と子ども」世帯は「生活や就学のための経済的援助」が最も高く、57.9%、56.3%であった。「夫婦のみ」世帯は、「生活や就学のための経済的援助」と「困難な状況にある子ども・若者への重点的な支援」が48.2%、「親と同居」世帯は「自由に過ごせる場」が最も高く 55.1%であった。「専門家に気軽に相談できる窓口」に対する割合が最も高かったのは「夫婦のみ」世帯で46.8%であった。

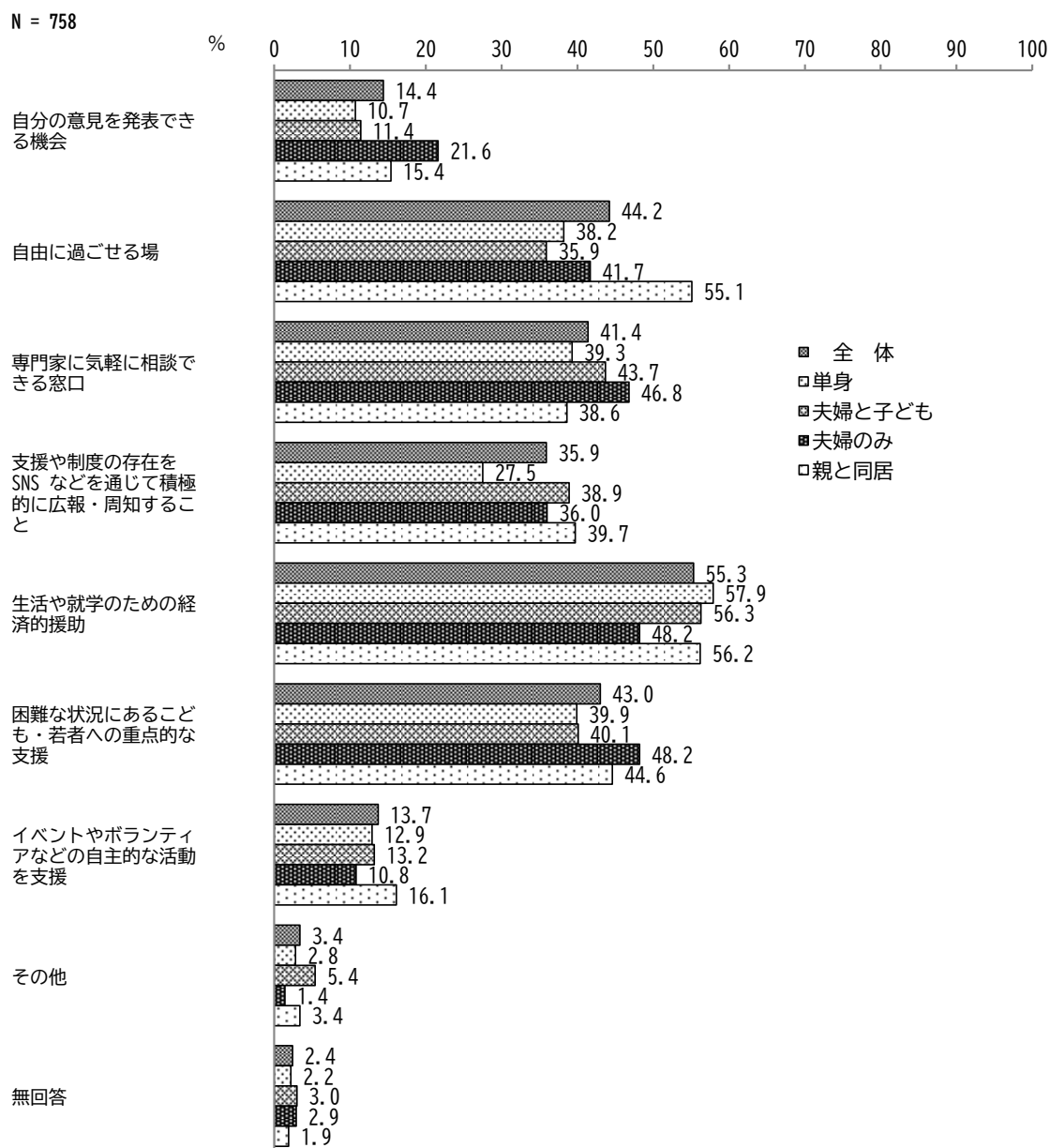


図 10-3

問 11 あなたは次のようなトラブルの経験はありますか。

「迷惑メールを受け取った」が最も高く 70.4%、次いで「インターネットの長時間利用により睡眠不足になった」が 42.0%であった。

N = 758

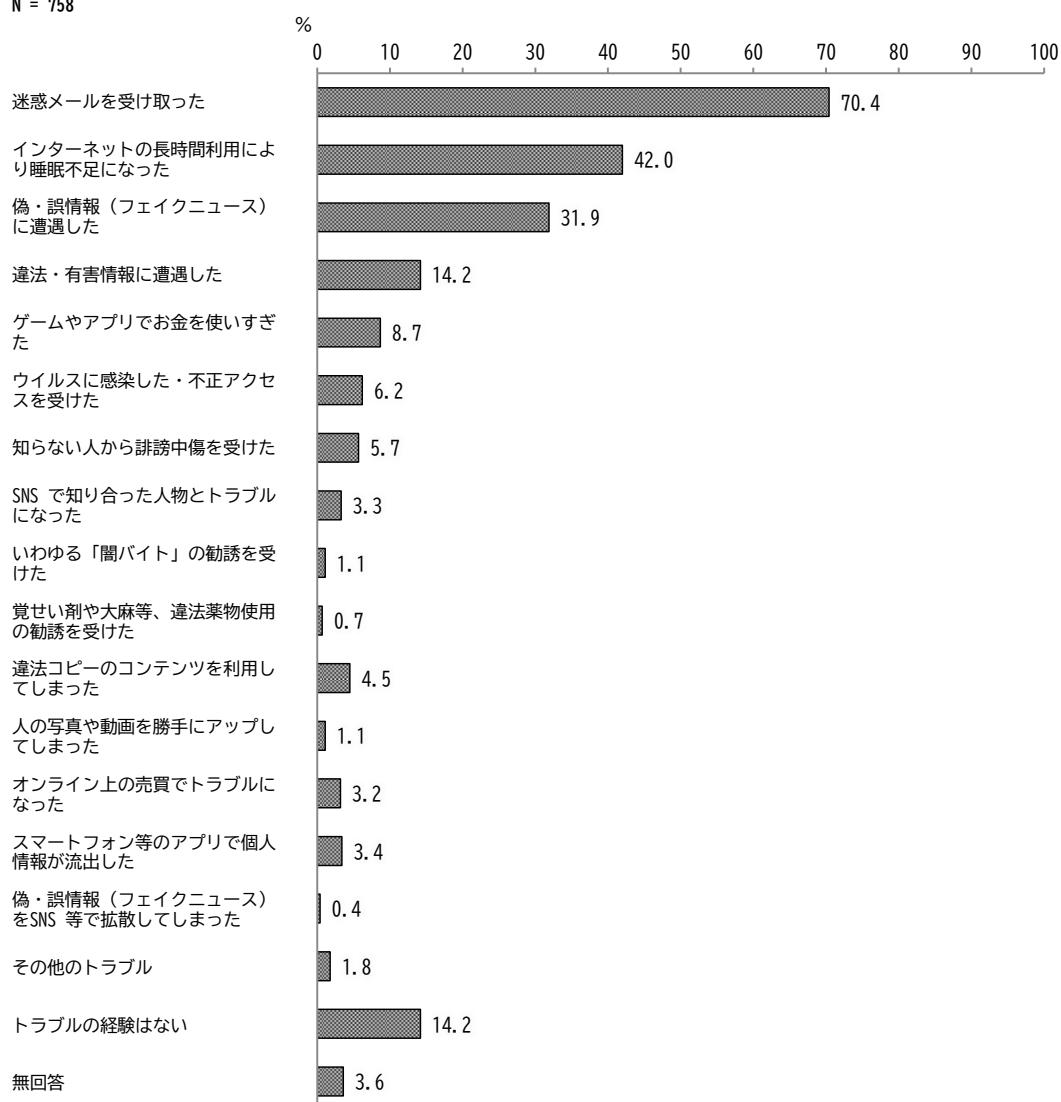


図 11-1

その他自由記述

- ネット上で個人情報が無断で記載された、記載してしまった（4）
- クレジットカードの不正利用（2）
- プリペイドカードを買わされた
- 電車での痴漢/無断で写真撮影
- 酔っ払いに絡まれた/事業化集団と呼ばれる団体に声をかけられた/変な宗教の人から狙われた/詐欺の電話がかかってきた
- 兄弟の非行
- 落とし物
- 政治家による私生活の危機

《年代別のトラブル経験》

年代毎に大きな差はないが、「違法・有害情報に遭遇した」、「ウイルスに感染した・不正アクセスを受けた」、「知らない人から誹謗中傷を受けた」等、比較的大きなトラブルは年齢層が高いほど高くなった。

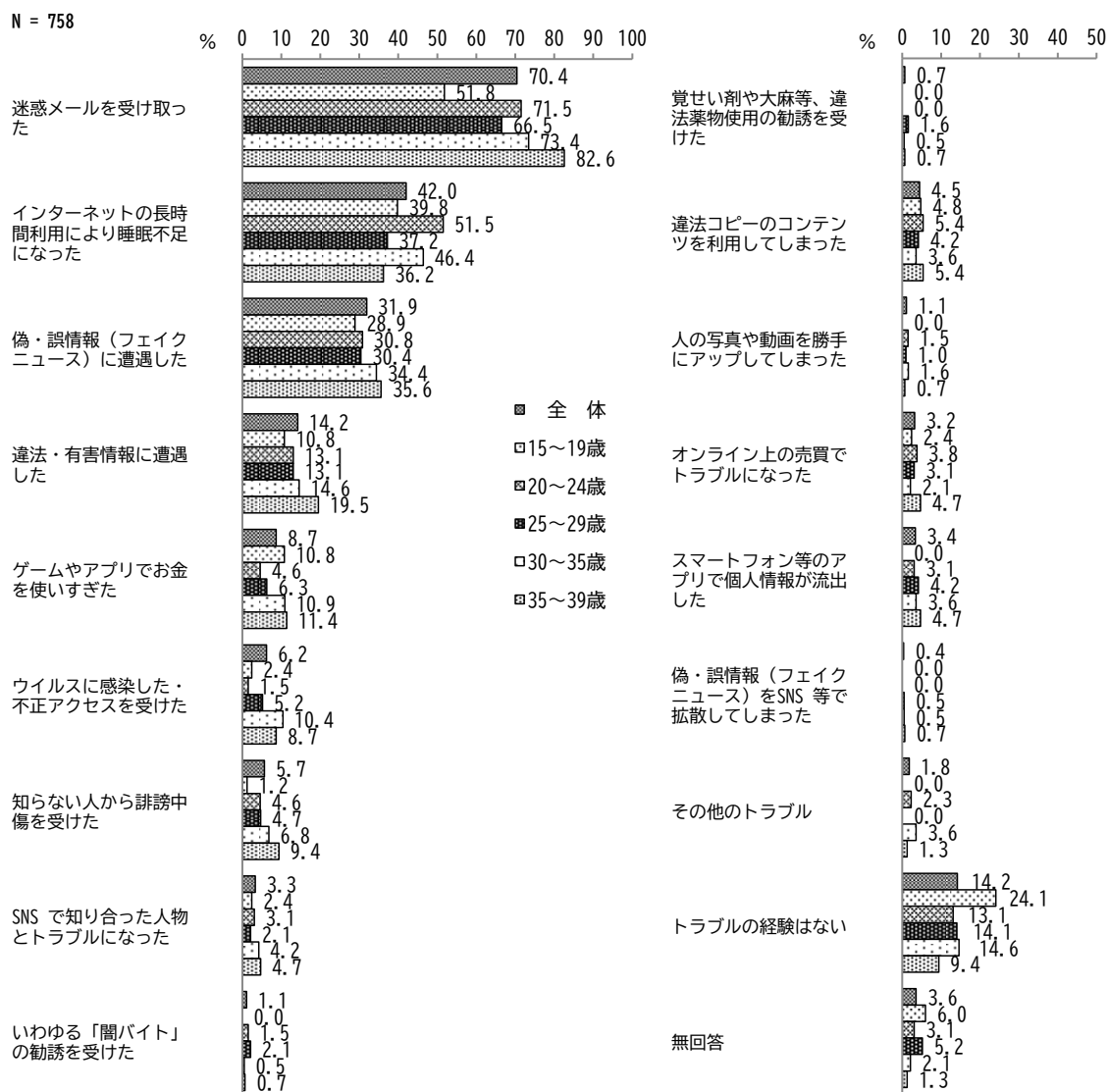


図 11-2

問 12 あなたは、地域のお祭りや行事・イベント等にどのくらい参加していますか。
(単数回答)

「参加したことはある」が最も多く 36.9%、次いで「参加したことがない」が 28.0%であった。

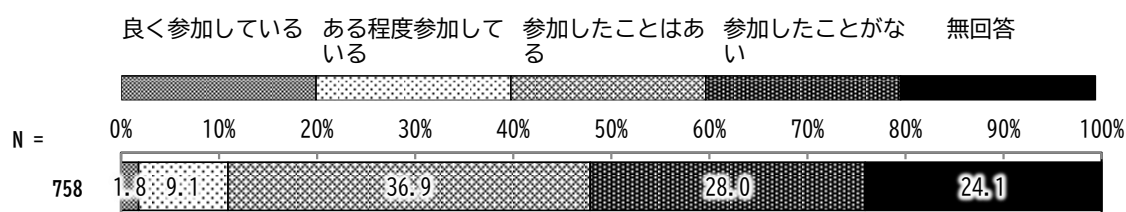


図 12-1

《前回調査との比較》

図 12-2 は、前回調査との比較である。今回は新たに「参加したことはある」という選択肢を加えたところ、その選択肢を選んだ回答が最も多くなった。また、答えられない/答えにくい問については「無回答」でも良いとしたことから、無回答の割合も多くなった。

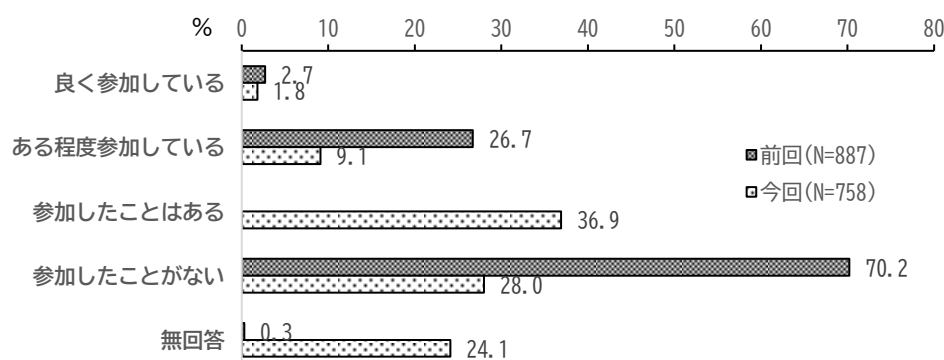


図 12-2

《年代別参加率》

「15～19 歳」の参加割合が高くなった。

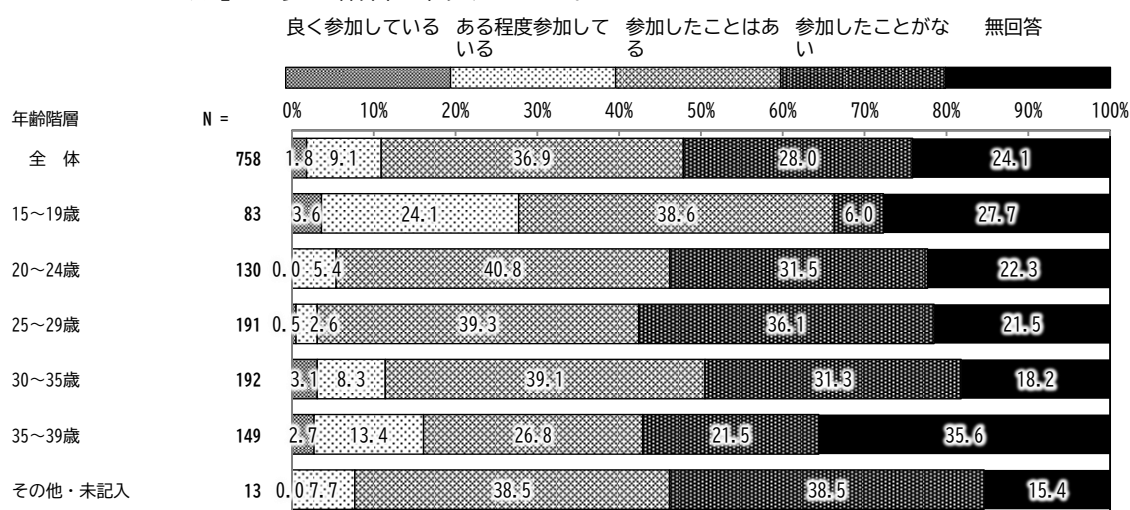


図 12-3

「家族構成別」

「夫婦と子ども」世帯の参加率が最も高く合計 61.7%となった。参加率が最も低いのは「単身」世帯で合計 25.8%であった。

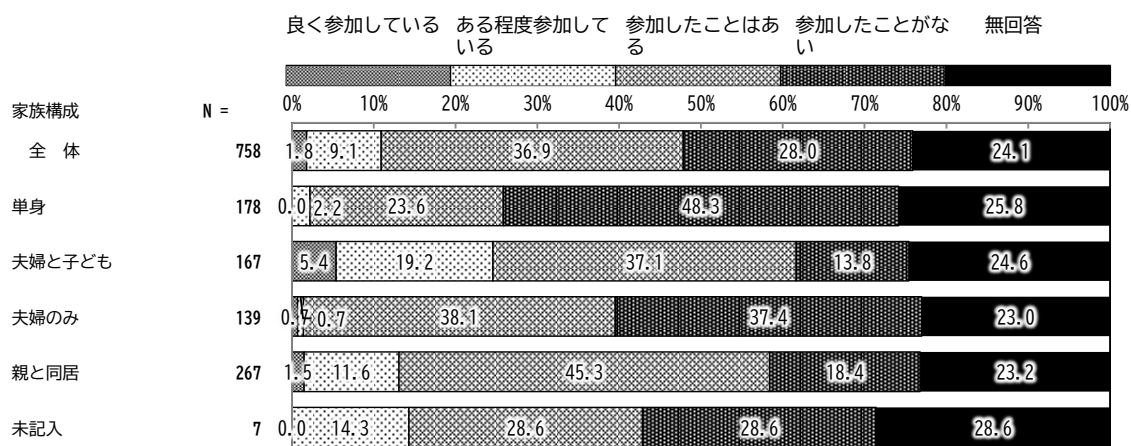


図 12-4

問 13 「4 参加したことがない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。（複数回答）

「興味がない」が最も多く 36.8%、次いで「仕事、学業で忙しい」が 26.9%であった。

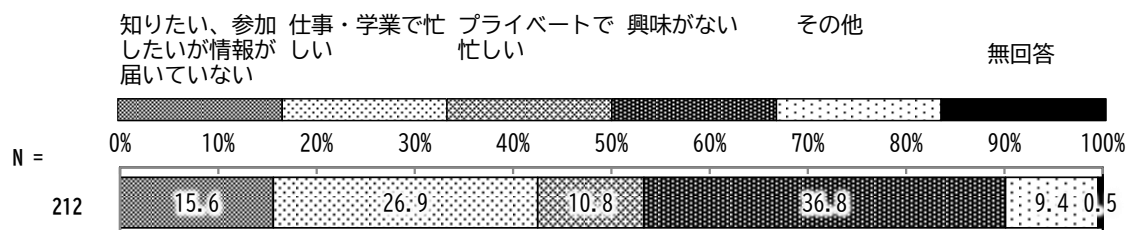


図 13-1

その他自由記述

- 一人で参加しづらい（4）
- 地域との繋がりががないので参加しづらい（4）
- 存在を知らない
- 参加の方法がわからない
- 子供がまだ小さい。たくさん人がいる所に連れていくの大変

《将来像との関係》

参加したことがない理由について、将来像とのクロスを取ると、最も全平均スコアが高かったのは「プライベートで忙しい」で0.79、最も全平均スコアが低かったのは「興味がない」で0.26だった。

① 知りたい、参加したいが情報が届いていない

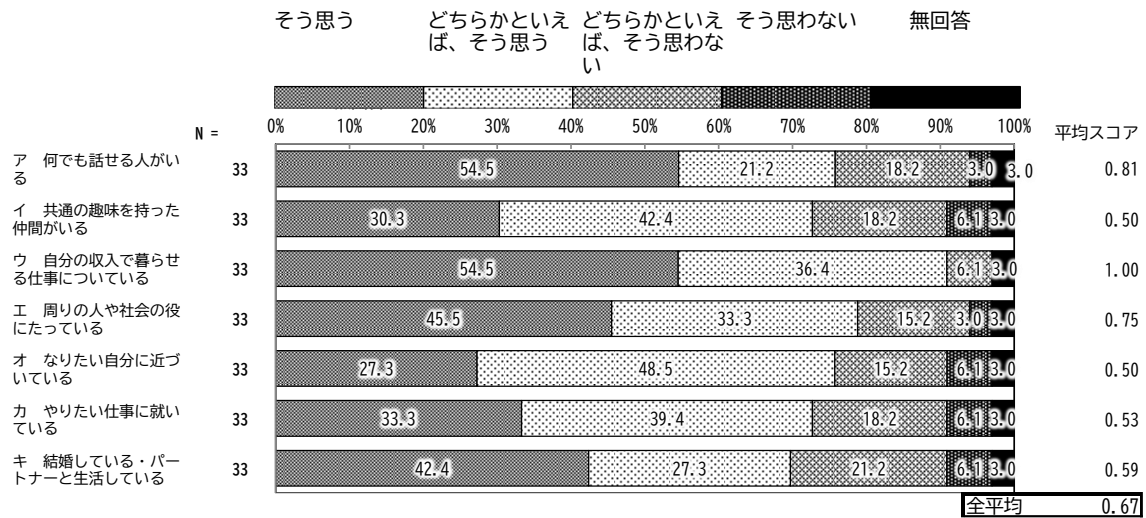


図 13-2

② 仕事・学業で忙しい

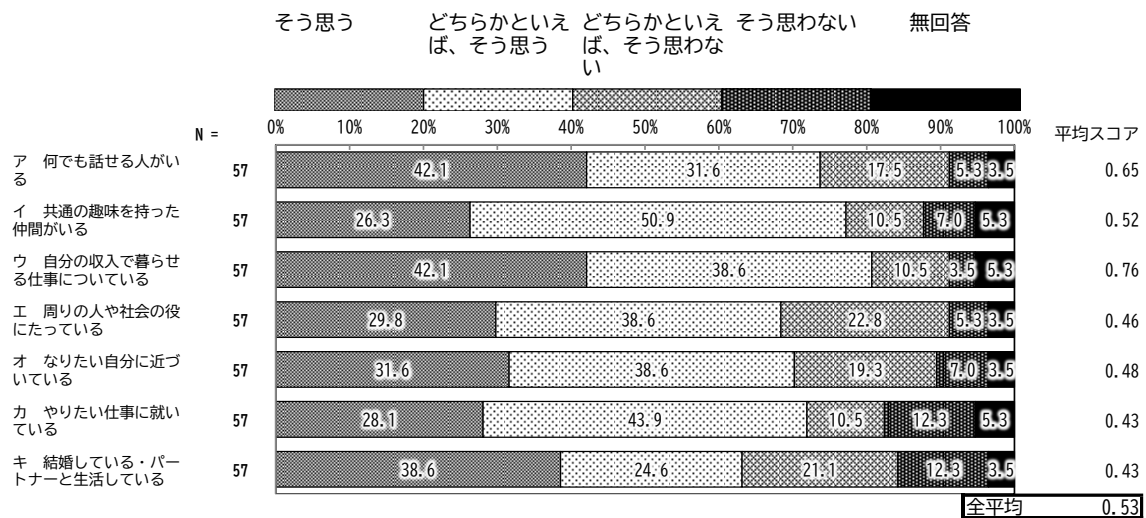


図 13-3

③ プライベートで忙しい

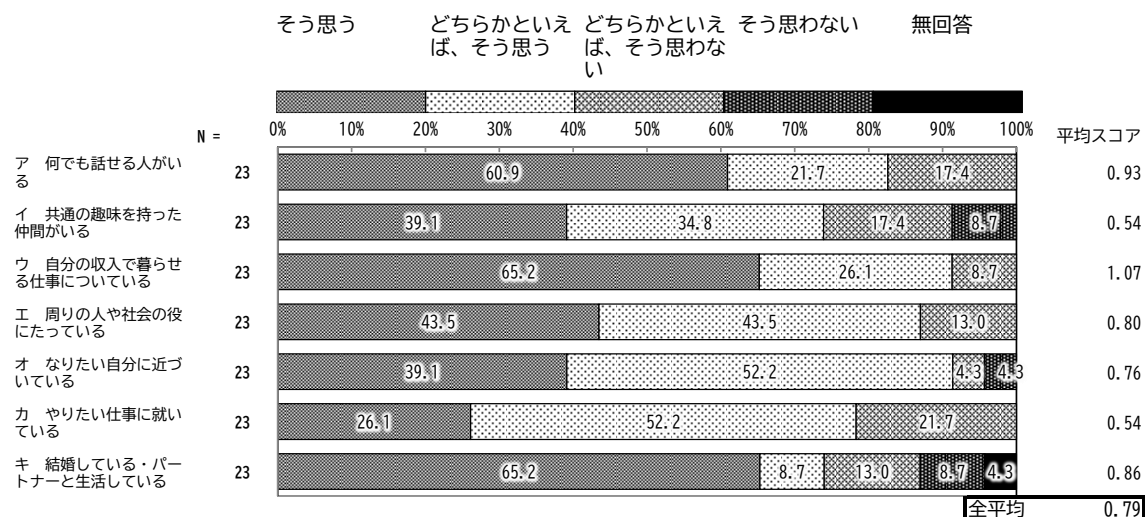


図 13-4

④ 興味がない

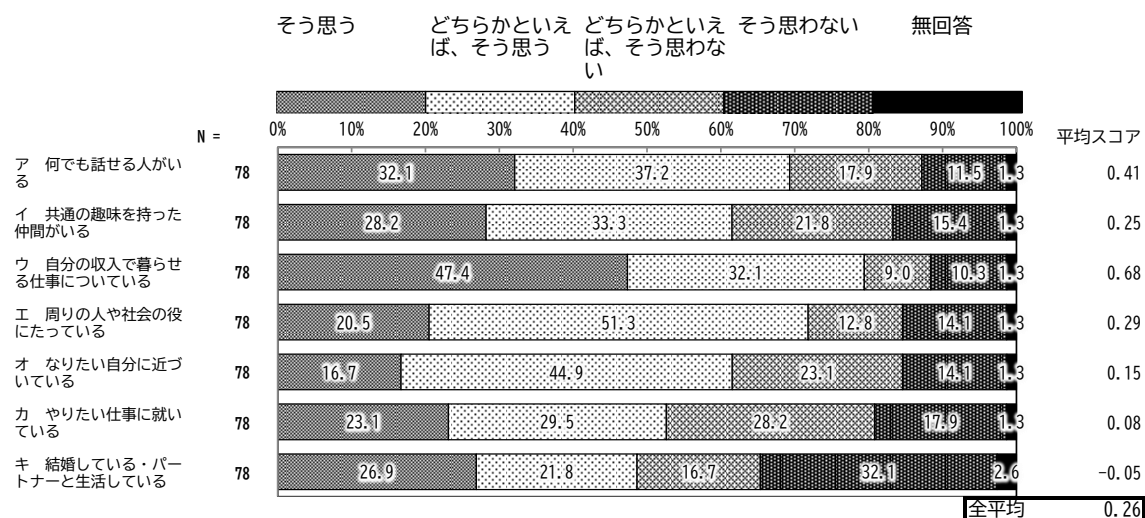


図 13-5

問 14 下記の青少年事業を知っていますか。(複数回答)

「全て知らない」が最も多く 60.6%、次いで「こども SOS の家」が 29.3%であった。

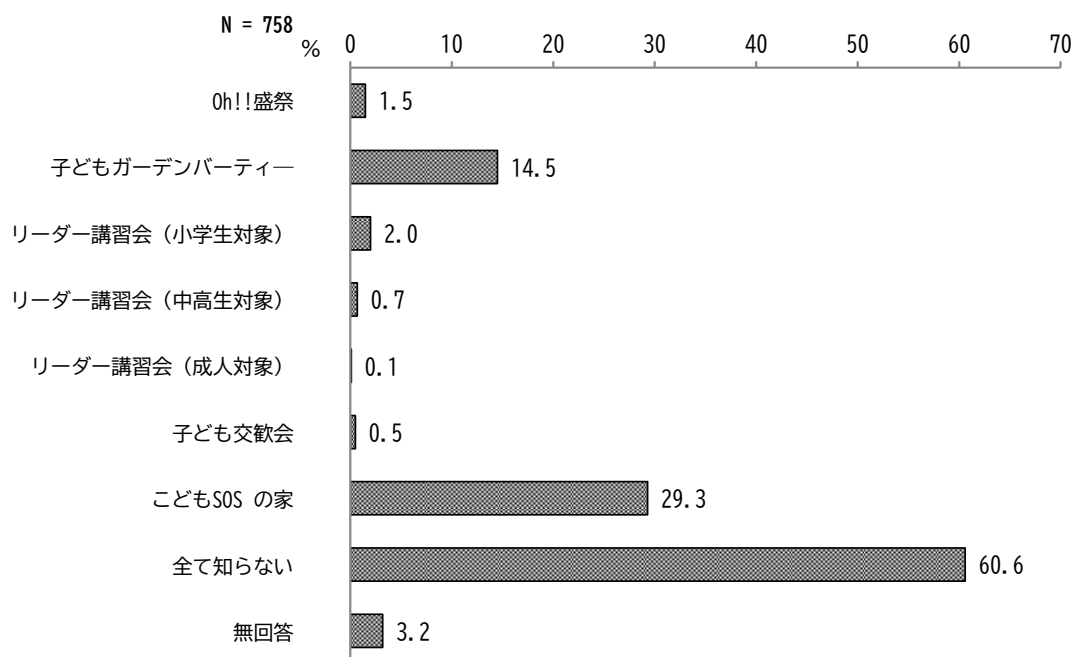


図 14-1

≪前回調査との比較≫

図 14-2 は、前回調査との比較である。全体的に認知度が低くなっており、コロナ禍による事業中止の影響が大きいものと考えられる。

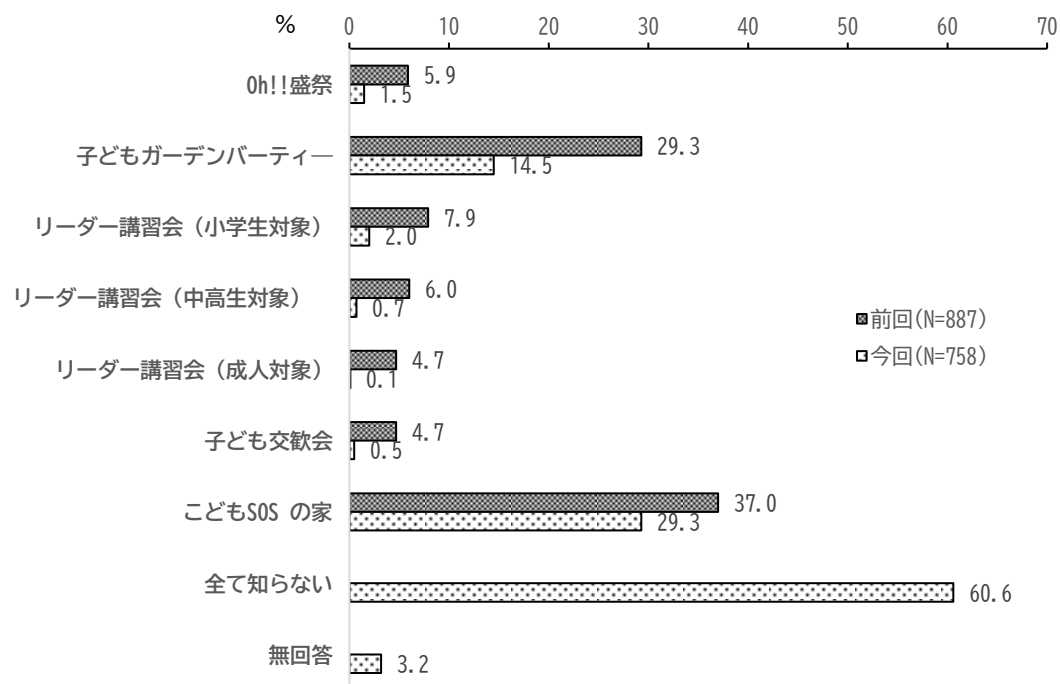


図 14-2

《年代別》

15～19 歳の知っている割合が最も高く、次いで 35～39 歳の割合が高くなった。

N = 758

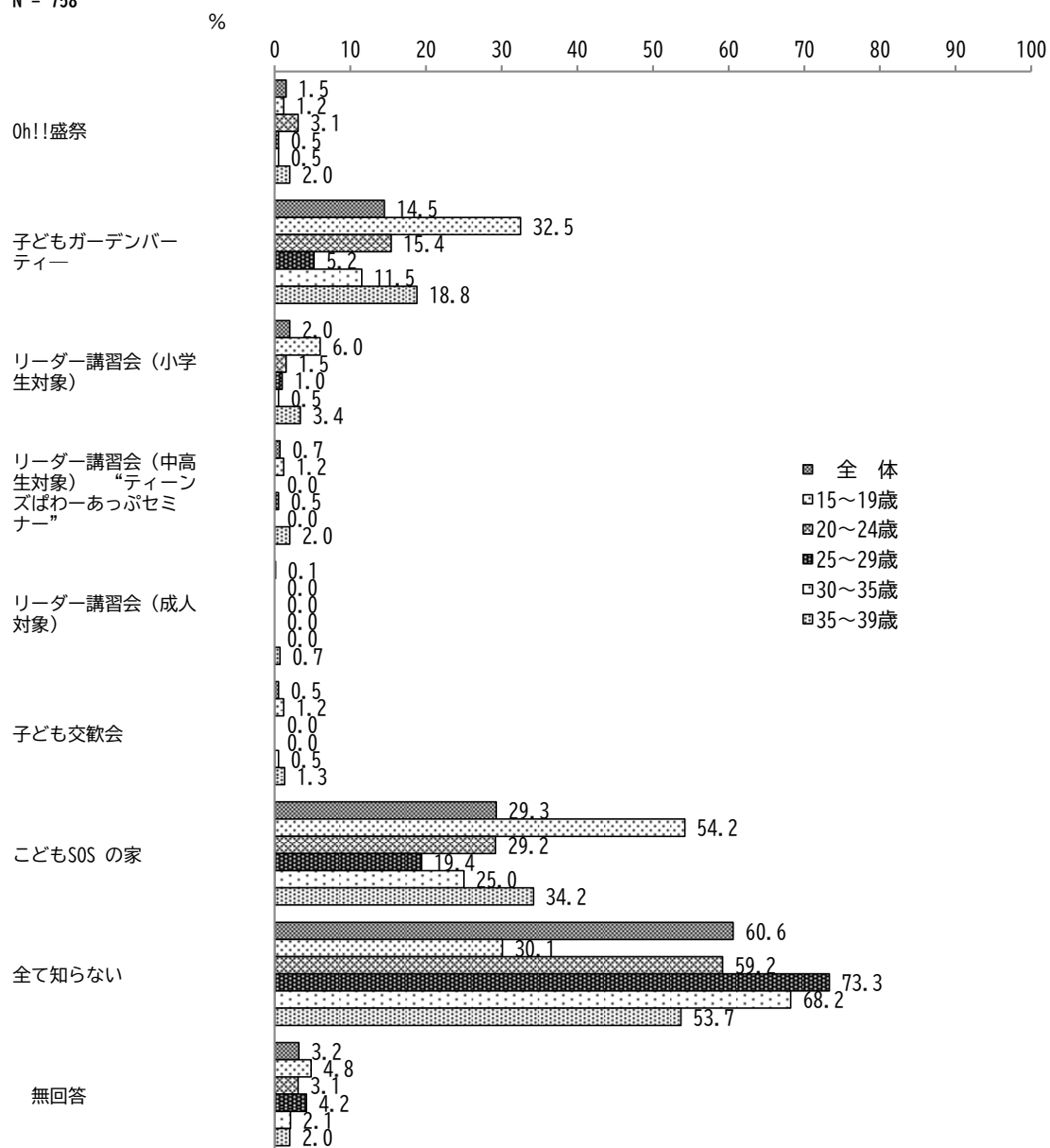


図 14-3

問 15 あなたは区からの情報や地域でのイベント等行政情報をどのような手段で見えますか。(複数回答)

「そもそも見ない」が最も多く 41.7%、次いで「大田区報」が 27.0%であった。

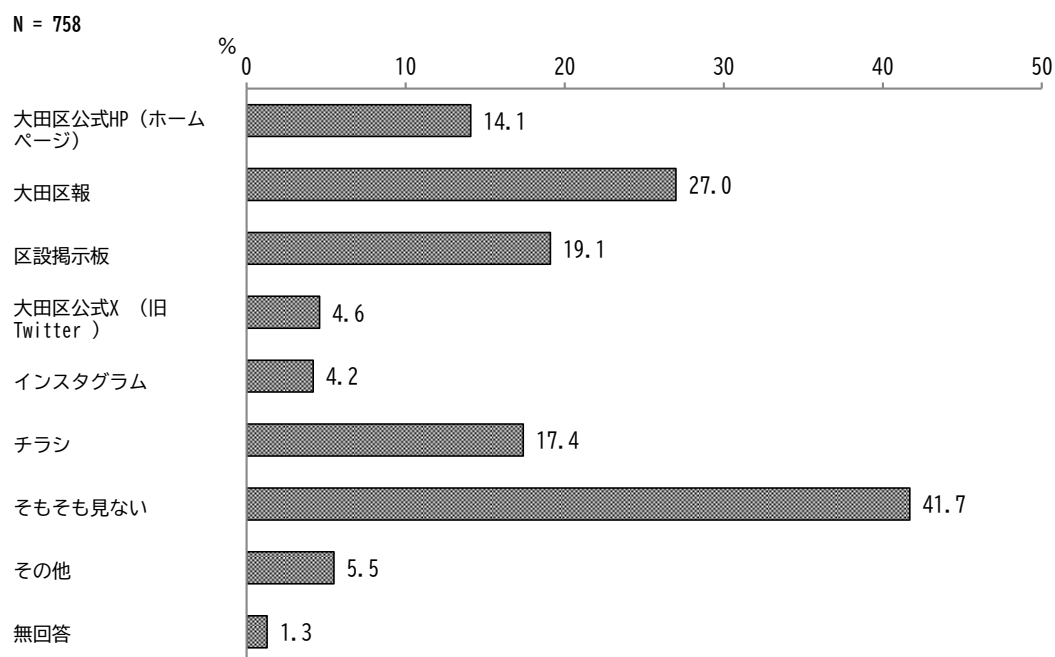


図 15-1

その他自由記述

○LINE (13)

○回覧板、駅のポスター等 (8)

○インターネット、SNS 等 (5)

○親や友人 (4)

○学校・保育園 (4)

○手段を知らない/受け取っていない (3)

○区役所インターン

「家族構成別」

「単身」、「夫婦のみ」、「親と同居」世帯では「そもそも見ない」の割合が最も高かったが、「夫婦と子ども」世帯では「そもそも見ない」割合は18.0%と低くなった。「夫婦と子ども」世帯では、「大田区報」が41.9%と最も高く、次いで「区設掲示板」が29.9%となっている。

N = 758

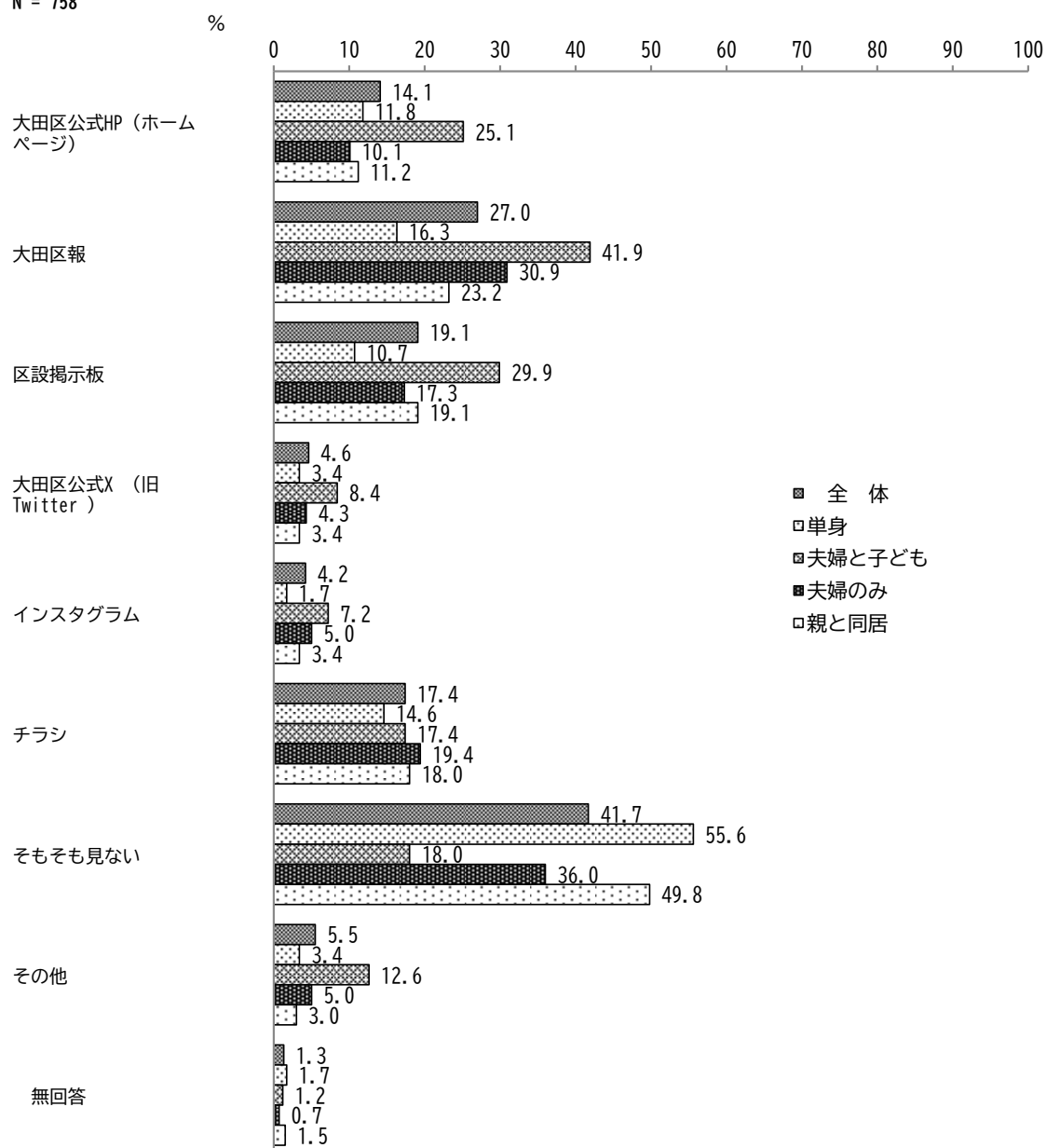


図 15-2

問 16-1 あなたは次のア～ケの施設・機関を利用したことがありますか（単数回答）

「知らない」割合が最も少ないのは「大田区立消費者生活センター」で 63.9%、次いで「大田区子ども家庭支援センター」の 74.1%であった。

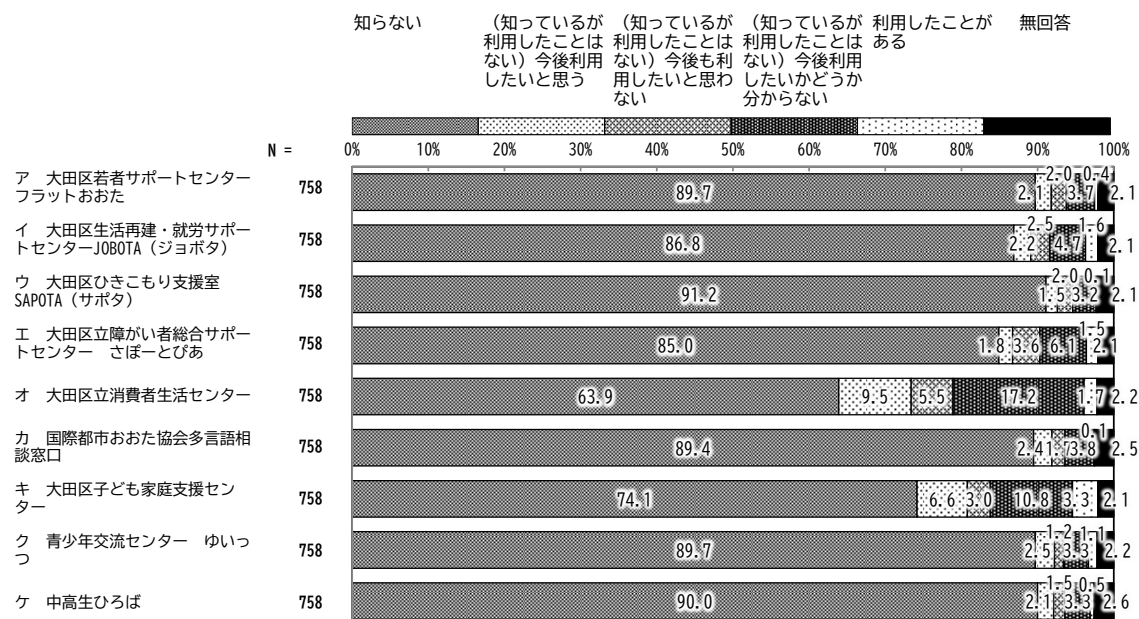


図 16-1

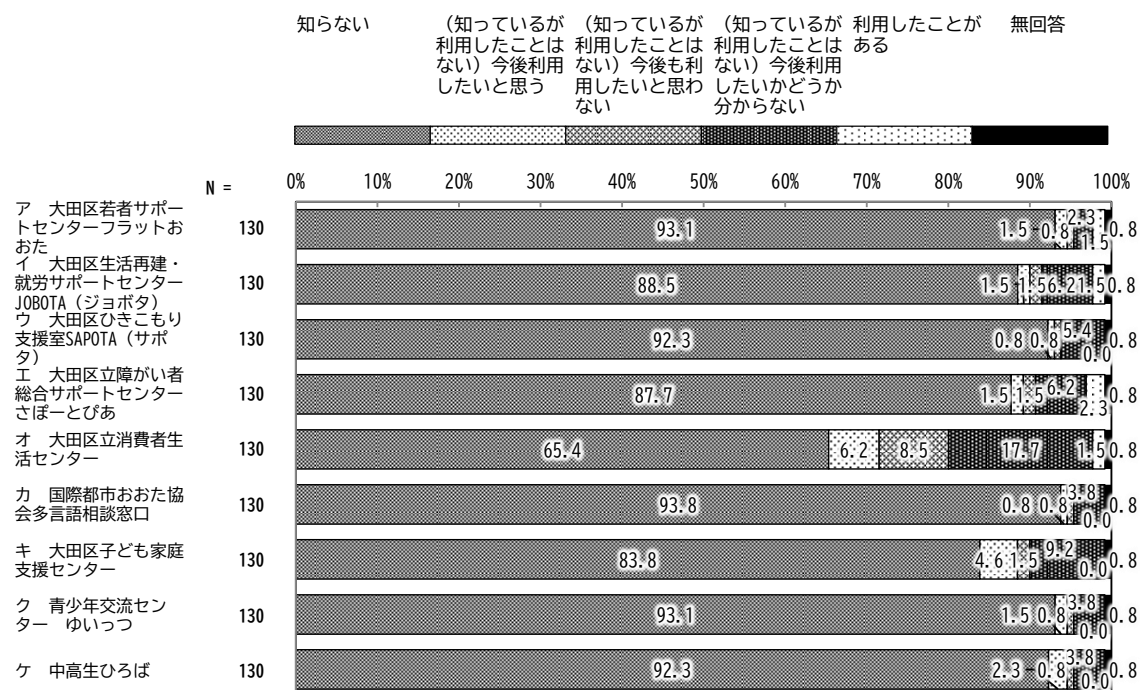
「今後も利用したいと思わない」「今後利用したいかわからない」理由自由記述

- 知らない・分からない (17)
- まだ必要になったことがない (11)
- 役に立たない、事なかれ主義、自己保身で何もしてくれなかったから
- 職員の質が悪い、当事者意識での相談には乗ってくれず何処か他人事
- 以前、ハローワークを利用したこともありましたが、自分に合ったサポートを受けられず、親身になって聞いてもらえなかったな、との思いが残りました。その時のイメージから、区のサービスでは親身になって悩みを聞いてもらえないのではないかと考えています。また、施設のある所まで行かなければいけないというハードルもあります。若者サポートや JOBOTA などが最寄りの出張所に来ていただけたら利用しやすくなると思います。
- 精神的に疲れるし、監視されているみたいで辛いから。
- 利用しない方がよくないですか？
- 利用することに少し抵抗がある。対象でないものもある。
- 今は自分が利用する未来を想像したくないから
- 事前登録や予約が面倒だから
- 利用しようと踏み切れるほどの勇気が出るかわからないから
- 興味が持てないです。よろしくお願いします
- 実生活が多忙な為、時間確保が困難である

年齢層が高くなるほど、大田区子ども家庭支援センターの認知度が高くなった。大田区立消費者生活センターの認知度は50%程度だが、それ以外の施設・機関の認知度は年代によらず低い。家族構成別では、「夫婦と子ども」世帯における大田区子ども家庭支援センターの認知率は高くなっており、「知らない」割合は、48.5%となった。

		知らない	(知っているが 利用したことは ない) 今後利用 したいと思う	(知っているが 利用したことは ない) 今後も利 用したいと思わ ない	(知っているが 利用したことは ない) 今後利用 したいかどうか 分からない	利用したことが ある	無回答					
	N =	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
ア 大田区若者サポ ートセンターフラット おおた	83			85.5			3.6	2.4	6.0	0.0	2.4	
イ 大田区生活再建・ 就労サポートセンター JOBOTA (ジョボタ)	83			88.0			1.2	1.2	26.0	0.0	3.6	
ウ 大田区ひきこもり 支援室SAPOTA (サポ タ)	83			89.2			2.4	1.2	4.8	0.0	2.4	
エ 大田区立障がい者 総合サポートセンター さぽーとびあ	83			77.1			1.2	8.4	8.4	2.4	2.4	
オ 大田区立消費者生 活センター	83		49.4			10.8	9.6		24.1		3.6	2.4
カ 国際都市おおた協 会多言語相談窓口	83			85.5			3.6	2.4	6.0	0.0	2.4	
キ 大田区子ども家庭 支援センター	83			68.7			7.2	1.2	19.3	1.2	2.4	
ク 青少年交流セン ター ゆいっつ	83			81.9			4.8	1.2	8.4	4.8	2.4	
ケ 中高生ひろば	83			79.5			4.8	3.6	7.2	2.4	2.4	

② 20~24 歳



73

③ 25~29 歳

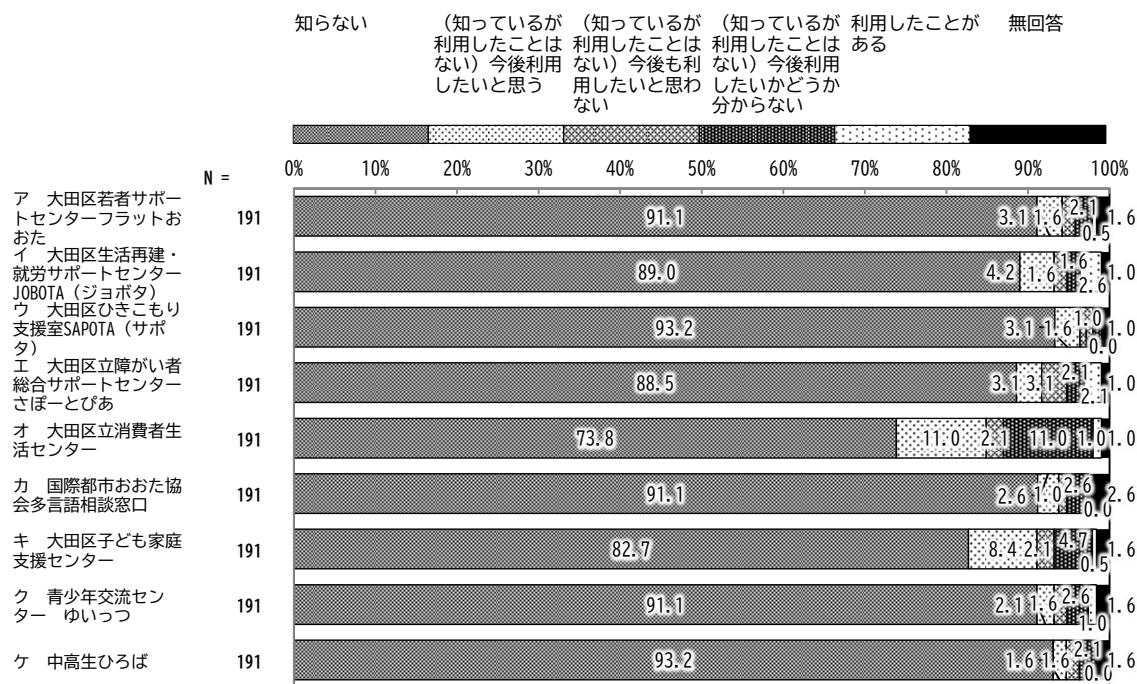


图 16-4

④ 30~34 歳

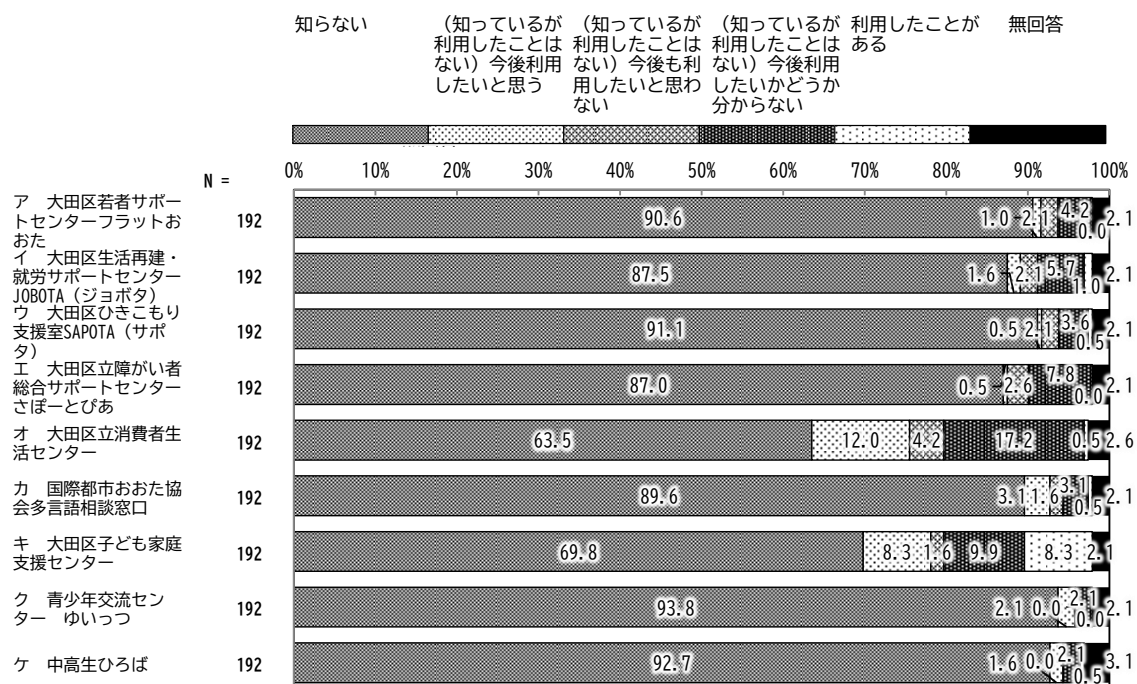


图 16-5

⑤ 35~39 歳

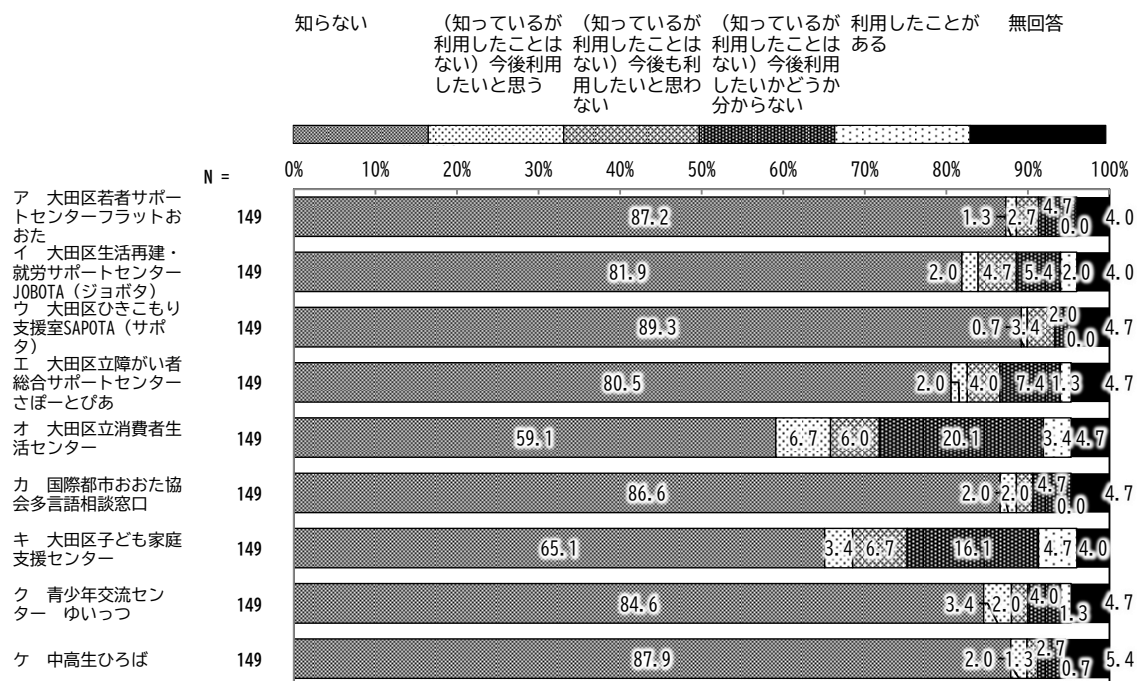


图 16-6

⑥ 单身

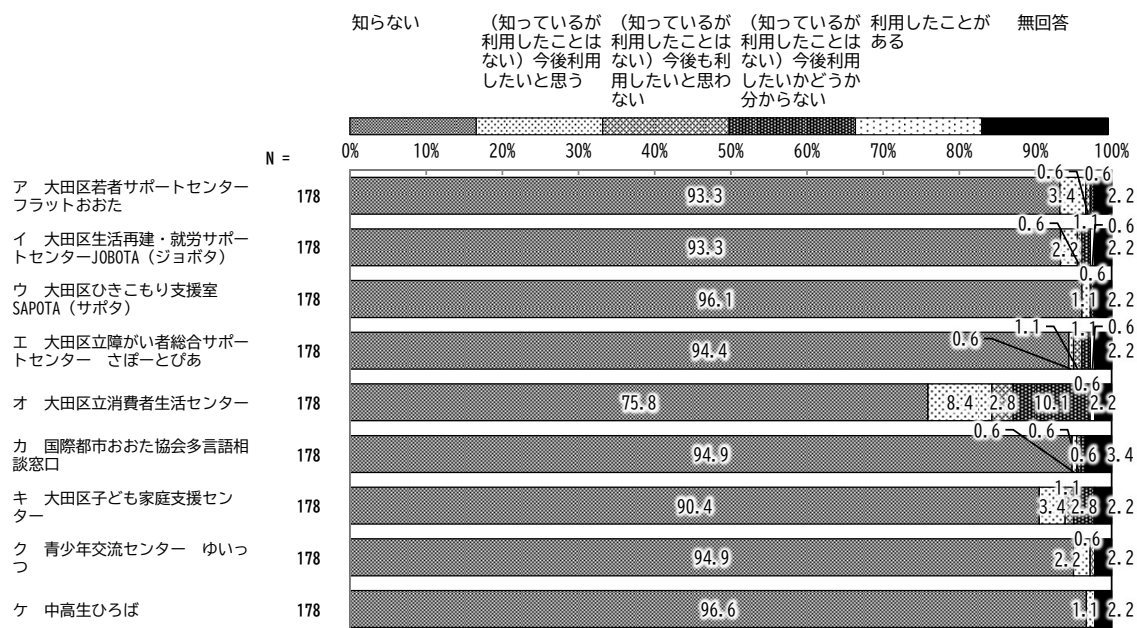


图 16-7

⑦ 夫婦と子ども

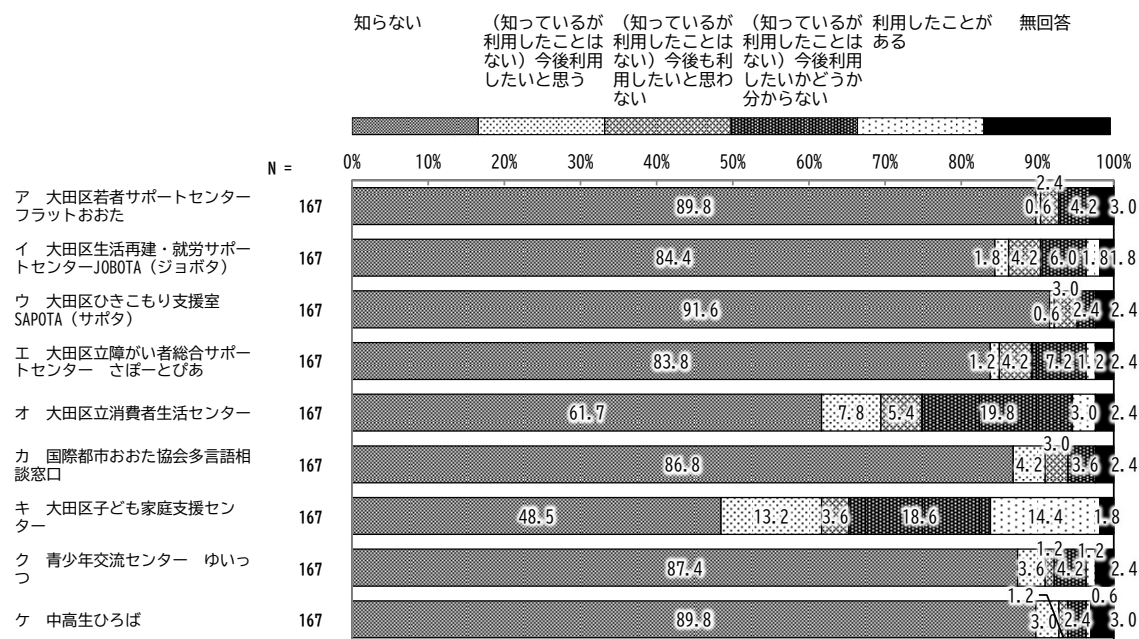


図 16-8

⑧ 夫婦のみ

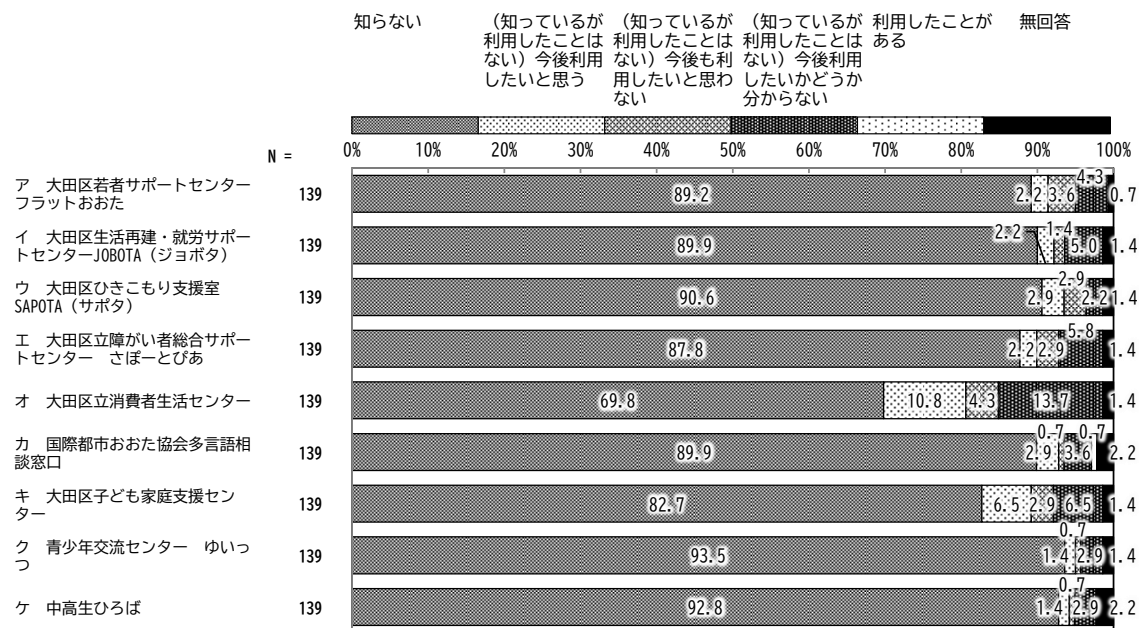


図 16-9

⑨ 親と同居

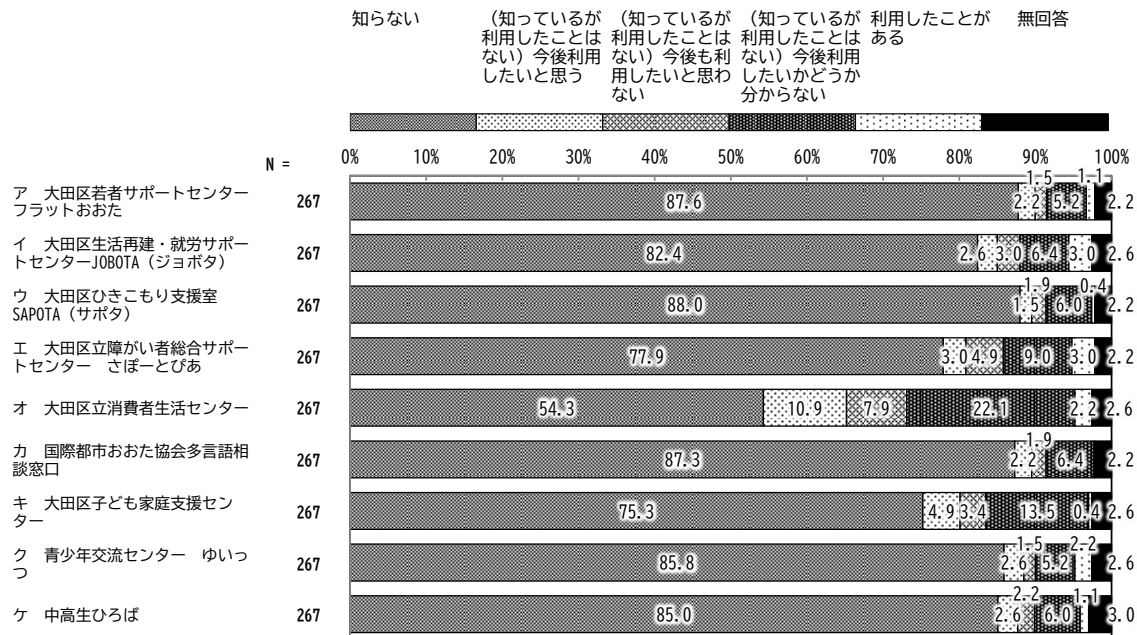


図 16-10

《悩みの相談希望別認知度》

悩みを誰かに相談したいと「非常に思う」、「思う」、「少し思う」の間で、認知度の大きな差は無かった。

① (悩みを誰かに相談したいと) 非常に思う

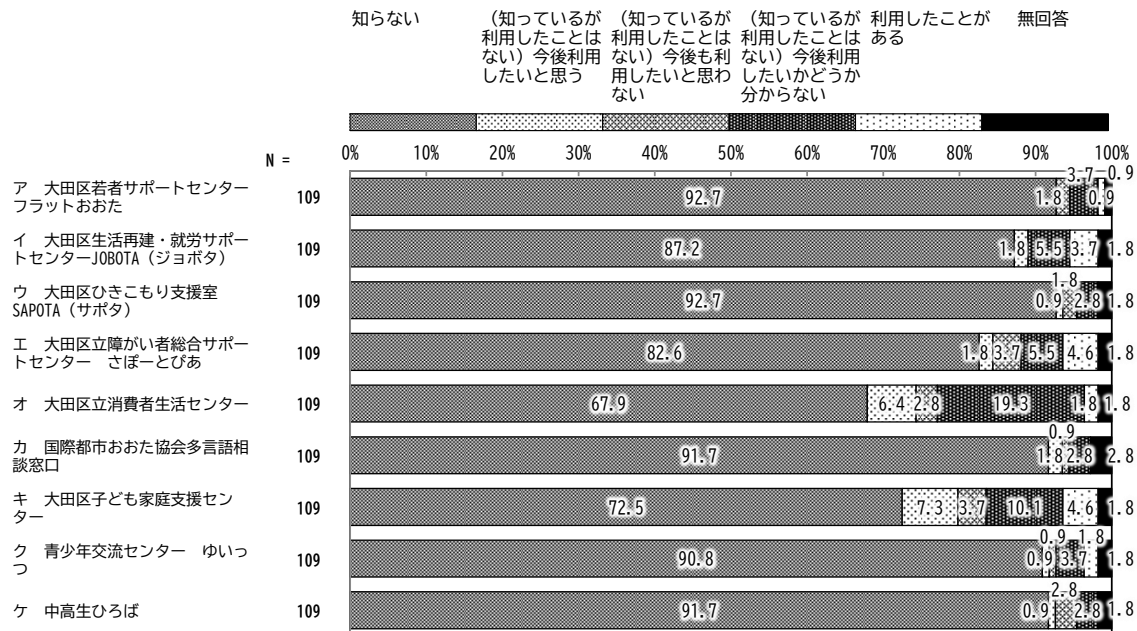


図 16-11

② （悩みを誰かに相談したいと）思う

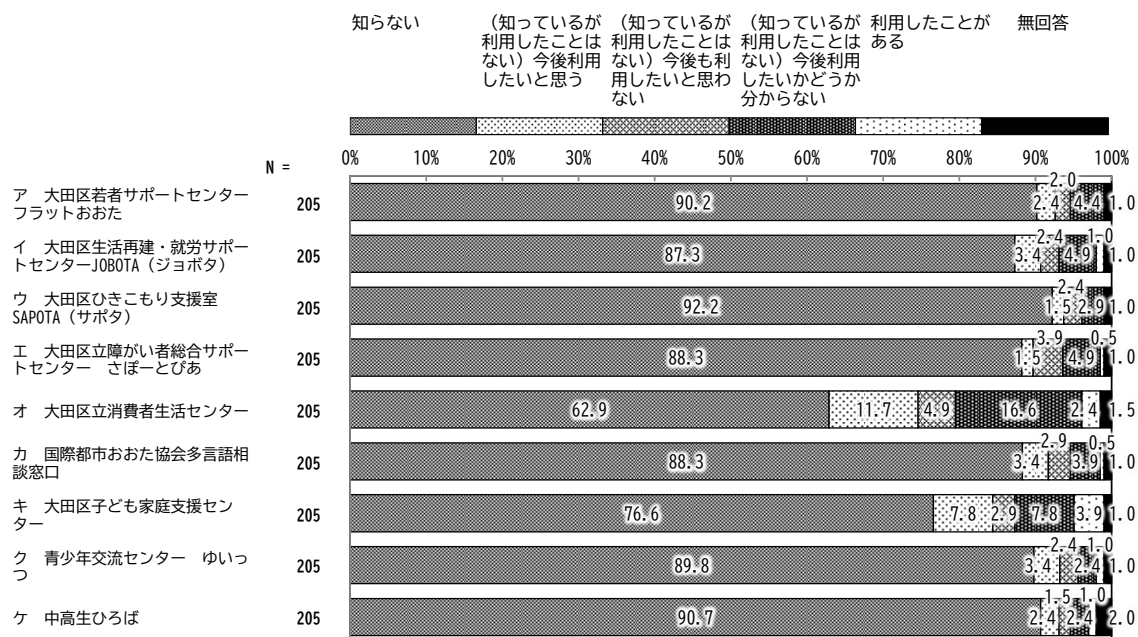


図 16-12

③ （悩みを誰かに相談したいと）少し思う

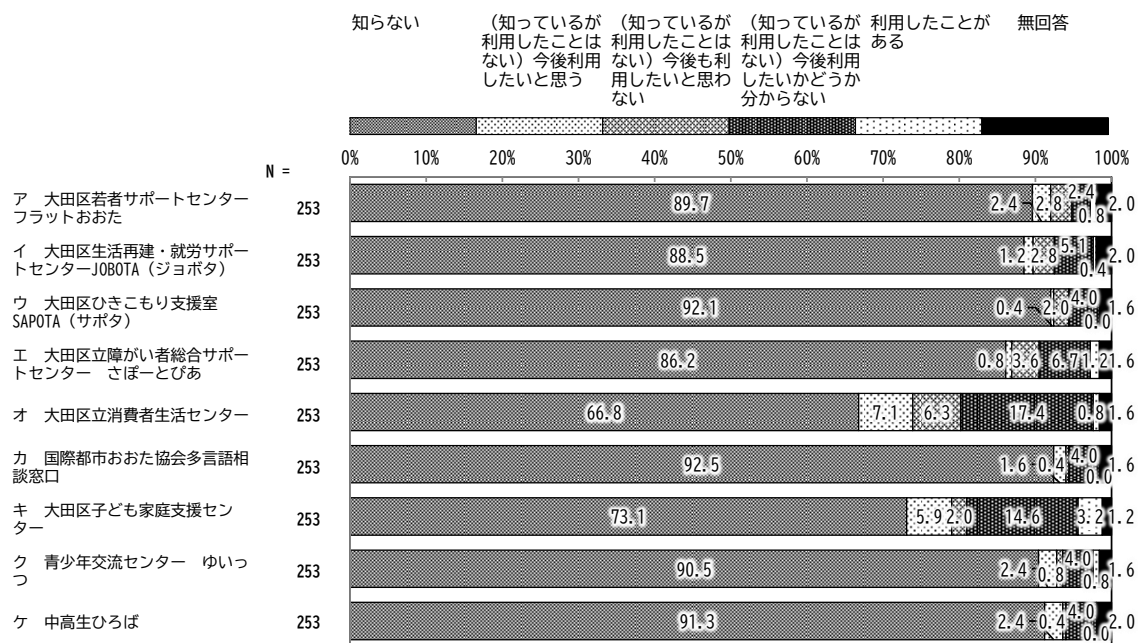


図 16-13

3. 「フラットおおた」におけるアンケート結果

今回のアンケートは、全く同じものを「フラットおおた」を利用する若者にも同じ時期に実施し、26名の回答を得た。以下に主要な結果について示す。

問2 あなた自身で次のことがどのくらいあてはまりますか（単数回答）【自己肯定感】

フラットおおた利用者の自己肯定感は一般アンケートに比べ全般的に低くなった。

《フラットおおた》

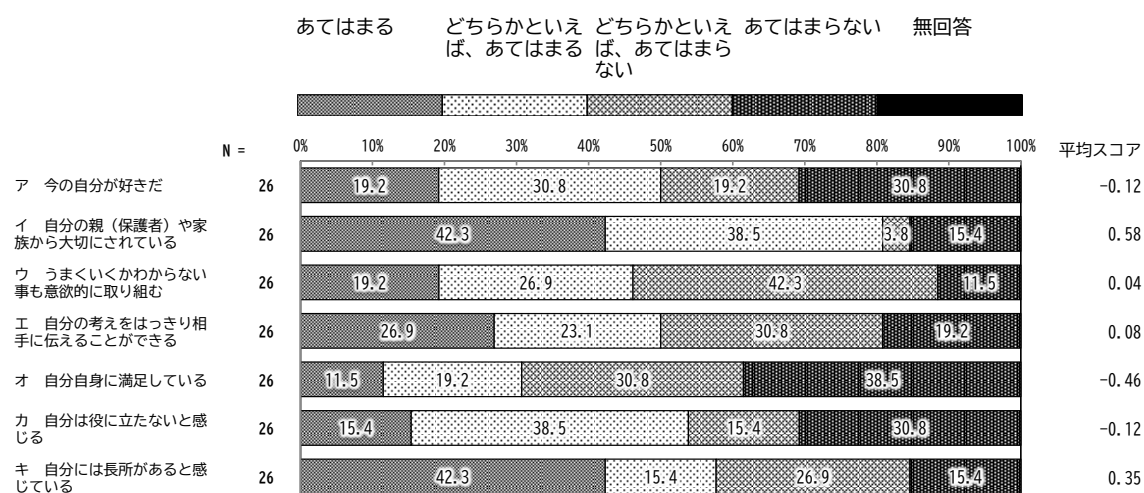


図 17-1

《一般アンケート》

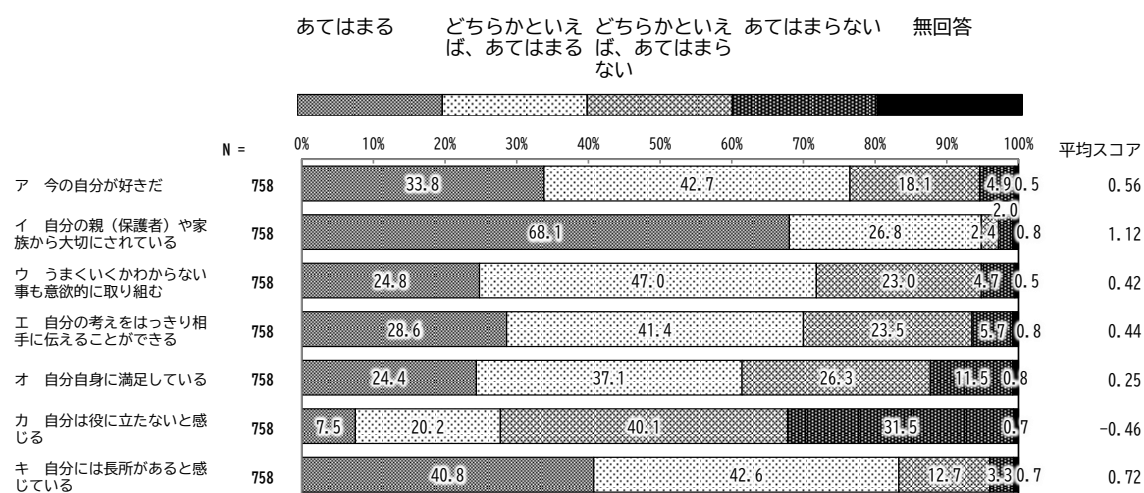


図 17-2

問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか（単数回答）

「自分の部屋」、「家庭」、「学校」、「職場」に対する平均スコアは一般アンケートに対して低くなった。「地域」に対する平均スコアは0.41と一般アンケートに比べて非常に高くなった。「インターネット」、「お店」に対する平均スコアも一般アンケートより0.2ポイント程度高くなっている。

《フラットおおた》

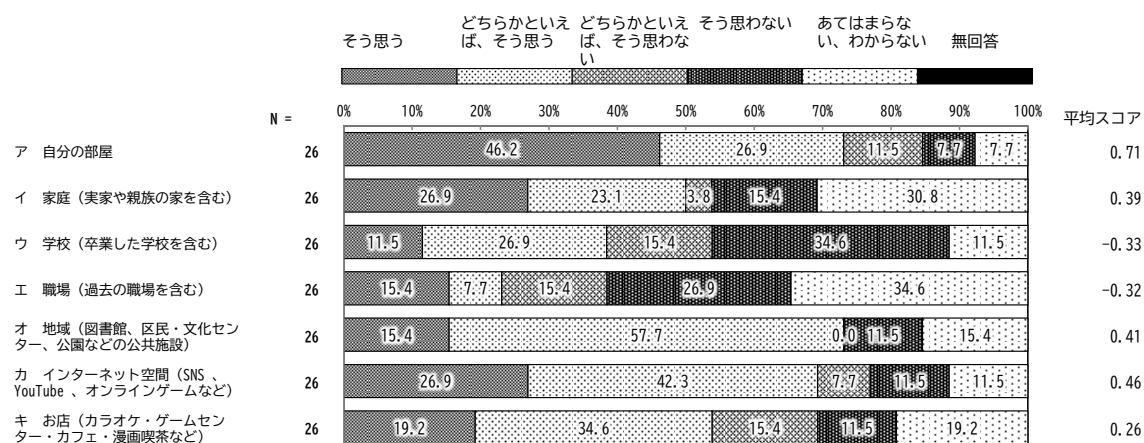


図 17-3

《一般アンケート》

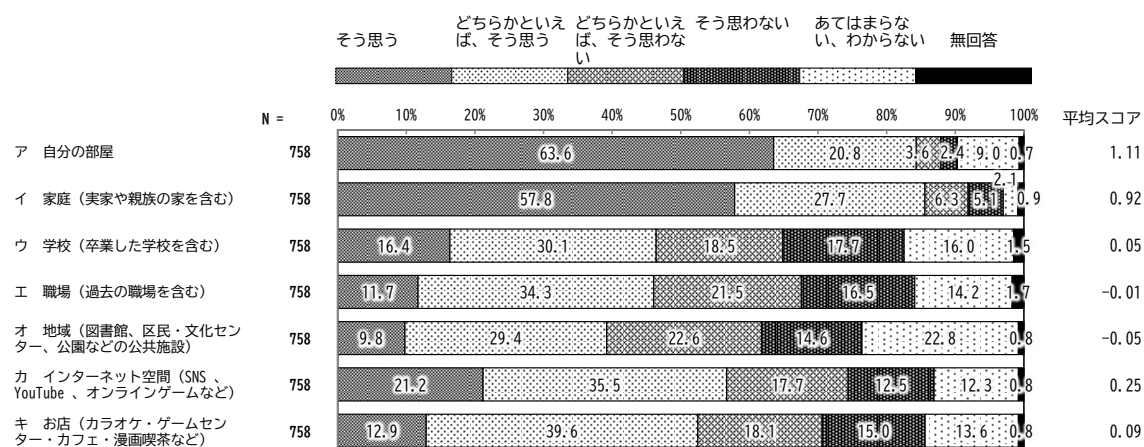


図 17-4

問4 以下の人たちとあなたのかかわりはどのようなものですか（単数回答）

かかわりの全平均スコアを比較すると、「家族」「学校・職場」のかかわりについては一般アンケートよりも低い値となった。一方「地域」のかかわりについては一般アンケートよりも非常に高い値となっており、フラットおおたにおけるかかわりが大きいと考えられる。「インターネット」「趣味」のかかわりについては差がなかった。

① 一緒に住んでいる人、家族、親族

《フラットおおた》

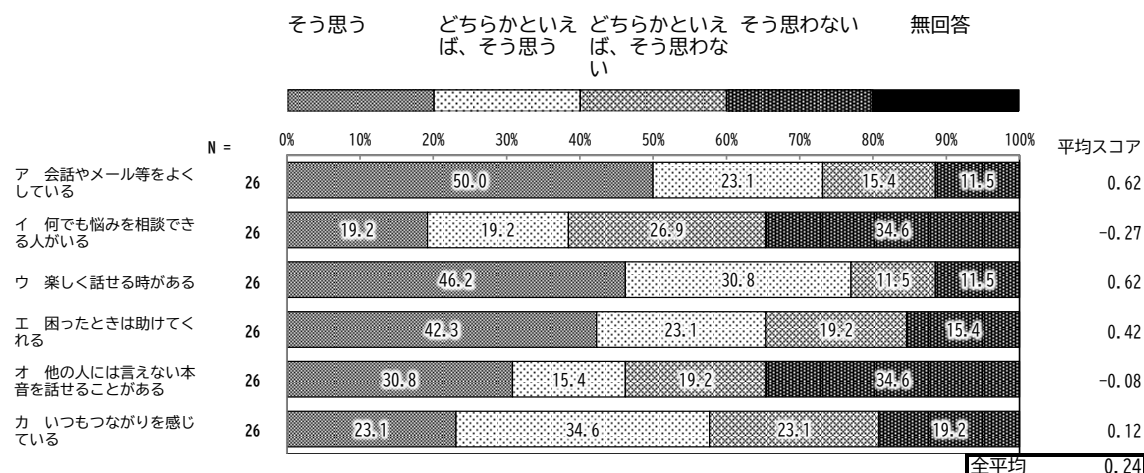


図 17-5

《一般アンケート》

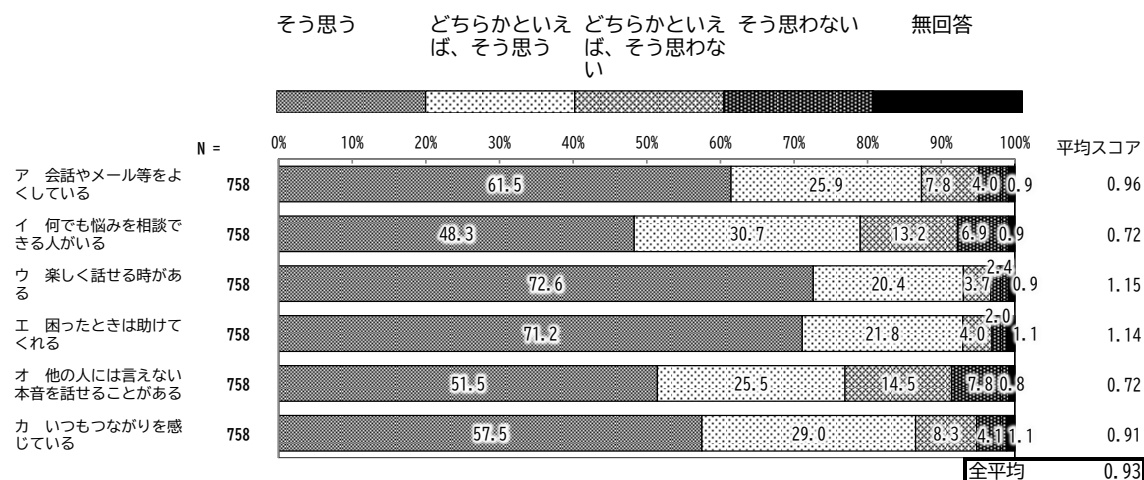


図 17-6

② 学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人

《フラットおおた》

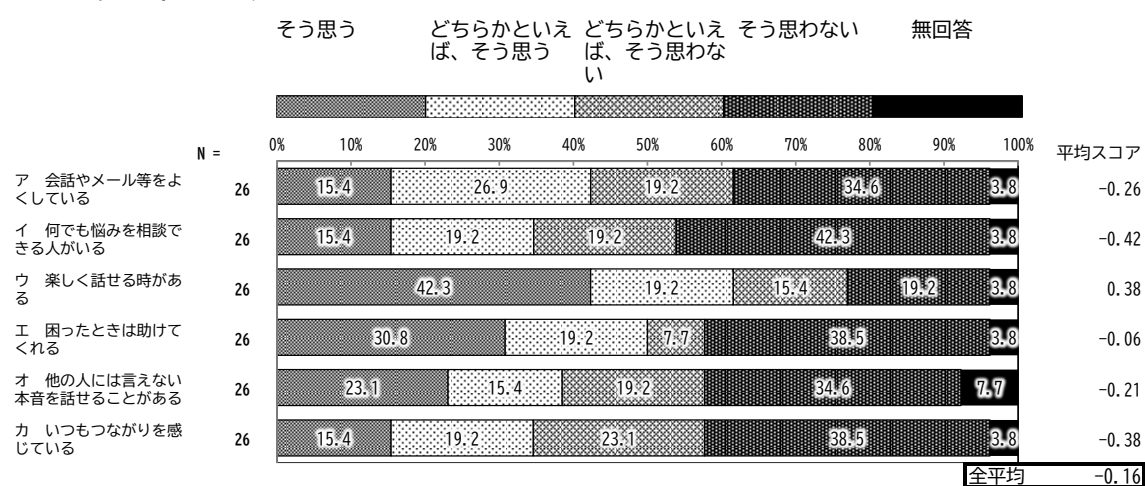


図 17-7

《一般アンケート》

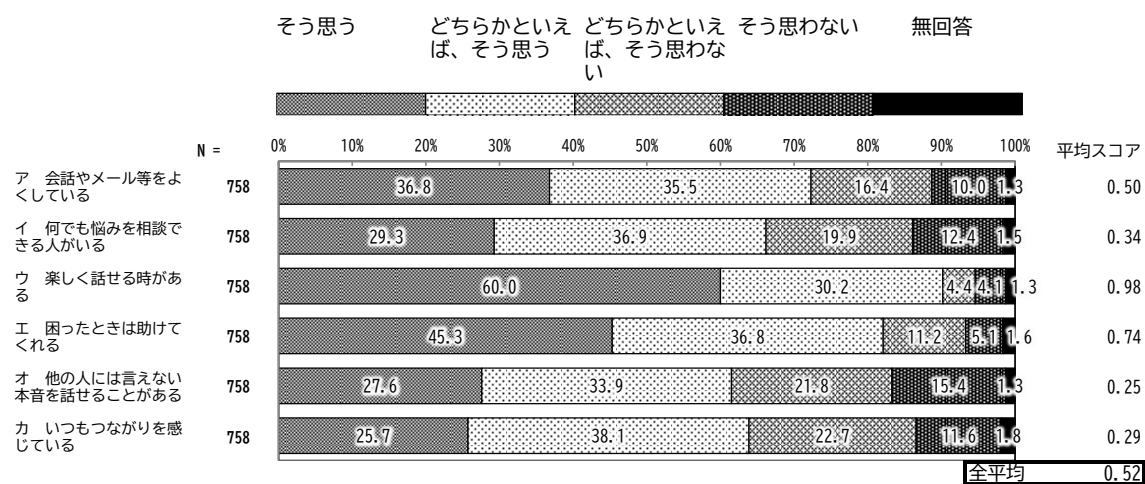


図 17-8

③ 地域の人

《フラットおおた》

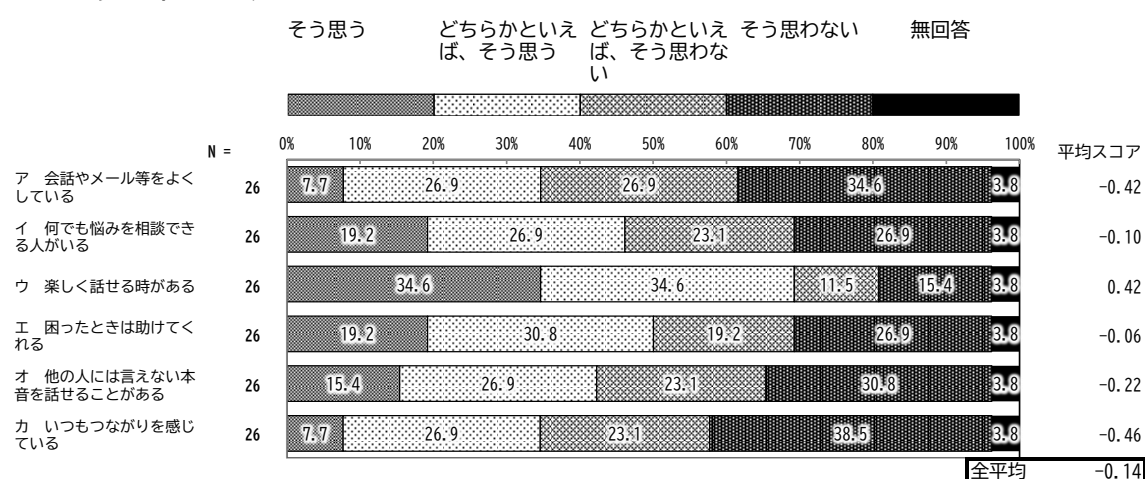


図 17-9

《一般アンケート》

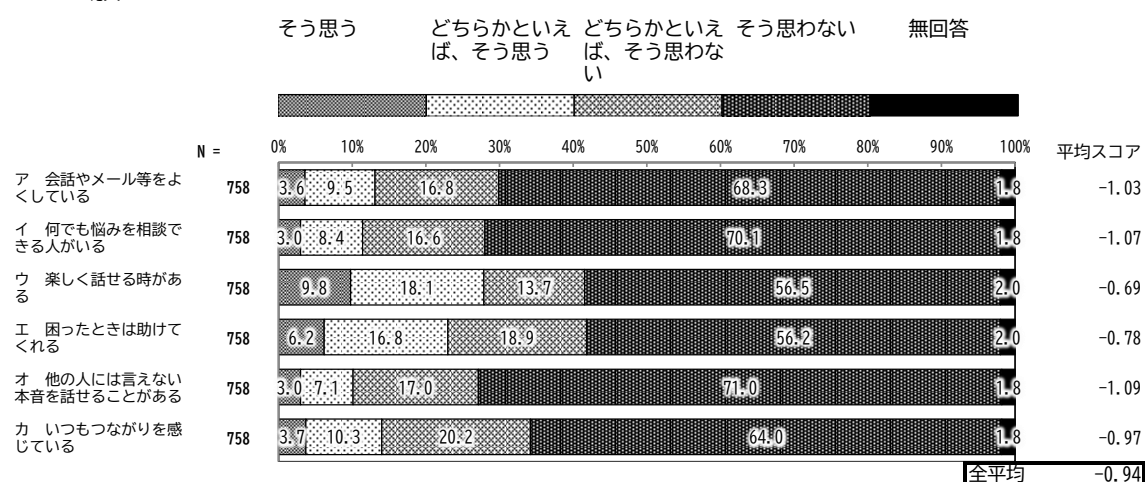


図 17-10

④ インターネット上の人、グループ

《フラットおおた》

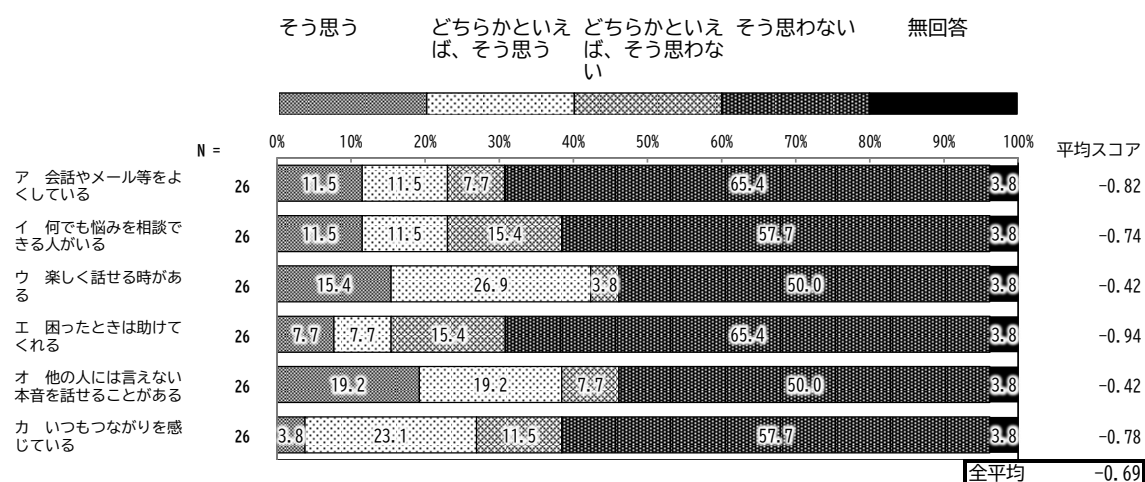


図 17-11

《一般アンケート》

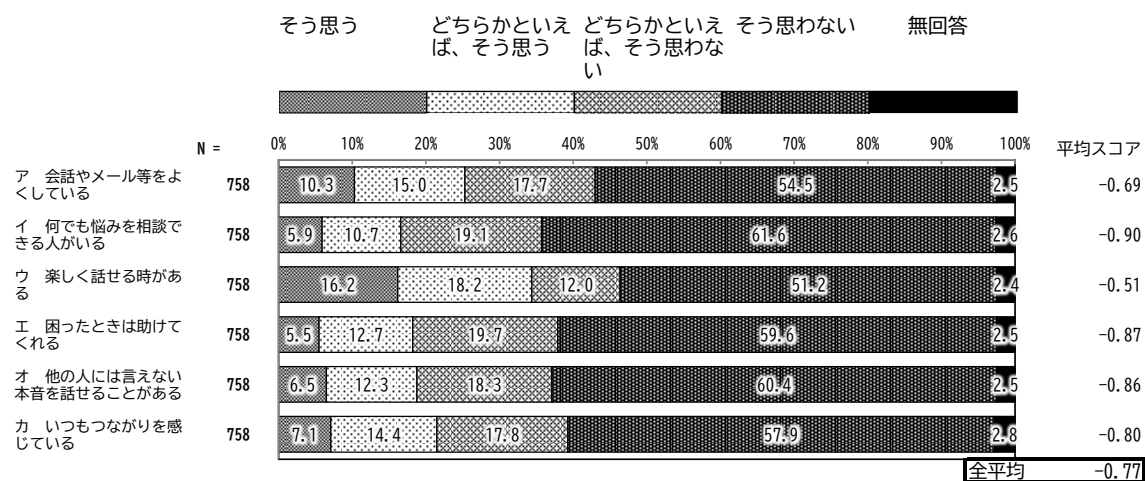


図 17-12

⑤ 趣味や運動で知り合った人

《フラットおおた》

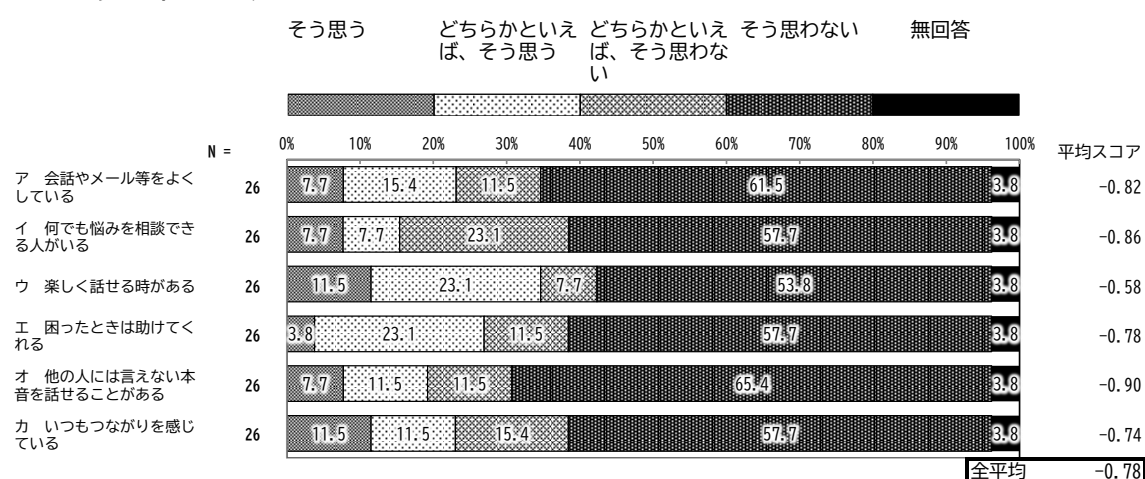


図 17-13

《一般アンケート》

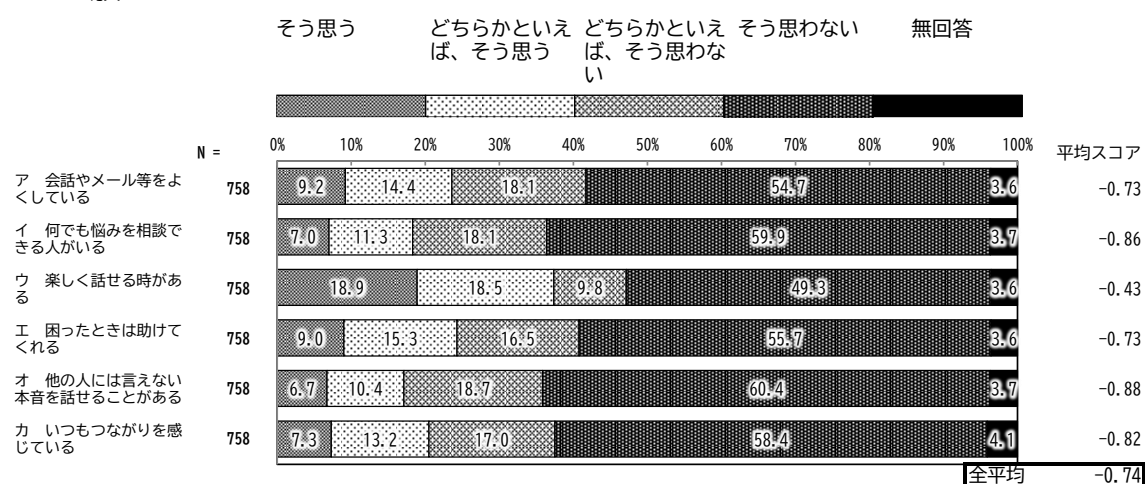


図 17-14

問8 あなたは、将来の自分がどのようになっていると思いますか（単数回答）

一般アンケートに比べて平均スコアが低くなっており、特に結婚に対する将来像の値は非常に低くなっている。一方、「そう思う」という回答だけを見ると一般アンケートとの割合の差は低く、多様な将来像を持つ利用者がいることが分かった。

《フラットおおた》

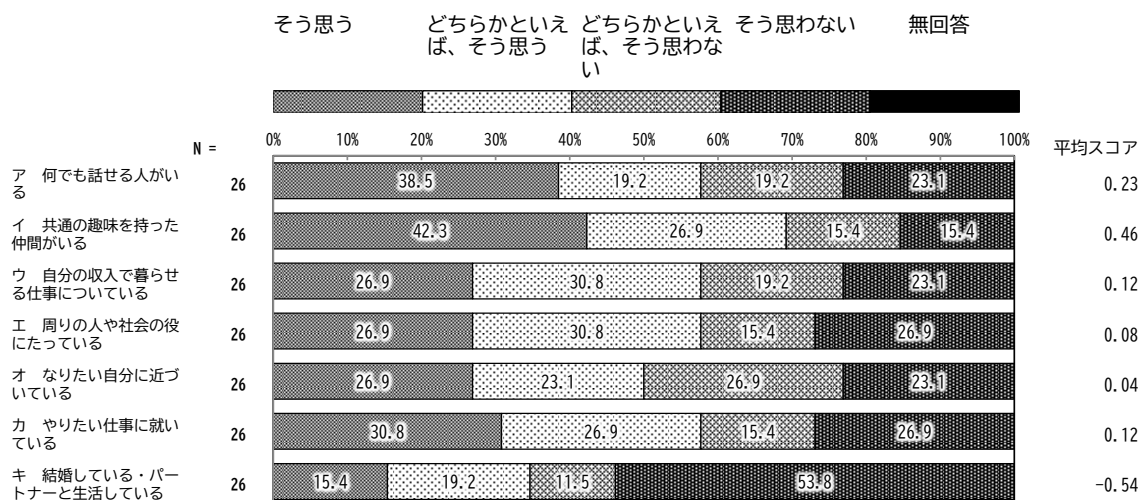


図 17-15

《一般アンケート》

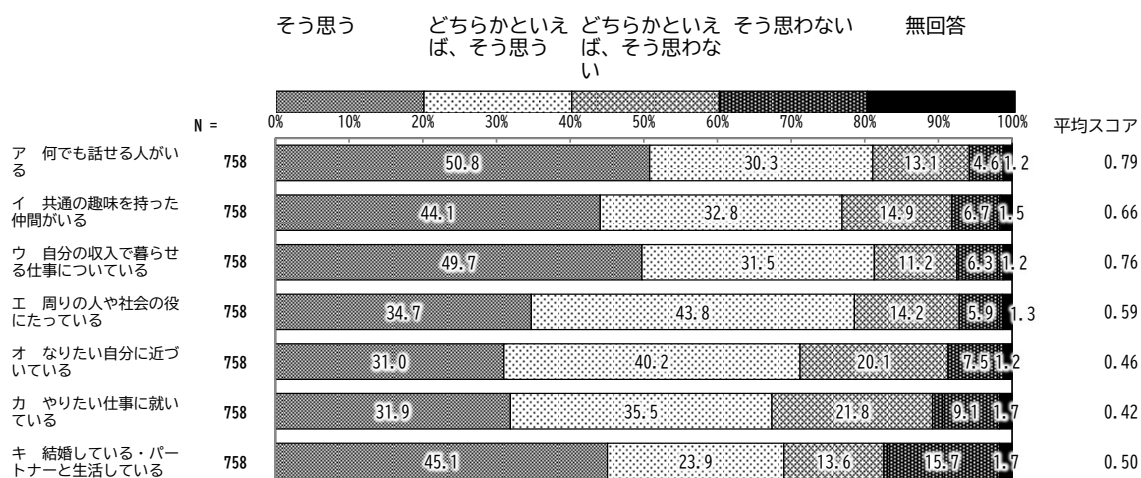


図 17-16

問 9-1 あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますか（複数回答）

ベスト 3 が「お金のこと」、「健康・体力のこと」、「自分の将来のこと」であることは変わらなかった。一般アンケートに比べ 20 ポイント以上高い悩みは、「進学のこと」、「就職のこと」、「健康・体力のこと」であった。

《フラットおおた》

N = 26

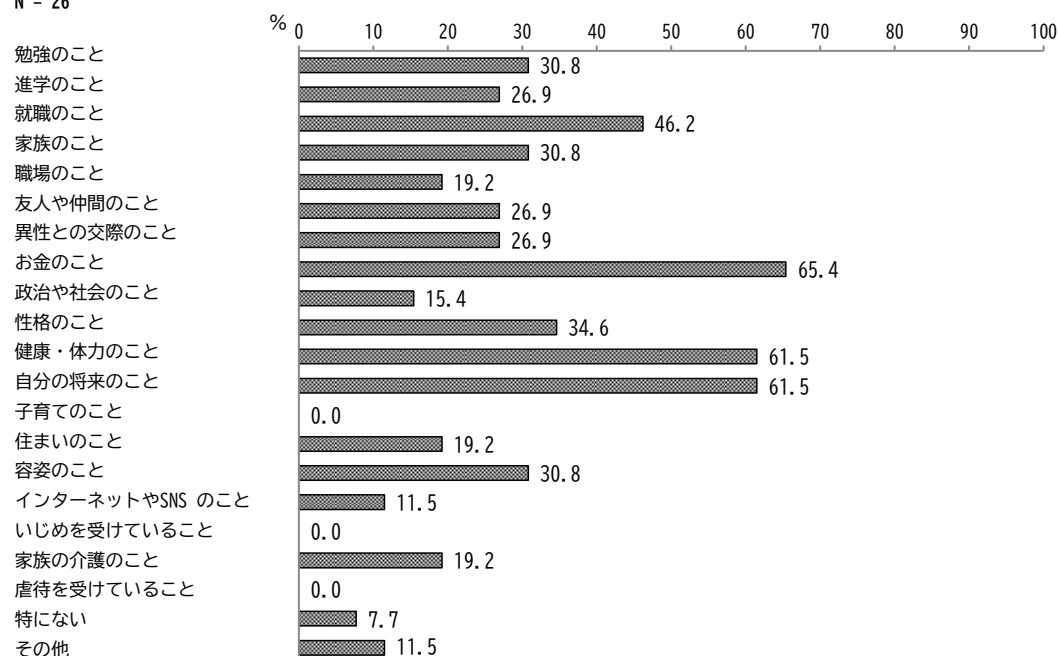


図 17-17

《一般アンケート》

N = 758

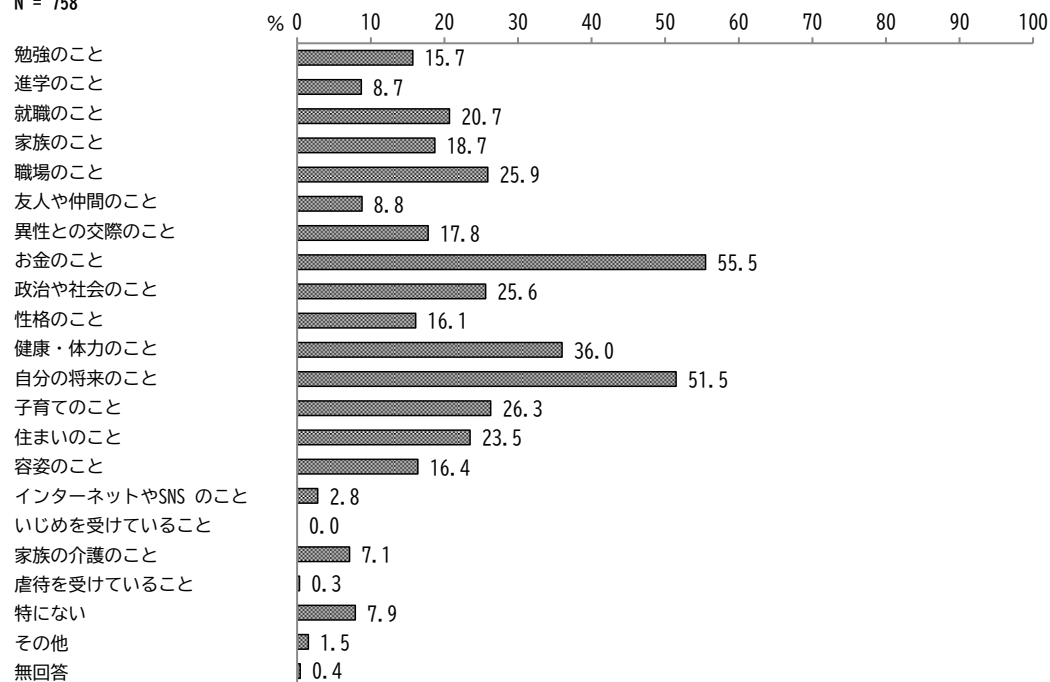


図 17-18

問 9-4 あなたは普段悩み事を誰に相談しますか。(複数回答)

一般アンケートに比べ、「カウンセラー・精神科医」、「NPO など民間の相談機関の人」の割合が非常に高くなった。

《フラットおおた》

N = 24

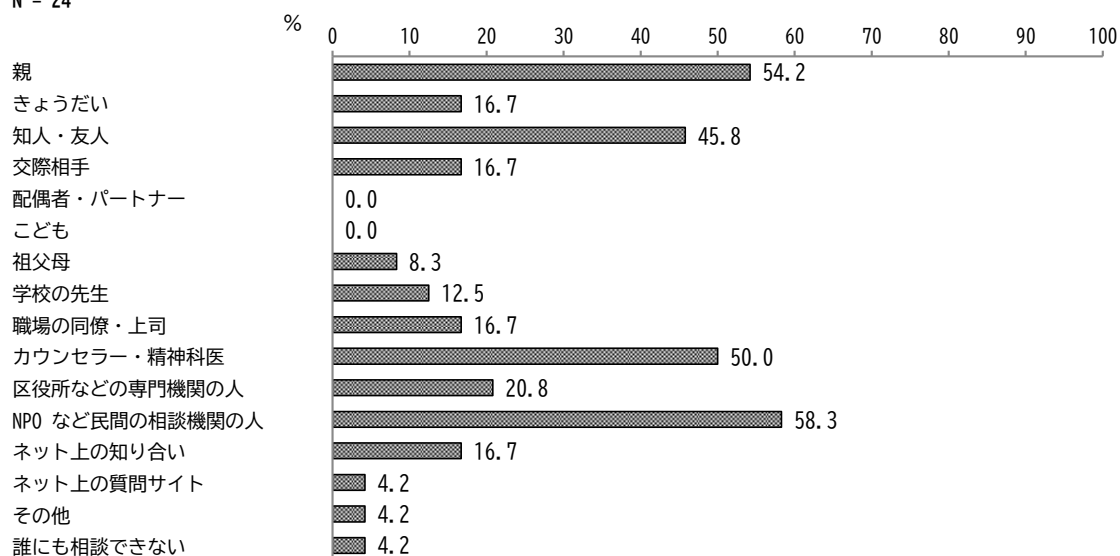


図 17-19

《一般アンケート》

N = 567

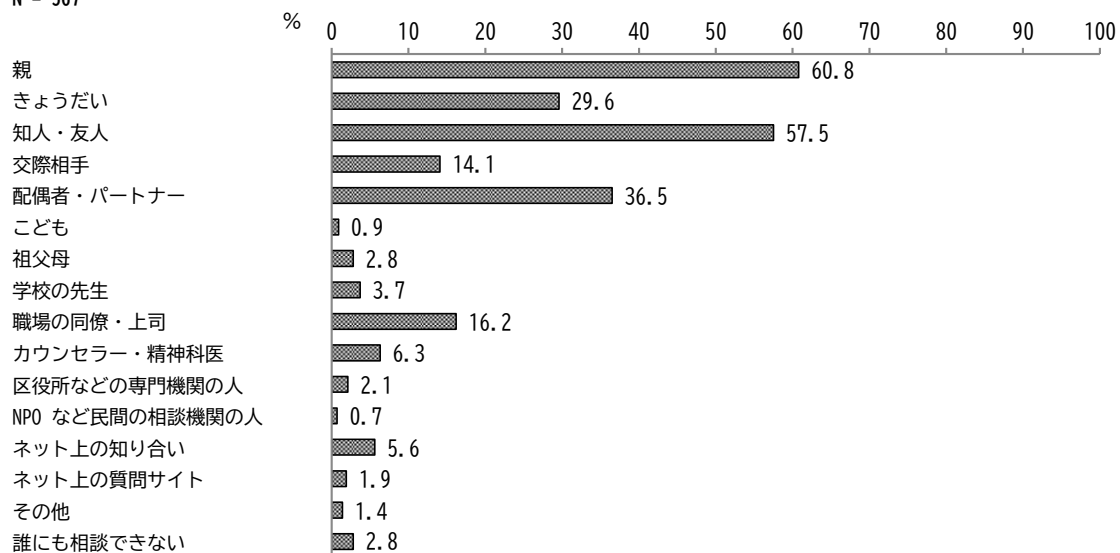


図 17-20

問 10 悩みの相談以外で、若者に対する必要な施策、制度はどのようなものだと思いますか。

「自由に過ごせる場」、「専門家に気軽に相談できる窓口」について必要が7割程度あった。「自分の意見を発表できる機会」、「イベントやボランティアなどの自主的な活動を支援」については倍以上の回答があった。

《フラットおおた》

N = 26

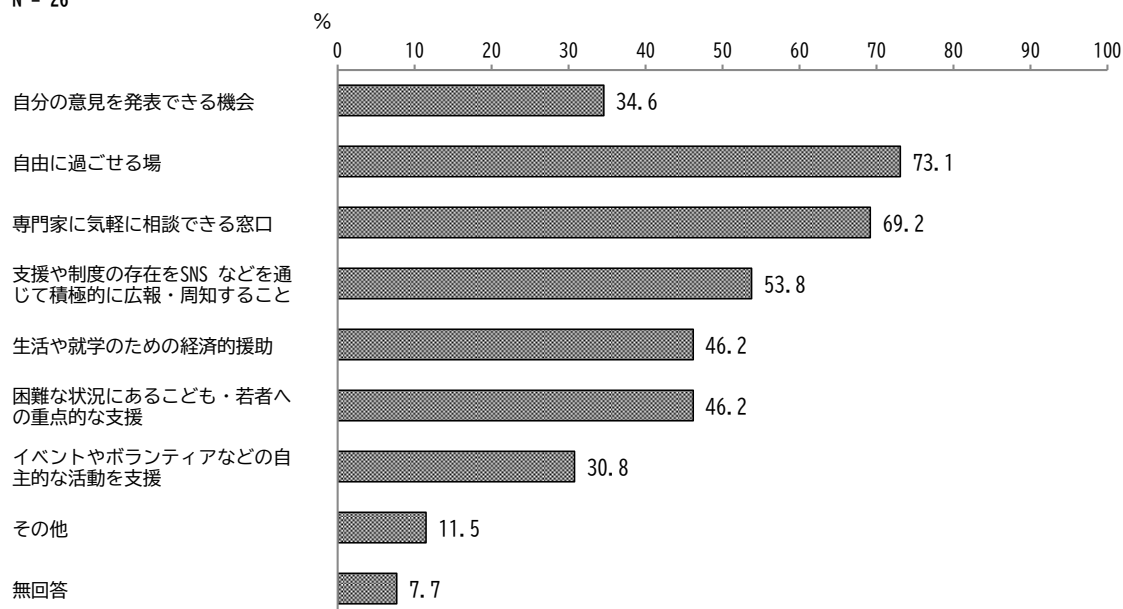


図 17-21

《一般アンケート》

N = 758

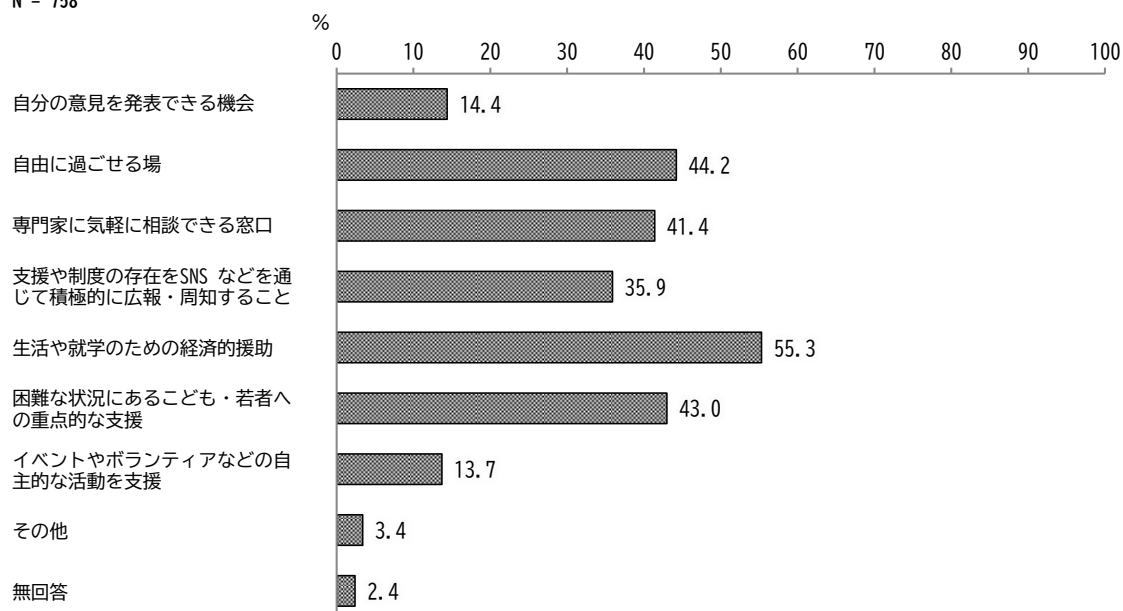


図 17-22

4. 区民意向調査結果

(1) フラットおおたヒアリング

実施日時：12月4日（水）13時30分～15時 参加6名

①自由に過ごせる場について

- ・家から遠いが通っている。大田区は広いのでフラットおおたのような居場所が4つの地域毎にあったほうが良い。駅前のような便利なところがあると良い。
- ・フラットおおたは現状15歳～39歳が対象なので、15歳未満の子ども達も対象としても良いのではないか。いじめに遭っている子とか、親子喧嘩をしている子をよく見かける。
- ・こういう場所があることを知らない人が多いので、知る方法を充実させることが必要。ここを知ったのは品川のフリースペースのチラシで、区内の施設では分らなかった。
- ・15歳以下の子の支援はもちろん重要だが、場所を分けて欲しい。居場所として使わせてもらう時に静かに過ごしたい時もある。フラットおおただと一人になりたいときの環境は十分用意されている。
- ・聴覚過敏で声が苦手。予想外の音でイライラしてしまうからノイズキャンセリングとかを活用しているが、静かな場所があるのは大事。

②相談したい専門家について

- ・大学進学したいとき、塾に行けなくても(入試形式・経済的なこととか)進路相談できる・勉強を教えてくれる場所があると嬉しい。
- ・現状、奨学金はあるが、20代、30代の進学したい人向けの奨学金(経済的制約や、給付型、利子なし等)制度があると嬉しい。
- ・小中学生に安い価格で勉強を教える支援をしていたが、家庭問題や経済格差なしに勉強できる環境があった方がいいのではないか。
- ・ここにもいるが悩みを聞いてくれる人。
- ・就労の相談ができる人、復職じゃなくてスタート支援のようなこと。

③他に必要な場所のイメージ

- ・本が多く新刊もすぐに入れてもらえる図書館が欲しい。飲食ができるスペースがあるような一日中滞在できて居場所になるような図書館が欲しい。イメージは大和市の図書館。
- ・高齢化の進行により、最近タクシードライバーの8割が腰痛に悩まされていると聞いた。老若男女問わず癒されるしストレス解消のためにも、マッサージ屋や腰痛緩和ベルトなどを販売するお店があってもいい。
- ・気持ちの波が激しい時があり、特に落ち込むのは夜が多い。フラットおおたは営業9:00～20:00なので夜に(24時間いつでも)チャットでもいいからすぐに誰かに話を聞いてもらえるようなサービスがあれば安心する。
- ・老人ホームで働いている。介護系の資格は持っているが、ステップアップとして看護師とかの資格を取りたい。働きながら、学校に通って生活が成り立つかが不安でなにかステップアップの支援が欲しい。対人支援職は、人手不足なので社会人からでも目指したい人は多いのではないか。
- ・通信制の大学に通っているが、あまりおもしろくない。通学制に変えたいがお金がかかるからどうにかできないか。年齢的ファクターもあるし、奨学金をかりるのも利子がつくから阻まれる。お菓子作りが好きでパティシエも考えたが、製菓

学校もお金がかかる。お金がなく、考えてはいるが、難しい。親と意見も合わない。

- ・車の免許を取らず学校を卒業してしまって、資格があれば、仕事の幅が広がると考えている。介護職しながら免許取得のお金の問題がすごく大きい。

④自分の意見を発表できる機会、イベントやボランティアなどの自主的な活動の支援について

- ・イベントやボランティアに対してだが、ここでも楽器演奏、歌ったりしている。品川区でも参加したりしたが役所に押し付けられているような気分だった。自分たちで企画してやってみたい。
- ・積極的な性格じゃないから、なにか紹介してもらえればありがたい。自己肯定感が低いから誰かの役に立てていることを実感できるものがあると嬉しい（フラットおおたでもやっているが）。
- ・スポーツについて話す場（フラットおおた、ネット等）があればいい。いろんなコミュニティが欲しい。

⑤自分が区長、都知事になったら？

- ・政策に関する情報がわかりにく過ぎる。ウツとかで認知的機能が低下している時に、必要な情報が何かを選別できない。あなたは一人じゃないというサイトに行っても、結局自治体のサイトに移ってしまい、同じことになる。現状は情報が多く、知りたい内容じゃない無駄な広告なども多すぎてもっと一目でわかるような工夫をして欲しい。ウェブの情報だけでなくまちの掲示板とかに貼るとか目につきやすいような、困っている人はここに！的なのがダイレクトに情報がわかるようなものを作って欲しい。
- ・教育を大事にしたい。田舎にいたから学校の選択肢が少なかったが、東京は沢山あるし、行きたい所に行けると思う。家の差でそういう選択が決まらないようにしたい。専門的な職業支援を受けられる、お金の支援の相談ができる場所を作りたい。ただ、自分自身そういう支援を受けたが、通信制の大学に行きたい、週3回くらいバイトしたいと訴えたがいい対応じゃなかった過去があり、何とかしてほしい。
- ・スマホを変えた時に、契約等の手続きが複雑で機械とかに疎い人たちは大変なのではないかと思った。もっとシンプルにわかりやすくなってほしい。
- ・図書館を中心とした複合施設がほしい。

⑥最後に言いたい事

- ・フラットおおたが日曜日やってないのがさみしい 365 日 24 時間やってほしい、どこかの施設は開いてほしい。
- ・金銭的支援は若者にとってとても大事。
- ・博物館をリニューアルしてほしい。
- ・資格勉強をする場所に困る。図書館改修中なのと開いていても仕事終わりに行こうとすると開館時間に間に合わない。社会人になったから場所が難しくなった。ファミレスとかになるが、勉強禁止の張り紙が貼られるようになった。

(2) こども・若者意見交換会

実施日時：実施日時：12月15日（日）14時～15時30分 参加6名

①地域でのつながりづくり、地域活動の場や居場所の充実

- ・ 困りごと、悩みごとができたとき、相談できる人の顔を思い浮かべることができるとなつながりを感じる安心できる地域社会
- ・ 単身世帯でも気軽に参加できる地域活動や地域のつながりの場の充実
- ・ 地方出身でも地域とのつながりができるイベントの充実（ボランティアとしての参加など）
- ・ 出会いの場
- ・ コミュニティ FM の立ち上げ
- ・ キャリア教育を軸とした地域コミュニティの形成
- ・ 若者のうちに地域で活躍できる居場所がある状態に
- ・ 積極的な層を呼びかけ人を増やす（特に中学～大学）
- ・ 公立の学校でワークショップを実施
- ・ 大田区に住み続けたいと思う体験を小・中・高のうちに整備したい
- ・ 社会参加の機会の創出
- ・ 体験機会を増やす
- ・ 同世代と交流できる場の提供
- ・ フラットおおたが使いにくい所へ移転してしまう…
- ・ フリースペース的居場所→公園、カフェ、図書館、イベントスペース的広場 etc.
- ・ ネット活用した居場所作り（24H）
- ・ 好きな時に気軽に行くことができる場所の提供（話を聞いてもらえるなど）

②若者の課題を解決する仕組みづくり、議論の場や区への提言機会の確保

- ・ <現状> 点→線→面→引っ越し、災害→課題がでてから利用
- ・ <手段> 若者をターゲットとしてアプリケーション開発
- ・ <機能> ○質問箱○地域イベントや意見を届けてポイント獲得○接点を取りながら課題発見につなげる
- ・ 若者で議論できる場を継続的に
- ・ 若者の課題は若者で議論しないとリアルな課題・要望は届きづらい
- ・ こどもによるこどものための協議会→区への意見として提出

③若者が住みやすいまちづくり、治安の向上、定着支援、商業・娯楽施設等の設置

- ・ 企業との連携（もっと若者向けの）
- ・ 選挙時、企業と連携して若者向けに投票特典をつけたらどうか
- ・ 京急と東急で駅周辺のまちづくりに格差がある
- ・ 徳井チャンネルで徳井が飲み歩きしているのを PR に活用
- ・ 目にみえるイメージ
- ・ 犯罪や非行が少なく体感治安のよいまち（コンビニや公園に夜間中高生が溜まらない）
- ・ 治安が気になる
- ・ 一人暮らしの総合サポート（引っ越し、手続き、生活 etc.）
- ・ 東京都版の定着対策
- ・ 商業・娯楽施設等の設置
大型商業施設（特にシネコン）、映画館の設置、ショッピングセンターの設置、ドッグラン（多くの）設置、音楽ができる所

④若者向けの情報発信の充実

- 区の HP がわかりにくいポータルを作っている
- 区の魅力を知ってもらう（紹介、発信、体験）
- 若者課題向けのアプリ・情報発信収集
- 図書館で勉強しようとする混雑。公共施設の自習室開放と情報発信
- 粗大ごみ回収サービス（簡単にもっと便利に）

⑤大田区の特徴を活かしたまちづくり

- 強み（アクセス、外国人多い、昔ながら）
- 大森流通センターから都内各所へ行きやすく
- 環七の交通の便を良くするなど移動の手助け

⑥区有施設の使いやすさの向上

- 人口・広さを活用したイベント施設
- JOBOTA の使いやすさ向上
- PiO や流通センターをもっと利用しやすく
- 公共施設の自習室開放

⑦困難を抱える若者への就労・相談支援

- ハンディをお持ちの方の就労支援（年齢要件の緩和で企業側に特典など）
- ヤングケアラーの支援（頼ることが出来る人や制度）

⑧困難を抱える若者への金銭的な支援

- 家賃の助成
- 資格を受講するための助成
- 奨学金の補助
- ひとり親や兄弟が多い家族への支援（学費など）

5. 調査結果の概要

(1) 自身の状況（問1）

男性 41.0%・女性 57.5%（図 1-1）。年齢構成は 30～35 歳が 25.3%、次いで 25～29 歳が 25.2%だった。一番少ないのは 15～19 歳で 10.9%だった（図 1-2）。家族構成別では最も多いのは「親と同居」で 35.2%だった（図 1-3）。仕事・就学状況では正社員が最も多く 63.1%。学生は 8.2%、中高生は 7.9%であった（図 1-4）。住んでいる地域は大森地域が最も多く 41.2%（図 1-7）。区の在住期間は「1 年以上 5 年未満」が最も多く 33.9%、次いで「生まれた時から住んでいる」が 22.0%だった（図 1-8）。

(2) 生活環境（問 1、5、6、7）

中高生、学生を除く就業経験は、「現在就業している」が 87.5%、「現在就業しているが、休職や休業中である」が 6.1%、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」が 4.9%、「就業経験がない」が 1.0%であった（図 1-6）。問 6 で「ふだんは家にいる」を選択（国が定義するひきこもりの該当要件）し、外出できない何らかの課題のある人は 19 名（2.5%）だった（図 7-1）。

(3) 他者との関係（問4）

他者との関わり方の全平均スコアは「家族」が最も高く 0.93 であった。次いで「学校・職場」が 0.52 となった。全平均スコアが最も低かったのは「地域」で -0.94 だった。他者との関わりと自身の持つ将来像には相関があり、特に「家族」「学校・職場」との関わりが将来像に大きな影響を与えていることが分かった（図 8-12～図 8-32）。

(4) 充実感（問 3-1、3-2）

居場所を「自分の部屋」とする平均スコアは 1.11 と高く、次いで「家庭」が 0.92、「職場」が -0.01、「地域」が -0.05 となった（図 3-1）。年代別でみると、15～19 歳では、「自分の部屋」、「家庭」、「学校」を居場所と考えている割合が高い。他の年代は、「自分の部屋」、「家庭」、「インターネット空間」の順となっており、それ以外についても大きな差は見られなかった。

(5) 自己肯定感（問2）

年齢別の自己肯定感は「15～19 歳」と「30～34 歳」が比較的高く平均スコアが 0.59、0.60 となった。家族構成別にみると「家族と子ども」世帯の平均スコアが 0.65 と高くなり「単身」「夫婦のみ」世帯は低くなった。全体的に見ると、子どものいない世帯では 15～19 歳の若い世代、および、子どものいる世帯で自己肯定感が高くなっている。

(6) 成長・社会的自立（問8）

将来像を問う問 8 で、「結婚している、パートナーと生活している」については 20～24 歳が最も低く 0.17 であった。結婚以外の平均スコアは、「15～19 歳」で 0.93、「20～24 歳」で 0.74、「25～35 歳」で 0.57「35～39 歳」では 0.41 となった。年齢が若ければ若いほど将来への期待が高いことが分かった。

(7) 地域への愛着、関係性（問 12、13）

地域のお祭りや行事・イベントへの参加割合を年代別にみると「15～19 歳」が最も高く 66.3%だった（図 12-3）。また家族構成別では「夫婦と子ども」世帯が 67.1%となった。「単身」世帯は 25.8%だった（図 12-4）。参加したことがない理由は「興味がない（36.8%）」が最も多く、次いで「仕事、学業で忙しい（26.9%）」、「知りたい、参加したいが情報が届いていない（15.6%）」、「プライベートで忙しい（10.8%）」となった（図 13-1）。参加したことがない理由別に自身の将来像を評価したところ「プライベートで忙しい」が最も高く 0.79、「興味がない」が最も低く 0.26 となった（図 13-2～図 13-5）。

(8) 区の青少年事業の認知、参加意欲（問 14）

青少年事業を「全て知らない」割合は「25～29 歳」が最も高く 73.3%、次いで「30～35 歳」が 68.2%となった（図 14-1）。「子どもガーデンパーティー」と「子ども SOS の家」については、「15～19 歳」において「知っている」と回答した割合が高かった。

(9) 権利侵害の状況（問 9-1）

いじめを受けている割合は 0.0%、虐待を受けている割合は 0.3%だった（図 9-1）。

(10) 非行・犯罪（問 11）

トラブルの経験では「迷惑メールを受け取った」が最も多く 70.4%、次いで「インターネットの長時間利用により睡眠不足になった」が 42.0%、「偽・誤情報に遭遇した」が 31.9%となった（図 11-1）。「15～19 歳」は 24.1%が「トラブルの経験はない」と回答した。

(11) 悩みや心配事（問 9-1～問 9-6）

年代別にみると、15～19 歳では「勉強のこと（62.7%）」、20～24 歳では、「自分の将来のこと（65.4%）」、25～39 歳では、「お金のこと」が最も高くなった。各世代に共通する項目は「お金のこと」、「自分の将来のこと」で、その他各年代のライフスタイルに応じたものになった（図 9-3）。「相談したいと思うか」と自身の将来像との関係性を評価したところ、「相談したいと非常に思う」若者の将来像の平均スコアは低くはなかった。「相談したくない（相談しても解決できると思わない等）」と回答した若者の平均スコアは 0.06 と低かった。一方、「相談したくない（自分で解決できる）」の平均スコアは 0.87 と最も高かった（図 9-8～図 9-12）。「相談したい」若者よりも、「相談しても解決できると思わない」、「適切な相談先を知らないから」等の理由で、相談することに消極的な若者をケアする必要があると考えられる。

また、(2)生活環境で何らかの課題があると評価した若者の悩みは「お金のこと」が 78.9%と高く、次いで「就職のこと」68.4%、「自分の将来のこと」63.2%となった（図 7-2）

(12) 求める支援、施策（問 10）

年代別にみると、平均値が最も高い「生活や就学のための経済的援助（55.3%）」、3番目に高い「困難な状況にあるこども・若者への重点的な支援（43.0%）」については年代別に差はなかった。2番目に平均値が高い「自由に過ごせる場（44.2%）」については15～25歳において最も高い割合となった。4番目に高い「専門家に気軽に相談できる窓口（41.4%）」については、25歳以上で高い割合となった。（図 10-2）

(13) 相談支援組織・機関に関する認知（問 16-1、問 16-2、問 16-3）

「知らない」割合が最も少ないのは「大田区立消費者生活センター」（63.9%）、次いで「大田区子ども家庭支援センター（74.1%）」であった。残りの施設は「知らない」が85.0%を超えた。年代別では、年齢層が高くなるほど大田区子ども家庭支援センターの認知度が高くなった。「夫婦と子ども」世帯における大田区子ども家庭支援センターの認知率は高く、「知らない」は、48.5%だった（図 16-1～図 16-10）。また、問 9-2「悩みを相談したいか」別に認知度を評価したところ明確な差はなかった（図 16-11～図 16-13）。

(14) 情報収集、情報把握（問 15）

全体では「そもそも見ない」が最も多く41.7%、次いで「大田区報」27.0%、「区設掲示板」19.1%となった。しかし、家族構成別にみると「夫婦と子ども世帯」では「大田区報」が41.9%、次いで「区設掲示板」が29.9%、「大田区公式HP」が25.1%、「そもそも見ない」が最も低く18.0%となった（図 15-2）。子どもがいることで情報収集の機会が多くなっていると思われる。

(15) 自由回答（問 17）

	件数	主な意見
全般的な意見	10	こども・若者が将来希望を持てる世の中にしてほしい、家庭をもってよかったと思えるサポート、助成関係充実
税金等	46	物価高騰で金銭面辛い。若者の減税、免税
子育て・介護支援	42	出産・子育て支援（保育サービス向上、病児保育、子ども食堂、ヤングケアラー等）
経済的支援（子育て）	35	物価高で家計が圧迫、一人親支援、出産・育児支援等金銭的サポートを望む
経済的支援（生活）	34	現役世代の負担が大きすぎる最低賃金・給与アップ、経済格差の是正
治安	31	治安悪化懸念、防犯がしっかりしたまちづくりを望む、路上喫煙、街灯少ない、こどもが遊べる場所をきれいに
若者の参画	30	若者の政治参加、選挙等十分な知識が得られていない。こども・若者だけでなく幅広い世代の意見を聞くことが大切
若者の居場所	26	若者が集まれる場が少ない、大人になっても勉強できる場、安全な出会いの場、自由に飲食・会話できる場
地域	19	地域コミュニティに入りづらい、会うには抵抗あり、小学校時代の地域交流は地域への愛着につながった、高校生・大学生向けのイベント希望
まちづくり	18	景観、ゴミ散らばり不衛生、無電柱化の推進、駐輪場増
教育	15	学校教室・廊下へ防犯カメラ設置（いじめ抑止）、学力向上、教育の充実、発達障害サポート
行政の情報発信	14	こども・若者のために区がどう取組されているか分からない、インスタ・X・その他SNSでの発信

	件数	主な意見
人権・性・障がい・外国人	13	重複障害への手厚い支援・援助、同性婚実現、パートナーシップ制度の拡充、公文書への英語表記
こどもの居場所	13	小さなこども連れでも気軽に参加できるイベント・カフェ、乳幼児が午後も安心して遊べる場
公園	13	ボールなど道具を使って運動できる場、ペットと過ごしやすい空間、緑を増やして
経済的支援（就学）	12	学生（大学生含む）の医療費免除、大学生への学費支援、大学無償
交通安全	11	自転車の危険運転、ヘルメット着用率低い、マナー悪い
経済的支援（住まい）	10	家賃が高すぎる、家買えない
就学・就労	9	職場体験等プログラム、留学制度支援、リスキリング、生活支援・就労支援
相談の場	9	学校帰りに相談できる場所、気軽に、電話相談窓口
知識の習得	8	お金の勉強（小学生から）、闇バイト等犯罪に巻き込まれない教育
インターネット	4	こどもへの悪影響について対策、トラブル・犯罪が多い
不寛容	3	子連れの親は冷たく当たられる等肩身が狭い
その他	9	特になし等

6. 計画策定の方向性及び深掘する視点

(1) 次期計画策定の方向性

- 調査や聞き取りにより浮かび上がった課題を次期計画に反映させ、施策の充実を図ること
- 「地域活動へ積極的に参画することも・若者」、「特に問題を抱えていないこども・若者」、「問題を抱えているこども・若者」それぞれにアプローチできる計画とすること
- 引き続き、こども・若者の意見や声を聴き、施策に結び付けていくこと

(2) 計画策定時、深掘する視点

①困難を抱えるこども・若者への相談支援体制の充実

年齢が低ければ低いほど、将来へ高い期待を寄せていることから、年齢の低い段階から支援の手をめぐらせ、困ったときに相談できる場や必要な支援につながる体制をより充実させていくことが必要です。特に、「悩みを誰かに相談したいと思わない」、「誰にも相談できない」、「相談したが改善しなかった」方へどのようにアプローチしていくかについては課題であると考えられます。生成 AI 等 ICT の活用も視野に入れつつも、相談者に寄り添った、人としてのあたたかく丁寧な対応は継続して求められています。

②必要とする情報を確実に収集できる環境の整備

家族構成別に分析した結果、「夫婦とこども世帯」は他の構成に比較して、区報や区設掲示板、区公式ホームページを活用し情報収集していることが分かりました。X や Instagram 等 SNS のほか、区報や区設掲示板、区公式ホームページでの情報発信は、引き続き力を入れていく必要があります。また、情報発信の際には、重要な情報がホームページ内の上の階層で表示される工夫をする等、欲しい情報を確実に得られるつくりにするなどの配慮が求められていると考えられます。

③こども・若者が地域と関わり、つながる機会の拡大

「地域との関わりがあるこども・若者」は、将来像が高いという結果が得られたことや、こども若者意見交換会において、つながりを感じる安心できる地域社会を望む声があることから、こども・若者が地域と関われる機会やつながる機会を増やす等の取り組みが必要と考えられます。あわせて、区の特徴や魅力・取り組み内容をこども・若者に発信する等、区への愛着や誇りの醸成につなげていくことが求められています。

④若年層からの防犯意識向上及び犯罪抑止のための周知・啓発

非行・犯罪については、全年齢のうち 15～19 歳が「トラブルの経験はない」と回答した割合が高いことが分かりました。低年齢からの継続した防犯意識向上への取り組みに加えて、犯罪抑止への正しい情報周知・啓発が求められていると考えられます。

⑤こども・若者の意見聴取と施策への反映

区民意向調査での自由意見欄や別途設定したこども・若者意見交換会において、多岐に渡るジャンルからこども・若者の声をいただくことができました。こども・若者から意見を聴く機会は、当事者であるこども・若者の状況や考え方を施策に取り入れていく上で重要であることのみならず、実際に必要とする声もあることから、継続して実施していくことが求められています。

卷末資料 調査票

大田区青少年健全育成のためのアンケート調査

【アンケート調査へご協力をお願いします】

日頃より大田区政へご協力をいただき誠にありがとうございます。
大田区では、こども・若者の育成・支援施策に関する総合指針として「大田区子ども・若者計画」を策定しています。現行の本計画は、令和3年度から7年度までを計画期間とし、本アンケートは、「次期大田区子ども・若者計画」策定に向けた基礎調査として、大田区内の15歳～39歳の若者の皆さま3,000名を無作為に抽出し、普段の様子や思い、区政に対するご意見を伺うものです。
何卒、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

【問い合わせ先】

大田区 地域力推進部 地域力推進課 青少年担当
(電話) 03-5744-1223

回答方法は、以下の2つのうちどちらか

■郵送で回答する場合

①この調査票に回答内容をご記入ください。

②同封の返信用封筒に入れ、お近くのポストに投函してください。切手は不要で

11月20日

■インターネットで回答する場合

スマートフォン等で二次元コードを読みとるか、URL から回答フォームにアクセスし、ご回答ください。



回答期限 11月24日

<https://www16.webcas.net/form/pub/ank/wakamono>

【回答にあたって】

1. このアンケートは、封筒のあて名のご本人が記入してください。問の「あなた」とは、アンケートに回答する人のことです。
2. 答えたくない問いはとばして、答えられる問いにだけ回答してください。
3. お名前を書く必要はなく、個人が特定されることはありません。目的以外に利用されることはありません。
4. ご本人が直接回答することが難しい場合は、家族や介護をする方などが、ご本人の意向を尊重してご回答ください。
5. この調査は、区内の若者の方を対象に無作為に選ばせていただきました。
6. 調査結果につきましては統計的に処理し、回答内容で個人が特定されるようなことは一切ありませんので、率直なご意見、お考えをお聞かせください。

あなたについて お聞きます

問1 あなた自身のことについてご回答ください。(番号に○をつけてください。答えたくない問や該当しない問は回答しなくて構いません:以下同じ)

性別 (1つに○)	1 男 2 女	3 その他 4 答えたくない
年齢 (数字を記入)	() 歳	
同居している方 (すべてに○)	1 父 2 母 3 きょうだい 4 祖父母	5 配偶者・パートナー 6 こども 7 その他の人 8 同居者はいない

あなたの現在の仕事・就学状況(1つに○)	1 中学校・高等学校・高等専門学校 2 専門学校 3 短期大学・大学(予備校生含む) 4 大学院 5 勤めている(正社員) 6 勤めている(契約社員又はパート・アルバイト(学生のアルバイトは除く))	7 自営業・自由業 8 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない 9 専業主婦・主夫 10 無職 11 その他
あなたの就業経験 (パート・アルバイトを含む、1つに○)	1 現在、就業している 2 現在、就業しているが、休職や休業中である	3 現在は就業していないが、過去に就業経験がある 4 これまでに就業経験はない
住んでいる地域(1つに○)	1 大森地域 2 調布地域	3 蒲田地域 4 糀谷・羽田地域
区の在住期間(1つに○)	(1以外で) 1 区に生まれた時から住んでいる 2 1年未満 3 1年以上5年未満 4 5年以上10年未満 5 10年以上20年未満 6 20年以上	

※参考

【大田区地域図】



【おおまかな地域割】

大森地域: 大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿
調布地域: 嶺町、田園調布、鵜の木、久が原、雪谷、千束
蒲田地域: 六郷、矢口、蒲田西、蒲田東
糀谷・羽田地域: 大森中、大森南、糀谷、羽田、萩中

ここから、あなたの日頃の意識と生活、他者とのかかわりについてお聞きします

問2 あなた自身について、次のことがどれくらいあてはまりますか。(それぞれ、1つに○)

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
ア 今の自分が好きだ	1	2	3	4
イ 自分の親(保護者)や家族から大切にされている	1	2	3	4
ウ うまくいくかわからない事も意欲的に取り組む	1	2	3	4
エ 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1	2	3	4
オ 自分自身に満足している	1	2	3	4
カ 自分は役に立たないと感じる	1	2	3	4
キ 自分には長所があると感じている	1	2	3	4

問3-1 次の場所は、今のあなたにとって居場所(ホッとできる場所、居心地の良い場所など)になっていますか。(それぞれ、1つに○)

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	あてはまらない、わからない
ア 自分の部屋	1	2	3	4	5
イ 家庭(実家や親族の家を含む)	1	2	3	4	5
ウ 学校(卒業した学校を含む)	1	2	3	4	5
エ 職場(過去の職場を含む)	1	2	3	4	5
オ 地域(図書館、区民・文化センター、公園などの公共施設)	1	2	3	4	5
カ インターネット空間(SNS、YouTube、オンラインゲームなど)	1	2	3	4	5
キ お店(カラオケ、ゲームセンター、カフェ、漫画喫茶など)	1	2	3	4	5

問3-2 問3の選択肢以外で、あなたが居場所になっていると思うものがあれば、お書きください。(例えば、「恋人や友人と一緒に過ごす空間」など心理的な居場所も含みます)

問4 以下の人たちとあなたのかかわりは、どのようなものですか。(それぞれ、1つに○)

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう 思わない
① 一緒に住んでいる人、家族、親族とあなたのかかわり				
ア 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ 困った時は助けてくれる	1	2	3	4
オ 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ いつもつながりを感じている	1	2	3	4
② 学校で知り合った友人、職場・アルバイト関係の人とあなたのかかわり				
ア 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ 困った時は助けてくれる	1	2	3	4
オ 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ いつもつながりを感じている	1	2	3	4
③ 地域の人(近所の人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など)とあなたのかかわり				
ア 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ 困った時は助けてくれる	1	2	3	4
オ 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ いつもつながりを感じている	1	2	3	4
④ インターネット上における人、グループとあなたのかかわり				
ア 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ 困った時は助けてくれる	1	2	3	4
オ 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ いつもつながりを感じている	1	2	3	4
⑤ 趣味や運動などで知り合った人とあなたのかかわり(地域の人およびインターネット上のものを除く)				
ア 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ 困った時は助けてくれる	1	2	3	4
オ 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問5 授業や就業時間以外の時間では、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1 テレビを見る	6 育児をする	11 その他
2 本を読む	7 介護・看護をする	()
3 ゲームをする	8 家事	
4 勉強をする	9 趣味・スポーツ	
5 仕事をする	10 スマホを利用(選択肢1～9以外のことで)	

問6 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。(1つに○)

1 仕事や学校で平日は毎日、外に出かけている	→問8へ
2 仕事や学校で週に3～4日、外に出かけている	
3 仕事や学校には行かないが、遊びなどでよく外に出かけている	
4 仕事や学校には行かないが、人づきあいのためにときどき外に出かける	
5 ふだんは家にいるが、自分の趣味などの用事のときだけ外に出かける	
6 ふだんは家にいるが、近くのコンビニなどには出かける	
7 自分の部屋からは出るが、家からは出ない	
8 自分の部屋からほとんど出ない	

▶【問6で、5、6、7、8に○をつけた方にお聞きます。】

問7 あなたの外出状況が今ようになった主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 家で仕事や家事などをしている	9 妊娠した
2 学校にうまくなじめなかった	10 退職した
3 学生時代不登校だった	11 家族の看病やお世話をするようになった
4 受験がうまくいかなかった	12 新型コロナウイルスが流行した
5 就職活動がうまくいかなかった	13 その他
6 まわりの人との付き合いがうまくいかなかった	()
7 職場になじめなかった	14 特に理由はない、わからない
8 病気にかかった	

問8 あなたは、将来の自分が、どのようになっていると思いますか。(それぞれ、1つに○)

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう 思わない
ア 何でも話せる人がいる	1	2	3	4
イ 共通の趣味を持った仲間がいる	1	2	3	4
ウ 自分の収入で暮らせる仕事についている	1	2	3	4
エ 周りの人や社会の役にたっている	1	2	3	4
オ なりたい自分に近づいている	1	2	3	4
カ やりたい仕事に就いている	1	2	3	4
キ 結婚している・パートナーと生活している	1	2	3	4

ここから、あなたの悩みや相談ごとについてお聞きします

問9-1 あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 勉強のこと | 12 自分の将来のこと |
| 2 進学のこと | 13 子育てのこと |
| 3 就職のこと | 14 住まいのこと |
| 4 家族のこと | 15 容姿のこと |
| 5 職場のこと | 16 インターネットや SNS のこと |
| 6 友人や仲間のこと | 17 いじめを受けていること |
| 7 異性との交際のこと | 18 家族の介護のこと |
| 8 お金のこと | 19 虐待を受けていること |
| 9 政治や社会のこと | 20 特にない |
| 10 性格のこと | 21 その他 |
| 11 健康・体力のこと | () |

問9-2 あなたは、悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(1つに○)

非常に思う	思う	少し思う	思わない
1	2	3	4

【問9-2で4に○をつけた方にお聞きします】

問9-3 「4 思わない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。(1つに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 自身で解決できるから | 5 個人情報の流出に不安があるから |
| 2 適切な相談先を知らないから | 6 その他 |
| 3 相談したとしても解決すると思えないから | () |
| 4 相談先・相手が信用できないから | → 問10へ |

▶【問9-2で1、2、3に○をつけた方にお聞きします】

問9-4 あなたは普段悩み事を誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 親 | 10 カウンセラー・精神科医 |
| 2 きょうだい | 11 区役所などの専門機関の人 |
| 3 知人・友人 | 12 NPO など民間の相談機関の人 |
| 4 交際相手 | 13 ネット上の知り合い |
| 5 配偶者・パートナー | 14 ネット上の質問サイト |
| 6 こども | 15 その他 |
| 7 祖父母 | () |
| 8 学校の先生 | |
| 9 職場の同僚・上司 | 16 誰にも相談できない |

【問9-4で16に○をつけた方人にお聞きします】

問9-5 「16 誰にも相談できない」と選択した理由をお聞かせください。

問9-6へ(次のページ)

【問9—4で1～15に○をつけた方にお聞きします】

問9-6 相談した結果、改善した経験がありましたか。(1つに○)

かなり改善した	改善した	少し改善した	改善しなかった
1	2	3	4

【すべての方にお聞きします】

問10 悩みの相談以外で、若者に対する必要な施策、制度はどのようなものだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 自分の意見を発表できる機会	6 困難な状況にあることも・若者への重点的な支援
2 自由に過ごせる場	7 イベントやボランティアなどの自主的な活動を支援
3 専門家に気軽に相談できる窓口	8 その他
4 支援や制度の存在を SNS などを通じて積極的に広報・周知すること	()
5 生活や就学のための経済的援助	

問11 あなたは次のようなトラブルの経験はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 迷惑メールを受け取った	11 違法コピーのコンテンツを利用してしまった
2 インターネットの長時間利用により睡眠不足になった	12 人の写真や動画を勝手にアップしてしまった
3 偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した	13 オンライン上の売買でトラブルになった
4 違法・有害情報(そうごう)に遭遇した	14 スマートフォン等のアプリで個人情報が流出した
5 ゲームやアプリでお金を使いすぎた	15 偽・誤情報(フェイクニュース)を SNS 等で拡散してしまった
6 ウイルスに感染した・不正アクセスを受けた	16 その他のトラブル
7 知らない人から誹謗中傷(ひぼうちゅうしょう)を受けた	()
8 SNS で知り合った人物とトラブルになった	
9 いわゆる「闇バイト」の勧誘を受けた	17 トラブルの経験は無い
10 覚せい剤や大麻等、違法薬物使用の勧誘を受けた	

ここから、あなたと地域・行政とのかかわりについてお聞きします

問12 あなたは、地域のお祭りや行事・イベント等にどの程度参加していますか。(1つに○)

良く参加している	ある程度参加している	参加したことはある	参加したことがない
1	2	3	4

【問12で4に○をつけた方にお聞きします】

問13 「4 参加したことがない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|------------------------|-------|
| 1 知りたい、参加したいが情報が届いていない | 5 その他 |
| 2 仕事・学業で忙しい | () |
| 3 プライベートで忙しい | |
| 4 興味がない | |

【すべての方にお聞きします】

問14 下記の青少年事業を知っていますか。(知っているものすべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 Oh!!盛祭 | 6 子ども交歓会 |
| 2 子どもガーデンパーティー | 7 こども SOS の家 |
| 3 リーダー講習会(小学生対象) | 8 全て知らない |
| 4 リーダー講習会(中高生対象) | |
| “ティーンズパワーあっぷセミナー” | |
| 5 リーダー講習会(成人対象) | |

【すべての方にお聞きします】

問15 あなたは区からの情報や地域でのイベント等行政情報をどのような手段で見えていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 大田区公式 HP(ホームページ) | 7 そもそも見ない |
| 2 大田区報 | 8 その他 |
| 3 区設掲示板 | () |
| 4 大田区公式 X(旧 Twitter) | |
| 5 インスタグラム | |
| 6 チラシ | |

問16-1 あなたは、次のア～ケの施設・機関に参加・利用したことがありますか。(1つに○)

	知らない	知っているが、 利用したことはない			利用したことがある
		今後利用したいと思う	今後利用したいと思わない	今後利用したいかわからない	
ア 大田区若者サポートセンター フラットおおた 15～39 歳までの相談支援・居場所事業	1	2	3	4	5
イ 大田区生活再建・就労サポートセンター JOBOTA(ジョボタ) 経済的・精神的な問題、就労などさまざまな課題を抱えた方のための無料相談窓口	1	2	3	4	5
ウ 大田区ひきこもり支援室 SAPOTA(サポタ) ひきこもりの悩みをかかえる本人や家族のための相談室	1	2	3	4	5
エ 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ 障がいのある方全般の相談対応	1	2	3	4	5
オ 大田区立消費者生活センター 商品を購入したりサービスを受けて、トラブルにあったときの相談窓口	1	2	3	4	5
カ 国際都市おおた協会多言語相談窓口 多言語での生活相談窓口	1	2	3	4	5
キ 大田区子ども家庭支援センター 18 歳未満の子どもとその家庭に関する相談窓口	1	2	3	4	5
ク 青少年交流センター ゆいっつ 青少年健全育成活動をはじめ、スポーツ、地域交流、国際交流活動等のための施設	1	2	3	4	5
ケ 中高生ひろば 中高生世代の交流・活動・相談支援のための施設	1	2	3	4	5

【問 16-1 で1つでも3、4に○をつけた方にお聞きします】

問 16-3 へ

問16-2 その理由をお聞かせください。

1 必要がないまたは、対象でないから
2 その他 (理由)

【問 16-1 で1つでも5に○をつけた方にお聞きします】

□ 問16-3 次のア～ケの施設・機関について使った時の感想をお聞かせください。

	満 足	ど ち ら ど も な い	不 満	利 用 し た こ と が 無 い
ア 大田区若者サポートセンター フラットおおた	1	2	3	4
イ 大田区生活再建・就労サポートセンター JOBOTA(ジョボタ)	1	2	3	4
ウ 大田区ひきこもり支援室 SAPOTA(サポタ)	1	2	3	4
エ 大田区立障がい者総合サポートセンタ ーさぽーとぴあ	1	2	3	4
オ 大田区立消費者生活センター	1	2	3	4
カ 国際都市おおた協会多言語相談窓口	1	2	3	4
キ 大田区子ども家庭支援センター	1	2	3	4
ク 青少年交流センター ゆいっつ	1	2	3	4
ケ 中高生ひろば	1	2	3	4

あなたの自由なご意見をお聞かせください

問17 近年子ども・若者の意見を聞き政策に反映していくことが重要視されています。みなさんが今考えていることが知りたいです。社会や区に求めることはありますか。思っている意見や考えなどを教えてください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました

次期大田区子ども・若者計画策定に向けた区民意向調査報告書

作成日：令和 7 年 3 月

大田区 地域力推進部 地域力推進課 青少年担当

〒144-8621 東京都大田区蒲田 5-13-14

TEL 03 - 5744 - 1223